山梨県韮崎市

後田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1989

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

後田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1989

韮崎市教育委員会
峡北土地改良事務所

序　　文

韮崎市は、全国的にも有名な坂井遺跡をはじめ埋蔵文化財の宝庫として、県内に知られております。とくに近年の県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査されて、市民はもとより県内外の一般の方々・研究諸氏の注目を集めております。例えば、県営圃場整備事業にともない昭和60年度に発掘調査された中道遺跡では、出土した縄文時代晩期の土器片から最近になって籾痕のついたものがみつかり、この土器からさらにプラント・オパールが検出されたことにより、東国における弥生文化の波及を考える上で貴重な発見となり、考古学・歴史学研究者はもちろんのこと、ひろく一般の人々の関心を呼んでおります。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として昭和63年度県営圃場整備事業に伴い発掘調査された、後田遺跡の報告であります。後田遺跡からは、縄文時代中期の竪穴住居址・配石遺構、縄文代後期の土偶、古墳時代の竪穴住居址、奈良・平安時代の竪穴住居址などが発見され、貴重な資料が得られました。これらの資料が、古代の人々の社会生活の解明の一助となればと願うと同時に、永く後世に伝えることを責務と痛感致します。

最後に、今回の調査並びに報告書作成に当たり、多大なる御理解と御協力を頂いた、関係の諸機関及び皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成元年3月31日

韮崎市教育委員会

教育長　功刀幸丸

例　　言

1　本書は、県営圃場整備事業に伴う後田遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韮崎市教育委員会が実施した。

3　本報告書の作成は、韮崎市教育委員会社会教育課が行い、山下孝司が担当した。

4　遺物・図面整理及び報告書作成にかかわる業務の参加・協力者（敬称略）

山寺保子・深沢真知子・藤巻郁子・石原ひろみ・木下大三・櫛原功一

5　凡　　例

①　挿図中のドットは焼土をあらわす。

②　挿図断面図の　は石をあらわす。

③　縮尺は各挿図ごとに示した。

④　歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。

6　中空土偶の断面観察に際しては、X線による内部観察を実施し、国立歴史民俗博物館教授田口勇先生の御協力をいただいた。

7　発掘調査及び報告書作成に当たり、次の方々から御指導・御協力をいただいた。厚く御礼を申し上げる次第である。（敬称略）

新津健・米田明訓・古谷健一郎（山梨県教育庁文化課）、森和敏・末木健・坂本美夫・八巻与志夫・中山誠二（山梨県埋蔵文化財センター）、田口勇・設楽博己（国立歴史民俗博物館）、鈴木稔・河西学・平野修・櫛原功一（帝京大学山梨文化財研究所）、山路恭之助（須玉町教育委員会）、畑大介（甲斐丘陵考古学研究会）、原正人（山梨郷土研究会）、山形真理子（東京大学大学院）、伊藤正幸（甲府市教育委員会）、シン航空写真株式会社

8　発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調 査 組 織

1　調査主体　　韮崎市教育委員会

2　調査担当　　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加者

岡本嘉一・小田切絹枝・鈴木きく江・乙黒きくゑ・小沢高恵・小沢千代子・小沢春代・岡本保枝・長島昌子・小沢久江・志村冴子・小沢みやの・小沢栄子・守屋敏子・五味ゆき子・山寺保子・深沢真知子・藤巻郁子・石原ひろみ・古屋勝・貝瀬洋志・伊東千代美

4　事 務 局　　韮崎市教育委員会社会教育課

教育長　功刀幸丸、課長　成島主計、課長補佐　真壁静夫、係長　雨宮勝己・野沢可祝

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿図目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯と概要 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　遺跡の立地
2　周辺の遺跡

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 3

Ⅳ　調査の方法 …… 3

Ⅴ　遺　　構 …… 6

1　縄文時代
2　古墳時代
3　奈良・平安時代
4　その他の遺構

Ⅵ　遺　　物 …… 29

1　縄文時代
2　古墳時代
3　奈良・平安時代

Ⅶ　ま　と　め …… 78

おわりに …… 80

写真図版

挿　図　目　次

第１図　後田遺跡①と周辺遺跡 …… 2
第２図　後田遺跡位置図 …… 4
第３図　後田遺跡全体図 …… 5
第４図　Ｂ区１号住居址・埋甕 …… 7
第５図　Ｂ区２号住居址 …… 8
第６図　Ｂ区２号住居址埋甕・炉 …… 8
第７図　Ｂ区３号住居址 …… 9
第８図　Ｂ区３号住居址炉・埋甕 …… 10
第９図　Ｃ区１号集石土坑 …… 10
第10図　Ｃ区１号配石遺構 …… 11
第11図　Ｃ区２号配石遺構 …… 16
第12図　Ｃ区２号配石遺構
エレベーション図 …… 13
第13図　Ｃ区４号住居址 …… 14
第14図　Ｃ区５号住居址 …… 15
第15図　Ａ区１号住居址 …… 16
第16図　Ｃ区１号住居址・カマド …… 17
第17図　Ｃ区２号住居址・カマド …… 18
第18図　Ｃ区３号住居址・カマド …… 19
第19図　Ｃ区６号住居址 …… 20
第20図　Ｃ区掘立柱建物址 …… 21
第21図　Ｄ区１号住居址 …… 22
第22図　Ｄ区２号住居址 …… 23
第23図　Ｄ区３号住居址 …… 24
第24図　Ｄ区４号住居址・５号住居址 … 25
第25図　Ｄ区６号住居址 …… 27
第26図　Ｃ区　土坑群 …… 28
第27図　Ｃ区　溝 …… 28
第28図　Ｂ区１号住居址出土遺物 …… 35
第29図　Ｂ区２号住居址出土遺物 …… 36
第30図　Ｂ区２号住居址出土遺物 …… 37
第31図　Ｂ区３号住居址出土遺物 …… 38
第32図　Ｃ区１号集石土坑出土遺物 …… 39
第33図　Ｃ区１号配石遺構出土遺物 …… 39
第34図　Ｃ区１号配石遺構出土遺物 …… 40
第35図　Ｃ区１号配石遺構出土遺物 …… 41
第36図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 …… 42
第37図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 … 43
第38図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 …… 44
第39図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 …… 45
第40図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 …… 46
第41図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 …… 47
第42図　Ｃ区２号配石遺構出土遺物 …… 48
第43図　Ｂ区遺構外出土遺物 …… 49
第44図　Ｂ区遺構外出土遺物 …… 50
第45図　Ｃ区Ｂ－11グリッド出土遺物 … 51
第46図　Ｃ区Ｂ－11グリッド出土遺物 … 52
第47図　Ｃ区Ｂ－11グリッド出土遺物 … 53
第48図　Ｃ区４号住居址出土遺物 …… 56
第49図　Ｃ区５号住居址出土遺物 …… 56
第50図　Ｃ区５号住居址出土遺物 …… 57
第51図　Ａ区１号住居址出土遺物 …… 64
第52図　Ｃ区１号住居址出土遺物 …… 65
第53図　Ｃ区１号住居址出土遺物 …… 66
第54図　Ｃ区２号住居址出土遺物 …… 66
第55図　Ｃ区２号住居址出土遺物 …… 67
第56図　Ｃ区３号住居址出土遺物 …… 67
第57図　Ｃ区６号住居址出土遺物 …… 67
第58図　Ｃ区６号住居址出土遺物 …… 68
第59図　Ｃ区幻の７号住居址出土遺物 … 69
第60図　Ｄ区１号住居址出土遺物 …… 69
第61図　Ｄ区２号住居址出土遺物 …… 70
第62図　Ｄ区２号住居址出土遺物 …… 71
第63図　Ｄ区３号住居址出土遺物 …… 71
第64図　Ｄ区３号住居址出土遺物 …… 72
第65図　Ｄ区４号住居址出土遺物 …… 73
第66図　Ｄ区５号住居址出土遺物 …… 74
第67図　Ｄ区６号住居址出土遺物 …… 74
第68図　Ｄ区６号住居址出土遺物 …… 75
第69図　Ａ区遺構外出土遺物 …… 76
第70図　Ａ区遺構外出土遺物 …… 77
第71図　Ｃ区２号配石遺構埋甕
出土位置図 …… 79
第72図　Ｃ区遺構外出土円面硯 …… 80

写　真　図　版　目　次

図版１　後田遺跡遠景・Ｂ区１号住居址・Ｂ区２号住居址

図版２　Ｂ区３号住居址・Ｃ区１号集石土坑・Ｃ区１号配石遺構

図版３　調査風景・Ｃ区２号配石遺構・測量風景

図版４　Ｃ区４号住居址・Ｃ区５号住居址・Ａ区１号住居址

図版５　Ｃ区１号住居址・Ｃ区２号住居址・Ｃ区３号住居址

図版６　Ｃ区６号住居址・Ｃ区掘立柱建物址・Ｃ区溝・土坑群

図版７　Ｄ区１号住居址・Ｄ区２号住居址・Ｄ区３号住居址

図版８　Ｄ区４号住居址・Ｄ区５号住居址・Ｄ区６号住居址

図版９　Ｂ区１号・Ｂ区２号・Ｂ区３号住居址出土遺物

図版10　Ｃ区１号集石土坑・Ｃ区１号・Ｃ区２号配石遺構出土遺物

図版11　Ｃ区２号配石遺構出土遺物

図版12　Ｂ区遺構外出土遺物・Ｃ区Ｂ－11グリッド出土遺物

図版13　Ｃ区４号・Ｃ区５号住居址出土遺物

図版14　Ｃ区１号・Ｃ区２号・Ｃ区６号住居址出土遺物

図版15　Ｃ区幻の７号・Ｄ区１号・Ｄ区２号・Ｄ区３号・Ｄ区４号住居址出土遺物

図版16　Ｄ区５号・Ｄ区６号住居址出土遺物・Ａ区遺構外出土遺物・Ｃ区遺構外出土円面硯

Ⅰ　調査に至る経緯と概要

昭和63年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では韮崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を昭和62年度に試掘調査を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁文化課・市教育委員会で協議を行い、遺跡名を後田遺跡とし、圃場整備事業に先立って延面積約5000㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、昭和63年4月より開始し、約5カ月半行った。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成元年3月であった。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

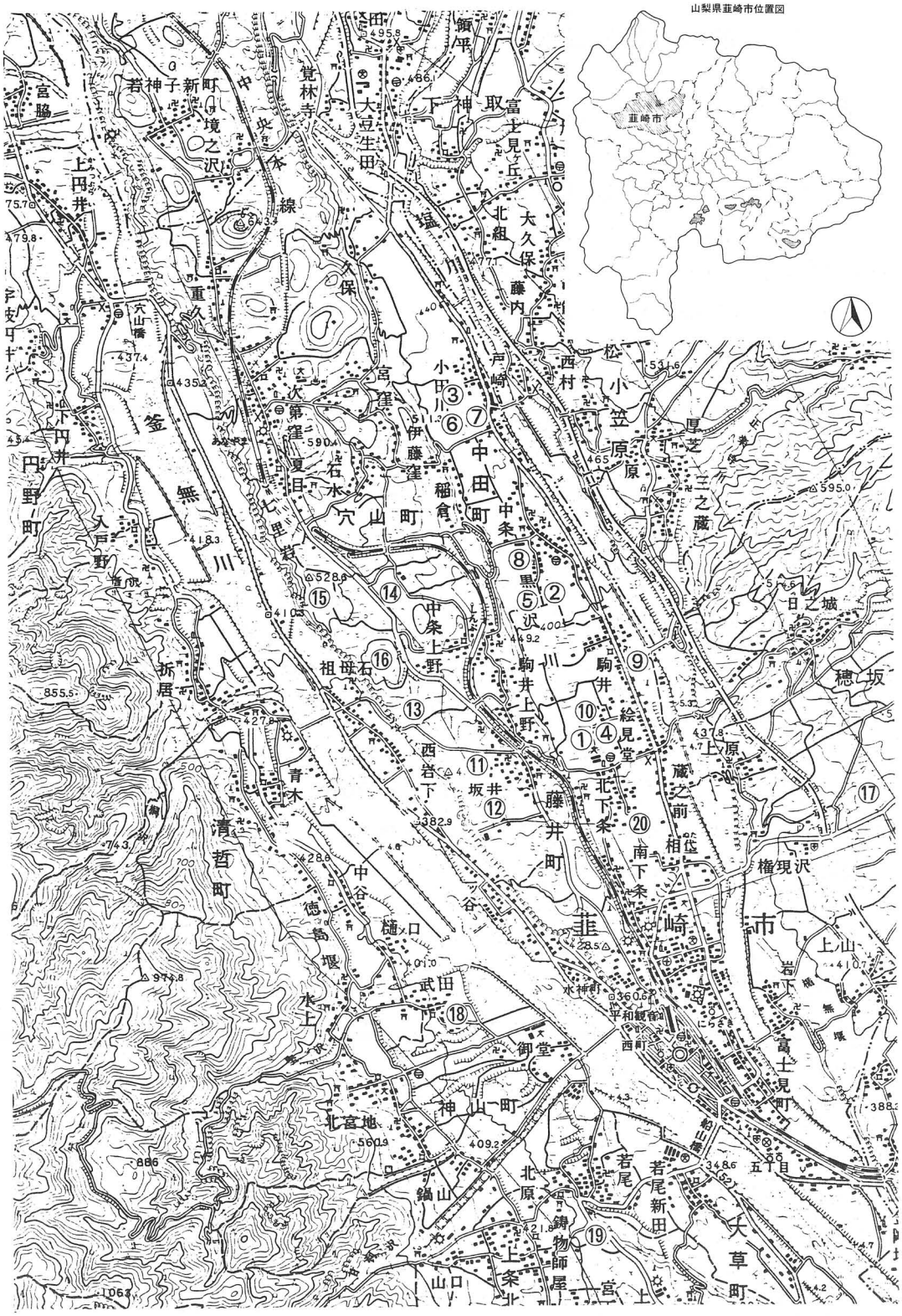
1　遺跡の立地

後田遺跡は、山梨県韮崎市藤井町坂井字後田地内に所在した。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。塩川右岸の氾濫原は、塩川の浸食によって造られた茅ケ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性平地で、通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯となっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高地上に遺跡が点在しており、後田遺跡は標高約385mの水田下に発見された。

2　周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
①	後　田　遺　跡	縄文・古墳・奈良・平安	昭和63年度 韮崎市教育委員会調査
②	前　田　遺　跡	平安	昭和62年度 韮崎市教育委員会調査
③	中 本 田 遺 跡	縄文	昭和61年度 韮崎市教育委員会調査
④	堂 の 前 遺 跡	弥生・奈良・平安	昭和61年度 韮崎市教育委員会調査
⑤	金　山　遺　跡	中世～近世	昭和60年度 韮崎市教育委員会調査
⑥	中　道　遺　跡	縄文晩期・平安	昭和60年度 韮崎市教育委員会調査



第１図　後田遺跡①と周辺遺跡　（1：50,000）

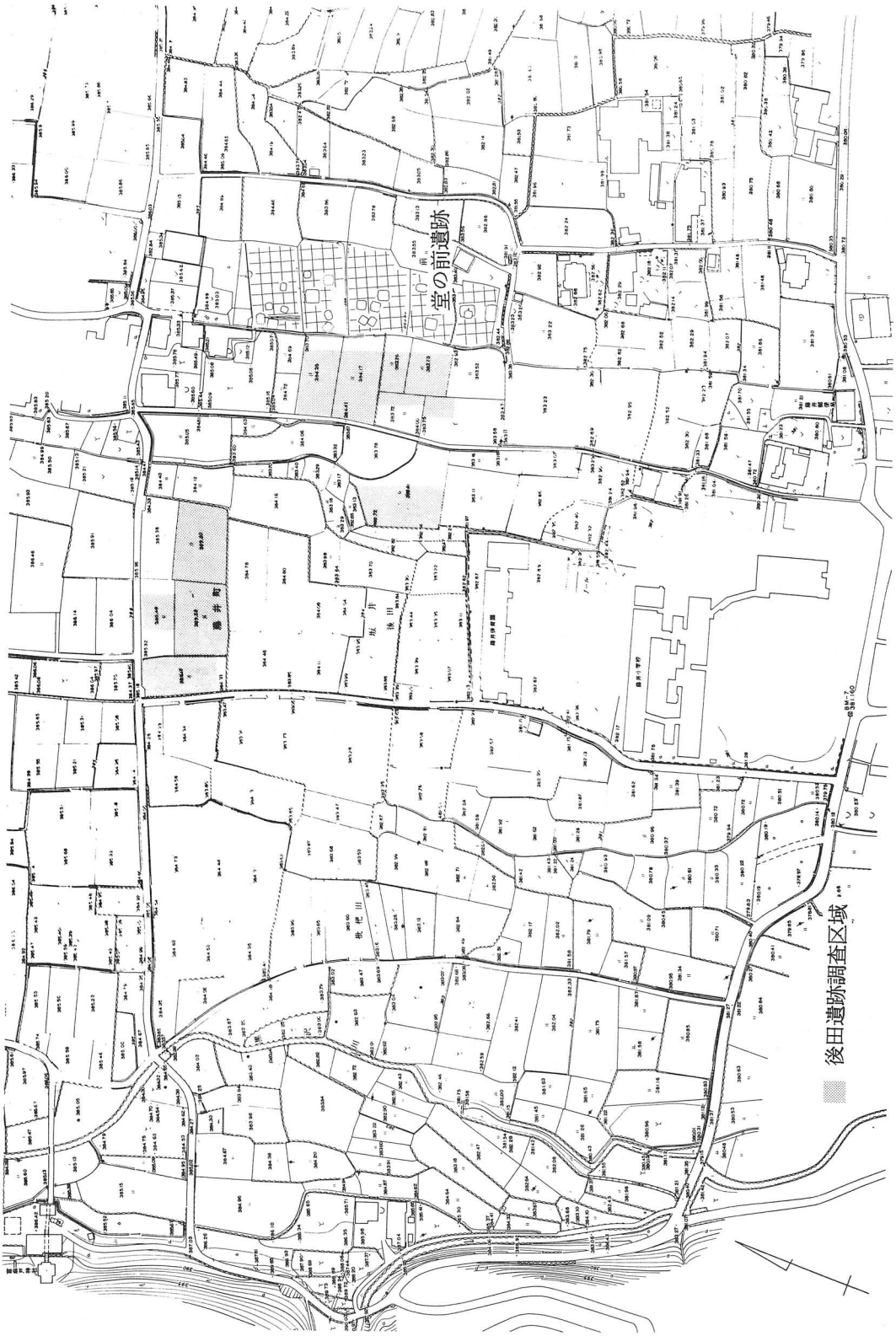
番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
⑦	下木戸遺跡	平安	
⑧	中田小学校遺跡	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度 韮崎市教育委員会調査
⑨	駒井遺跡	平安	昭和60年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑩	宮ノ前遺跡	縄文・平安	
⑪	坂井遺跡	縄文前期～晩期	志村滝蔵『坂井』地方書院 昭和40年
⑫	坂井南遺跡	古墳前期・平安	昭和60年度 韮崎市教育委員会第３次調査
⑬	天神前遺跡	縄文	
⑭	中条上野１遺跡	縄文	
⑮	中条上野２遺跡	縄文	
⑯	新府城跡	中世城郭	国指定史跡
⑰	女夫石遺跡	縄文	
⑱	武田信義館跡	中世	
⑲	久保屋敷遺跡	古墳前期	昭和58年度 山梨県埋蔵文化財センター調査
⑳	北下条遺跡	弥生・平安	昭和57年度 韮崎市教育委員会調査

Ⅲ　遺跡の地相概観

後田遺跡は、藤井小学校から200ｍ程北及び北東側の、日当りの良い微高地で、北東側と南東側に集落が形成されている。遺跡の東側は、昭和61年度に発掘調査された堂の前遺跡があったところで、現在は圃場整備された水田となっている。西側は緩やかに傾斜し低地となっている。調査区域Ｃ区において土層を観察すると、上位から下位に耕作土・水田床土・暗褐色土～黒褐色土の順に堆積がみられる。遺構は黒褐色土層中に掘り込まれていた。

Ⅳ　調査の方法

調査区域が比較的広範囲に散在しているため、便宜上Ａ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区に分けて調査を行った。表土を排除した後，地形等を考慮し任意に５ｍグリットを設定。Ｂ区は西から東へＡ～Ｃ、北から南へ０～６、Ｃ区は南から北へＡ～Ｈ、東から西へ０～12と番号をつけ、Ａ区・Ｄ区は省略した。鋤簾等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物は出るが遺構の確認困難な箇所はグリットの掘り下げを行い調査を実施した。



第2図　後田遺跡位置図　（1：3,000）

第３図　後田遺跡全体図　（1：1,250）

V 遺　　構

調査の結果発見された遺構は、縄文時代中期の竪穴住居址３軒・集石土坑１基・配石遺構２基、古墳時代の竪穴住居址２軒、奈良・平安時代の竪穴住居址12軒・掘立柱建物址１棟・溝１基、その他土坑などとなっている。以下、時代を追って遺構についてみていこう。

1　縄文時代

＜B区１号住居址＞　（第４図）

調査区域西端Ｂ区Ａ－２・３域に位置する。グリッド掘り下げに際して床面及び炉石を検出し住居址と確認する。平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径４～4.4 *m*を測る。壁高は高いところで30 *cm*前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がるが、北半分は削平が著しく、東側は２号住居址と重複しており明瞭ではなかった。床面は平坦。柱穴は確認されなかった。炉は住居址中心部から北によったところにあり、規模は約40 *cm*四方で床面からの深さ20 *cm*を測る。石囲い炉であるが、西と北側のみ石があった。埋甕は南東側にあり、正位に設置されるが胴部下半は欠損していた。

＜B区２号住居址＞　（第５・６図）

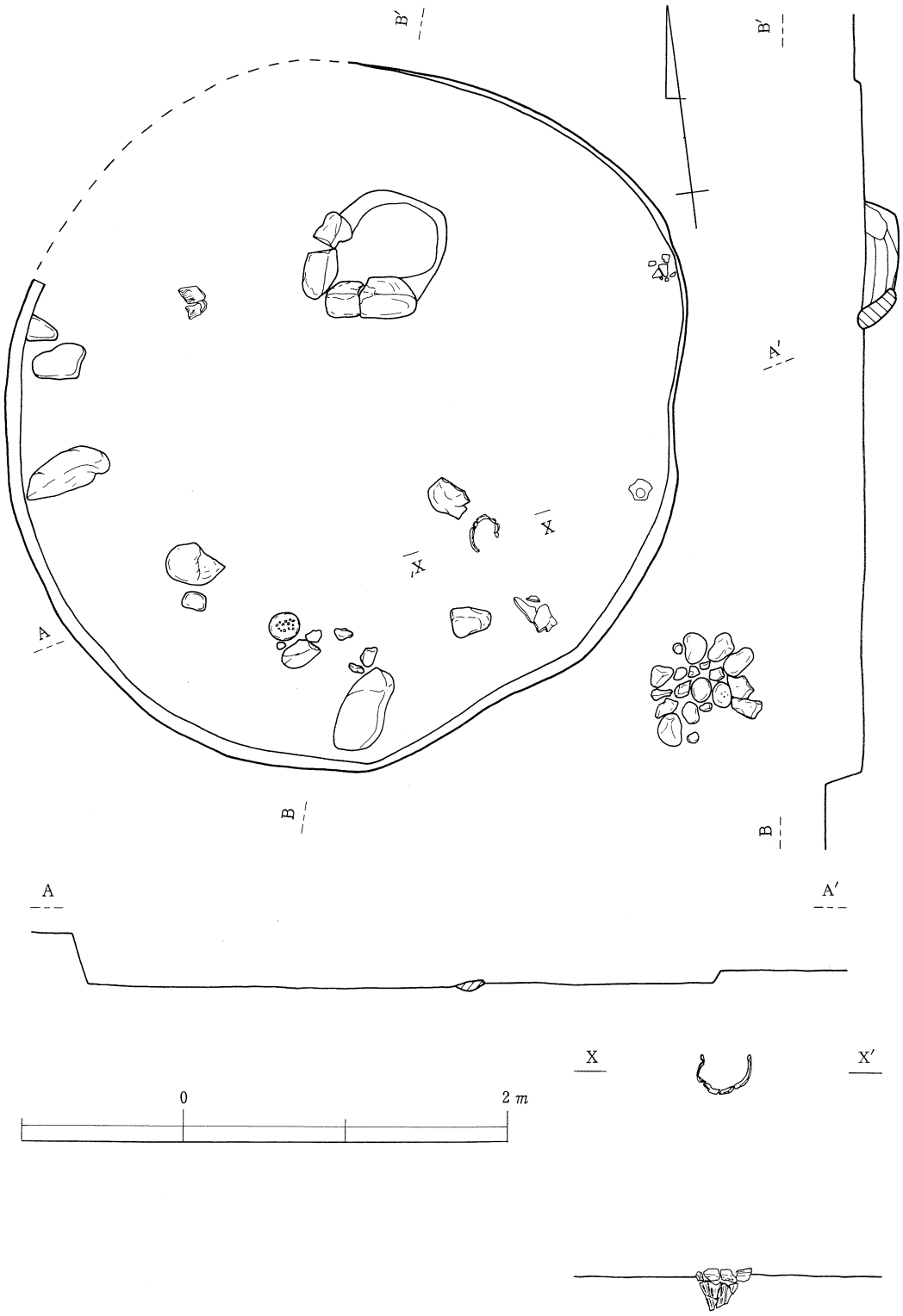
調査区域西端Ｂ区Ｂ－２・３域に位置する。グリッド掘り下げに際して暗褐色の落ち込みと炉石を発見、さらに床面を検出し住居址として調査する。平面形は不整円形を呈する。規模は直径約4.5 *m*を測る。壁高は高いところで30 *cm*前後を測る。壁はやや外傾し立ち上がるが、北半分は削平が著しく、西側は１号住居址と重複しており明瞭ではなかった。床面はほぼ平坦。柱穴は５本検出され、床面からの深さは20 *cm*前後を測る。炉はほぼ90×90 *cm*四方床面からの深さ約35 *cm*の石囲い炉で、住居址内北よりに構築される。本炉は底に大型の深鉢の破片を敷き詰めてあった。埋甕は南側壁際にあり、偏平な石で二方を囲み、逆位で口縁部と底部が欠かれ石が載せてあった。

＜B区３号住居址＞　（第７・８図）

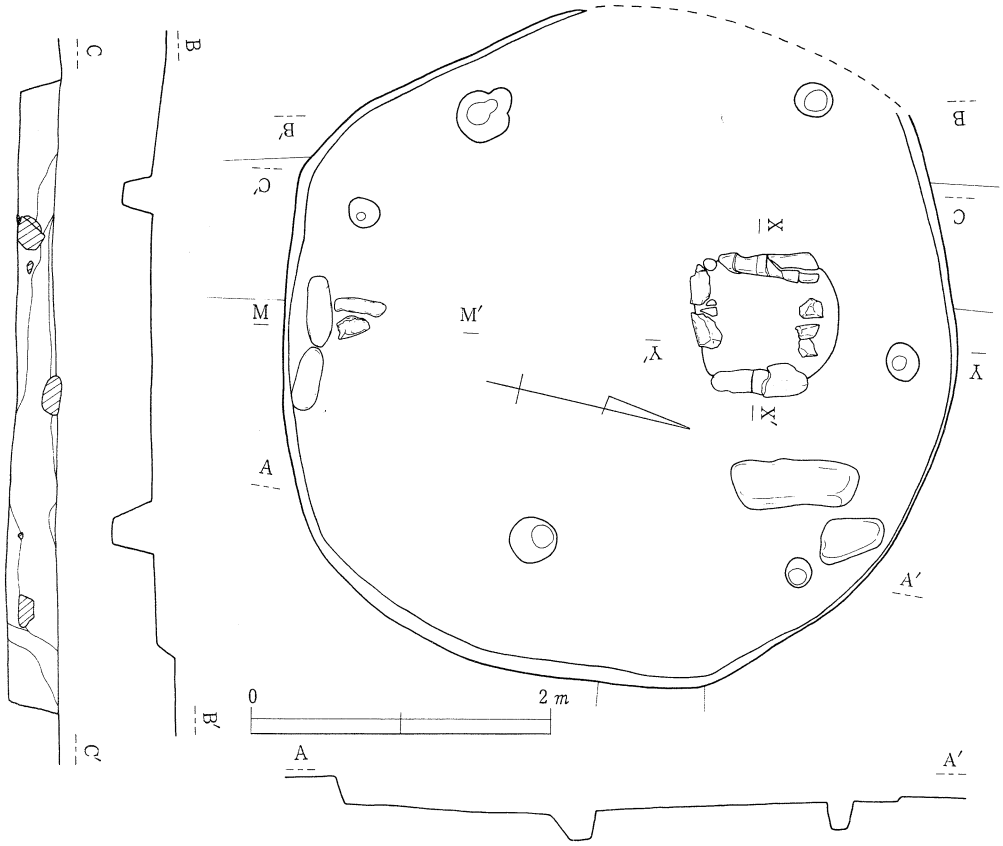
調査区域西端Ｂ区Ｃ－３域に位置する。グリッド掘り下げに際して暗褐色の落ち込みと炉石を発見、さらに床面を検出し住居址として調査する。平面形は不整円形を呈する。規模は東西約4.7*m*、南北約4.3 *m*を測る。壁高は高いところで約35 *cm*を測る。壁はやや外傾して立ち上がる。床面は中央部がやや高い。柱穴は５本、床面からの深さは30～15 *cm*と不揃いとなっている。南西の柱穴内側には直径約65 *cm*深さ約７*cm*程の土坑がある。炉は東西約１*m*、南北約80 *cm*、床面からの深さ約55*cm*の石囲い炉で、住居址内北よりに構築される。本炉は底に大型の深鉢の破片を敷き詰めてあった。埋甕は南側壁際にあり、正位に置かれ底部を欠損、近くに偏平な石がある。

＜C区１号集石土坑＞　（第９図）

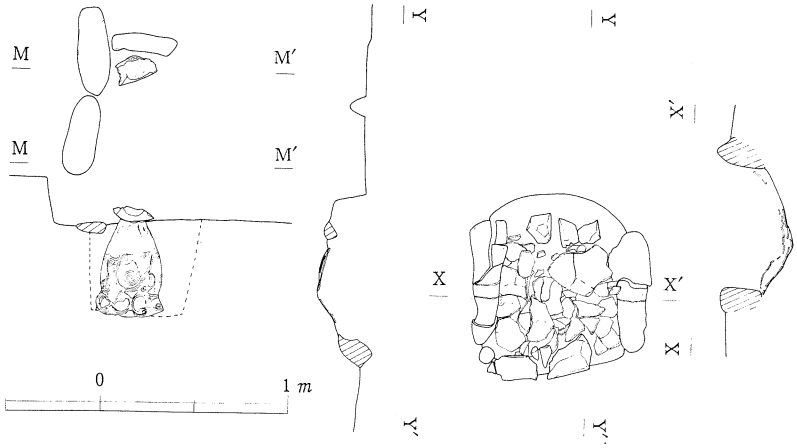
調査区域東端Ｃ区Ａ－１・２域に位置する。排土作業に際して石の集まりを確認し、精査の結果土坑を検出する。土坑の平面形態は楕円形に近く、東西約60*cm*、南北約53*cm*、確認面からの深



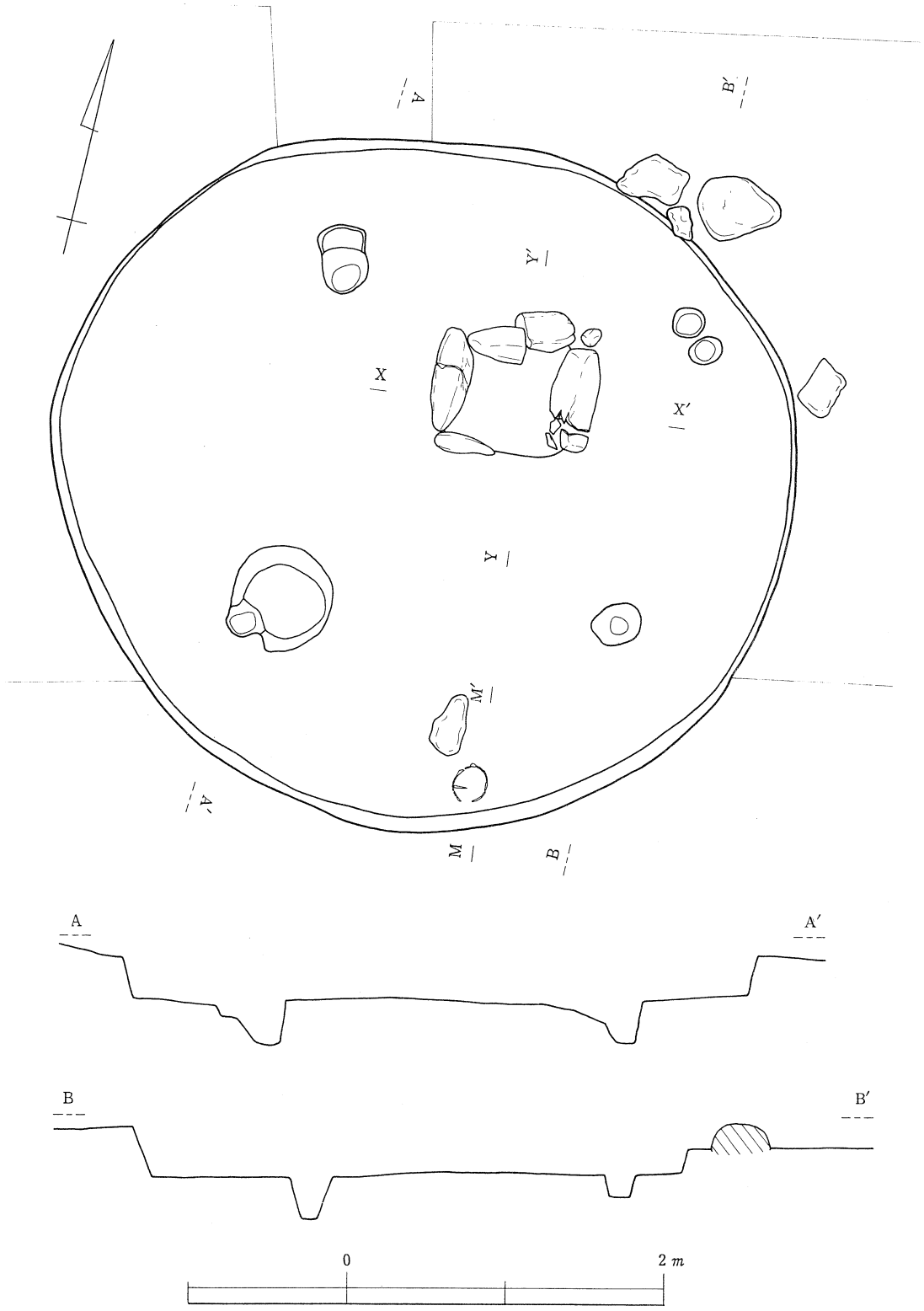
第4図　B区1号住居址（1／40）・埋甕（1／20）



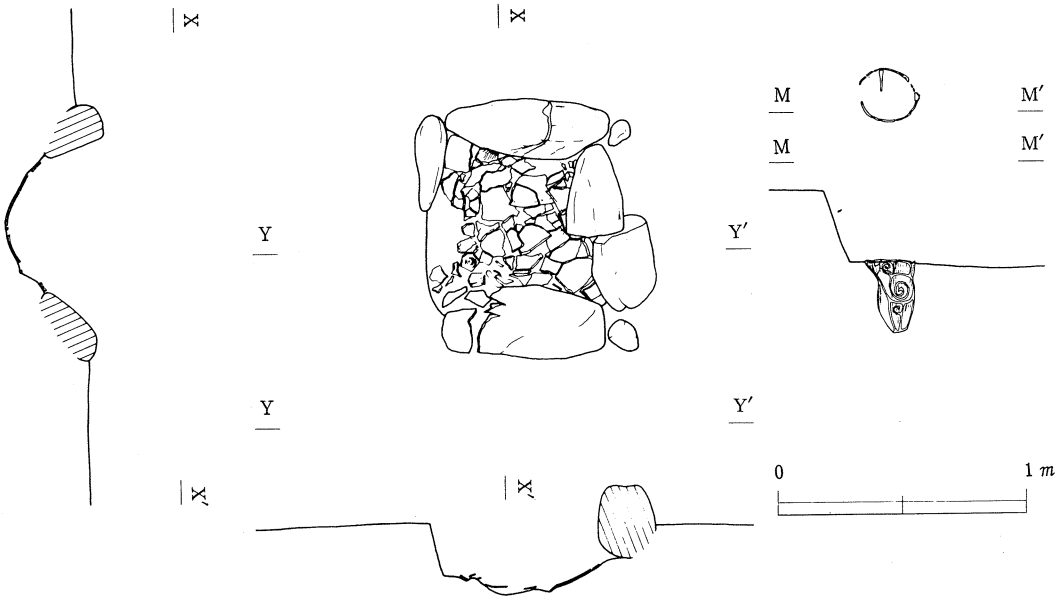
第5図　B区2号住居址（1／40）



第6図　B区2号住居址埋甕・炉（1／30）

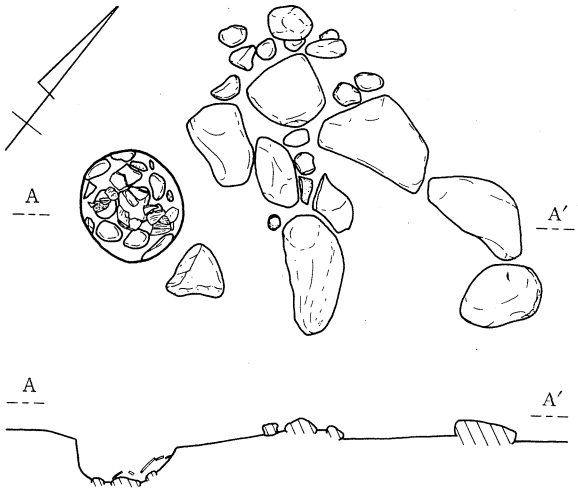


第7図　B区3号住居址（1／40）



第8図　B区3号住居址炉・埋甕（1／30）

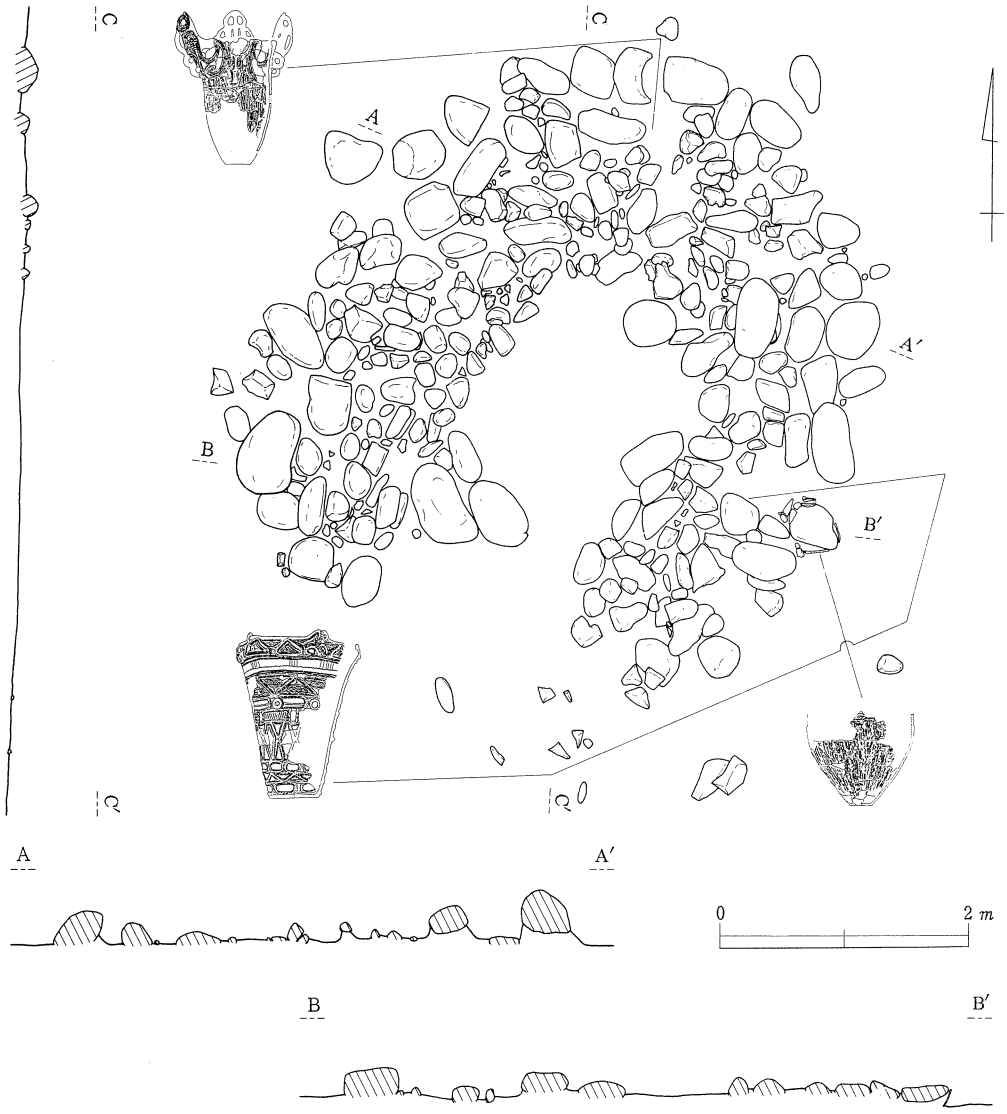
さ約25cmを測る。本土坑は断面ほぼ半円形で、底には、長さ15cm前後の比較的平らな石が敷き詰めてあった。土坑の北西側には、50cm前後の偏平なものを主体に、その他15cm前後～人頭大の石のまとまりがみられる。本遺構の性格等は不明であるが、土坑内からは、深鉢形土器の破片が出土しており、また、石のまとまりからは、土坑に近いところから頭部などを欠損した石棒が出土している。



第9図　C区1号集石土坑（1／40）

＜C区1号配石遺構＞　（第10図）

調査区域中央D－5・6域に位置する。排土作業に際して石が検出され、グリッドを掘り下げて石の範囲を確認した。石は直径約5.5mの円形の範囲にまとまっており、中央に1.5m四方程の空間をもち、南西側は石のつながりがみられず口があいたように開く「C」字形の形態を呈している。円内側の空間地は平坦であるが、床面にみられるような踏み固めた面はない。また、周辺にはピット等の遺構は確認されなかった。使用されている石は、C区1号集石土坑・C区2号配石遺構にみられるような平たいものは少なく、20cm前後～人頭大のものと50～70cm前後代の大きなものがみられる。本遺構からは石棒・土偶等の特殊な遺物の出土はなく、遺構の性格などの詳細はあきらかではないが、3カ所で石の下

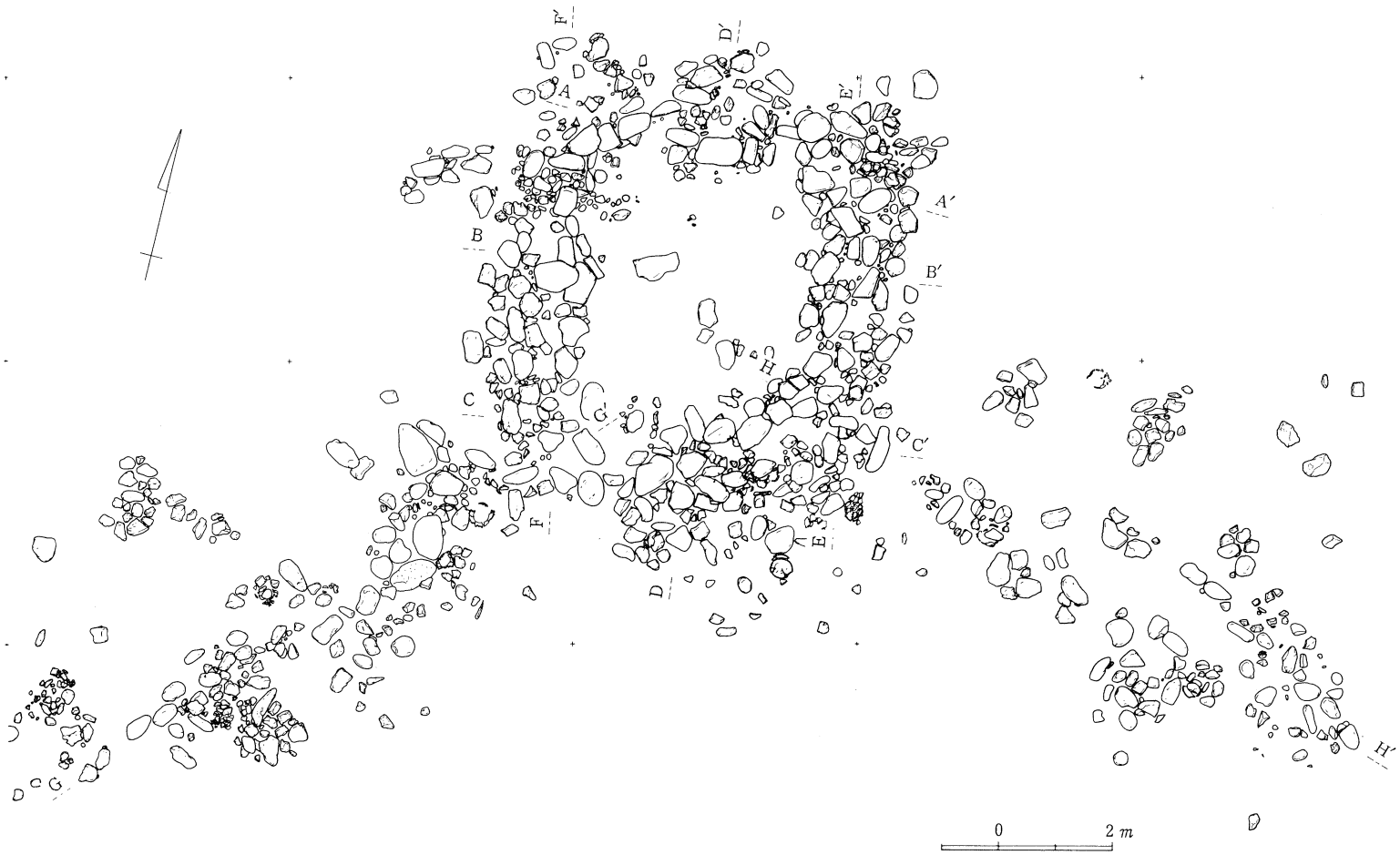


第10図　C区1号配石遺構（1／60）

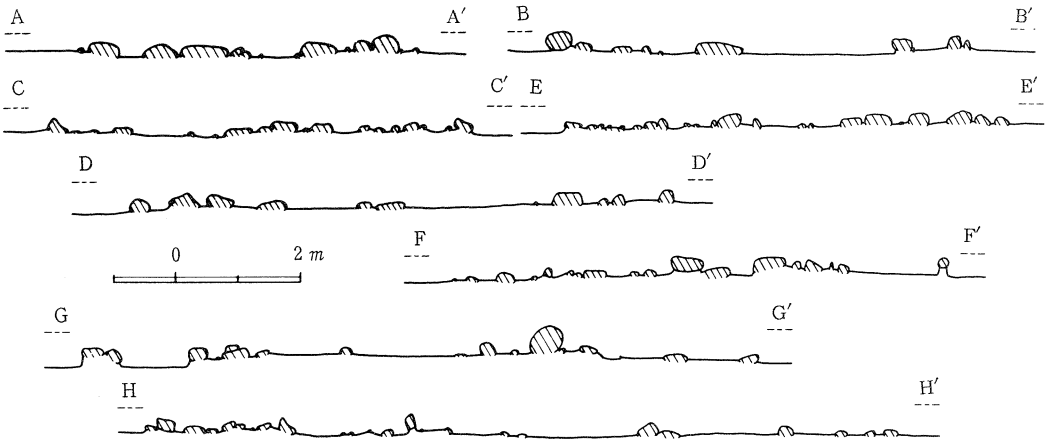
から大型の深鉢が出土している。

＜C区2号配石遺構＞　（第11・12・71図）

調査区域西半部B－8・9・10・11・12、C－8・9・10・11・12、D－8・9・10・11・12域に位置する。排土作業に際して石が検出され、グリッドを掘り下げて石の範囲を確認した。石はほぼC－10・11、D－9・10・11域に、東西・南北約8 *m*で中央に4 *m*四方の空間をもった方形に配されており、さらに南西及び南東の角から斜めにほぼ対角線の延長線上に広がりをみせていた。この斜めの張り出し部分の長さは約10*m*を測るが、石のつながり方は連続的ではない。方



第11図　C区2号配石遺構　(1／120)



第12図　C区2号配石遺構エレベーション図　(1／120)

形の中央の空間地は平坦であるが、床面にみられるような踏み固めた面はない。また、周辺にはピット等の遺構は確認されなかった。使用されている石は80cm前後の平石が目立ち、20cm前後～人頭大のものと50～70cm前後代の大きなものがみられる。斜めに張り出した部分には平石はない。本遺構からは石棒・土偶等の特殊な遺物の出土はなく、遺構の性格などの詳細はあきらかではないが、東西・南北の張り出し部分と方形配石の南辺部には埋甕が点在していた。

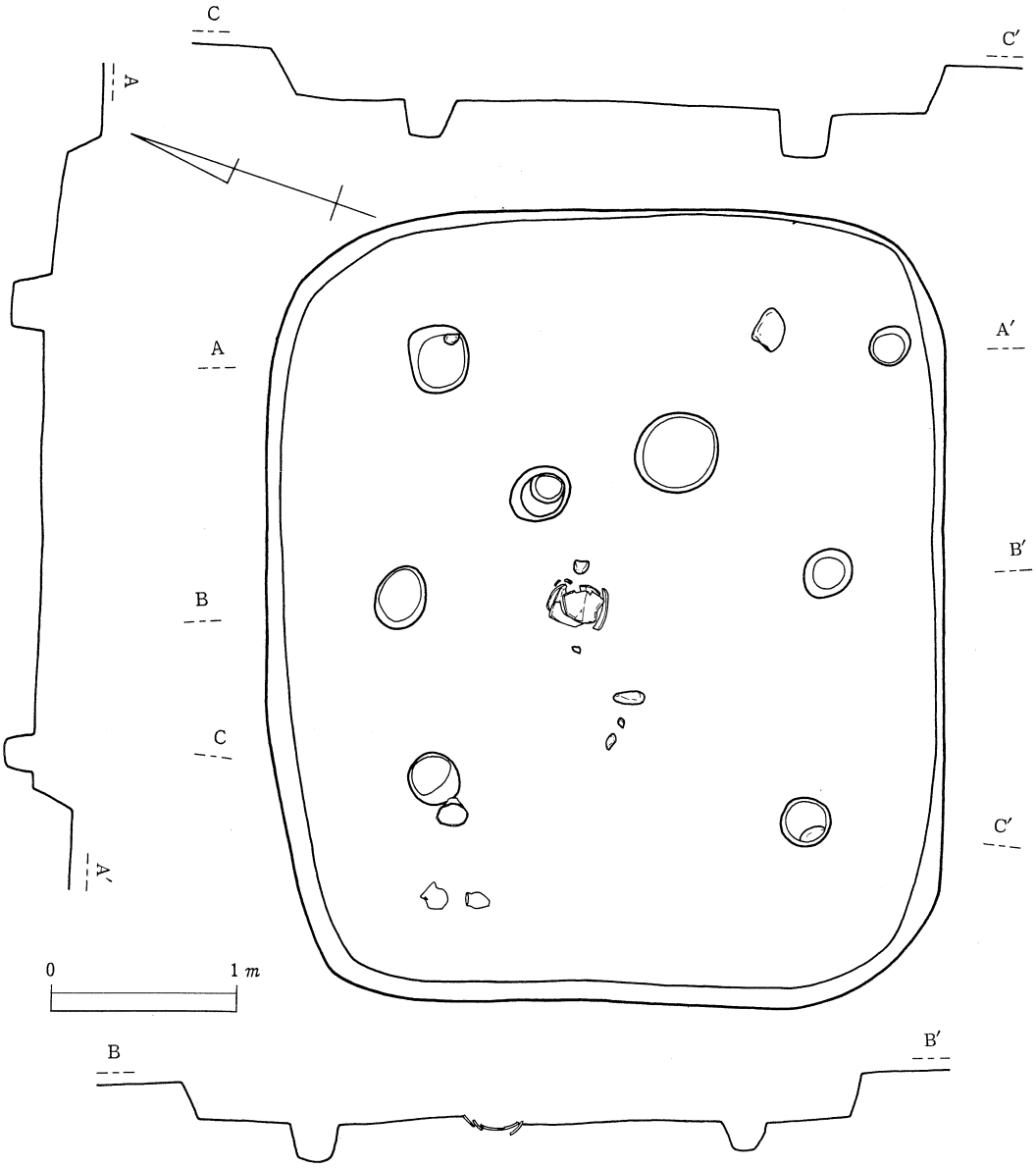
2　古墳時代

＜C区4号住居址＞　(第13図)

調査区域東端B－0・C－0域、6号住居址の南に位置する。暗褐色土中に黒褐色の落ち込みを発見し、精査して平面形態を探り掘り下げを行った。規模は長軸約4.3m、短軸約3.7mで、平面形はほぼ隅円長方形を呈する。壁は外傾しながら立ち上がり、高さは20～25cm前後を測る。床面は比較的平坦。穴は8カ所検出され、床面からの深さ20cm前後を測る。柱穴は壁に沿った6本が当たるのであろうか。床面中央付近に土器を敷き詰めた凹みがみられたが、火を受けた様子はなく、炉は明確ではない。長軸の方向はN－70°－E。

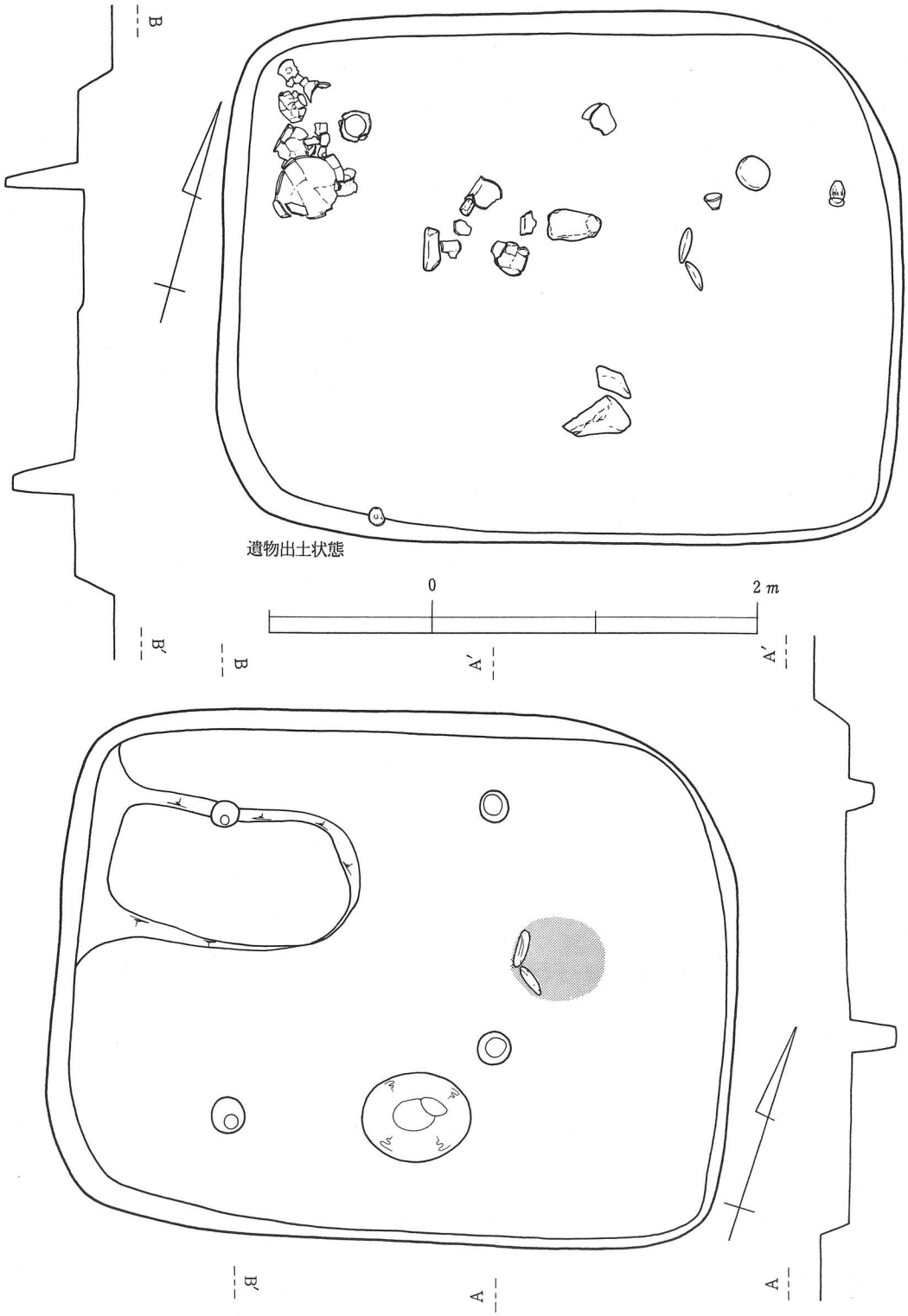
＜C区5号住居址＞　(第14図)

調査区域東側のC－1・2域、4号住居址に挟まれたところに位置する。排土作業に際して大型の甕形土器が検出されたので、精査して平面形態を探り暗褐色土中に黒褐色の落ち込みを発見し、掘り下げを行った。規模は長軸約4.3m、短軸約3.2mで、平面形はほぼ隅円長方形を呈する。床面は、中央が若干盛り上がり気味となっている。柱穴は4本主柱穴で、平面形は円く直径20cm前後、床面からの深さは南東側のものから時計回りに17cm・30cm・38cm・46cmを測り不揃いとなっている。壁は外傾しながら立ち上がり、高さは低いところで15cm、高いところで25cm、平均20cm前後を測る。炉は地床炉で、東側の柱穴を結ぶ直線上よりも外（東）側に出ており、約57×51cm



第13図　C区4号住居址（1／40）

の不整楕円形の範囲に床面より若干凹んだ部分となっており、西辺に7×23cmと6×20cmの枕石をともなっていた。本炉は焼土があまりみられなかった。他に内部施設として、54×67cmの不整楕円形を呈し床面からの深さ約13cmの擂鉢状の穴が床面中央南側にみられた。また西壁北半分から約1.6m×90cm床面からの高さ5cm程の不整長方形の高まりが作り出されていた。長軸の方向はN－76°－E。本住居址からは比較的土器の出土が多くみられた。出土位置は大型の甕・甕・S字状口縁台付甕・高坏が北西隅、甕が中央部、小型鉢が南壁際、小型壷が東側で、殆どがつぶれて発見された。

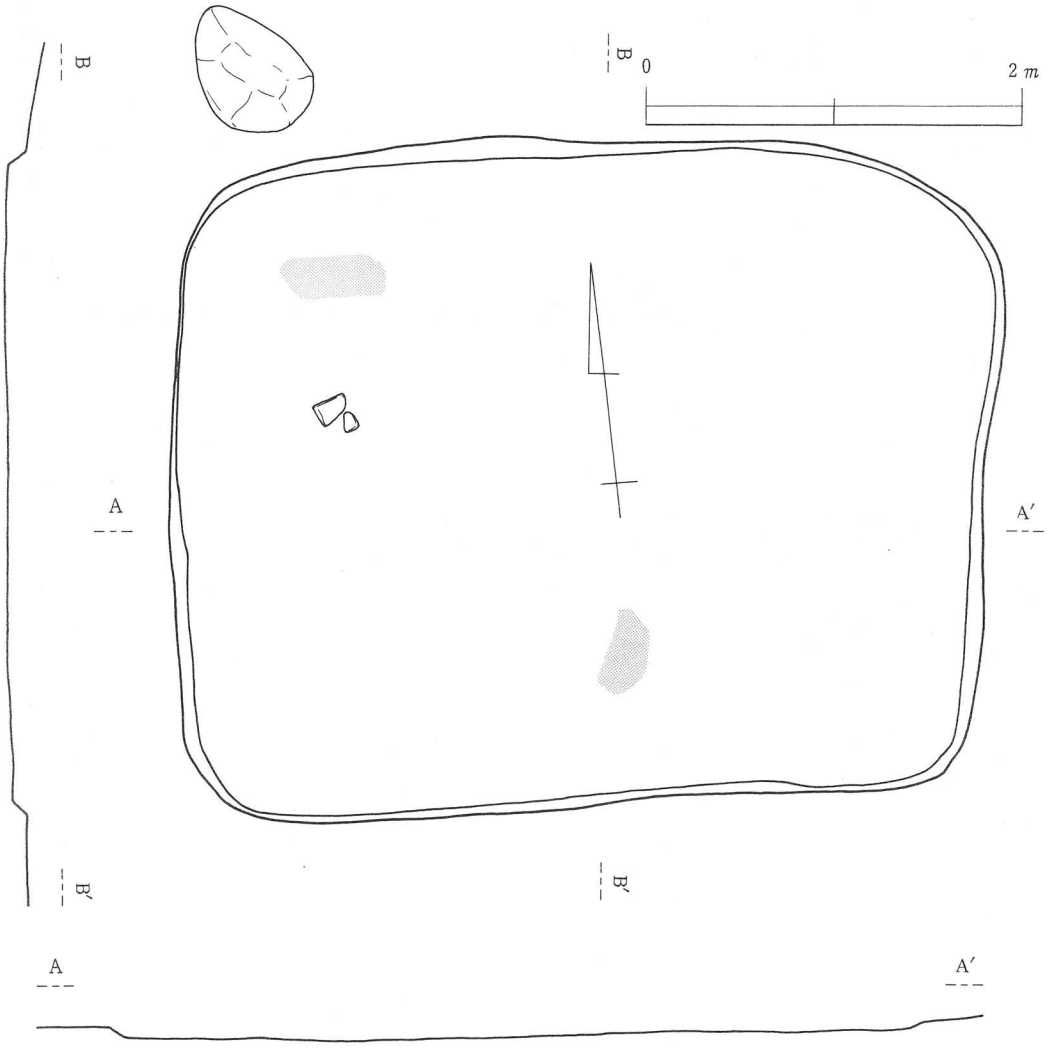


第14図　C区5号住居址（1／40）

3　奈良・平安時代

＜A区１号住居址＞　（第15図）

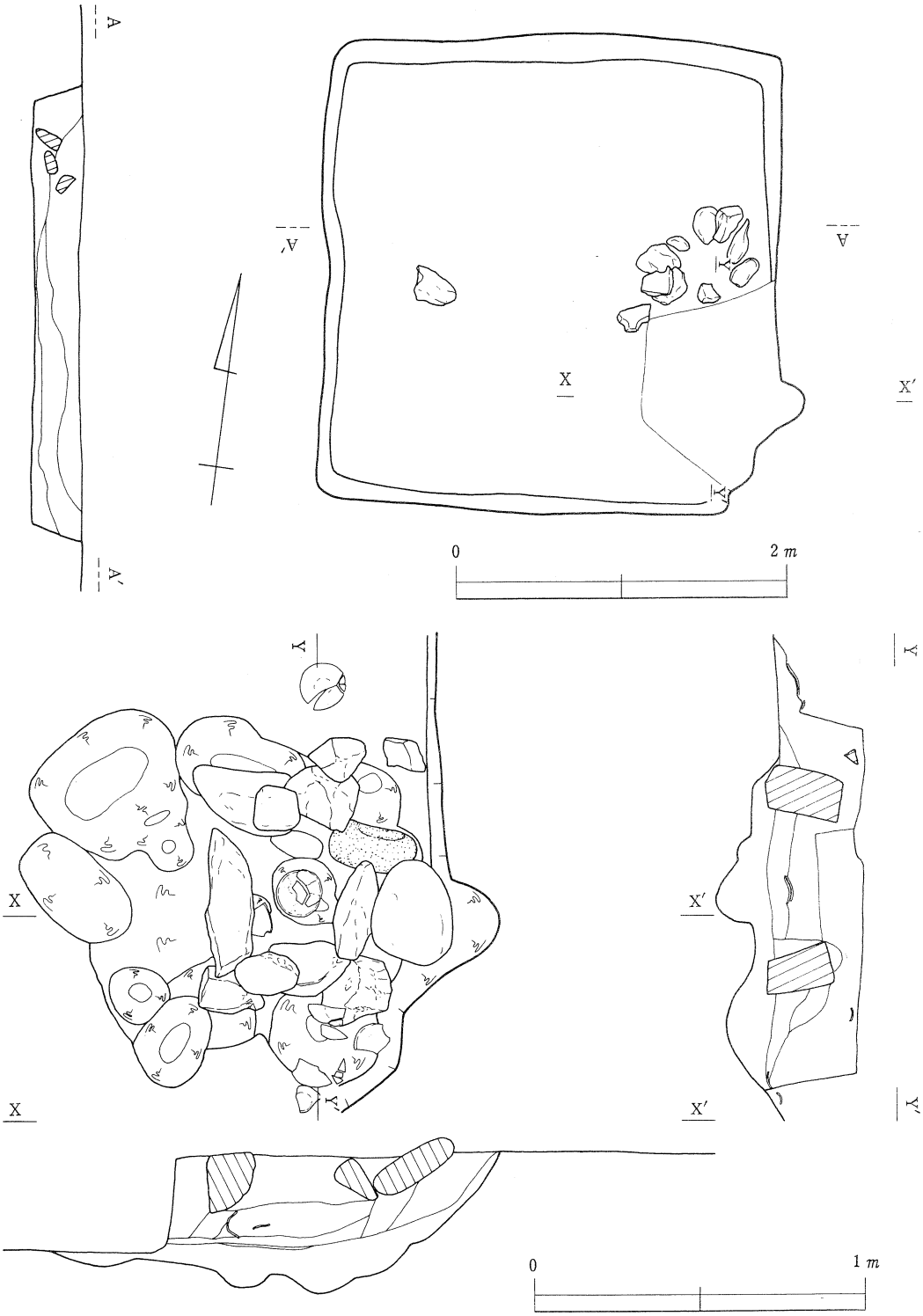
調査区域南東に位置する。排土作業に際して焼土及び床面が確認された住居址である。耕作等の影響により削平が著しく、遺存状態は悪く、壁高は高いところでも10cm程であった。規模は東西約4.3m、南北約3.5mで、平面形は隅円長方形を呈する。床面は比較的平坦で堅緻である。柱穴はない。カマドは北西隅に構築されていたと思われるが、削平により焼土が確認できるのみであった。出土遺物は極僅かであるが、本住居址は奈良時代のものであろう。



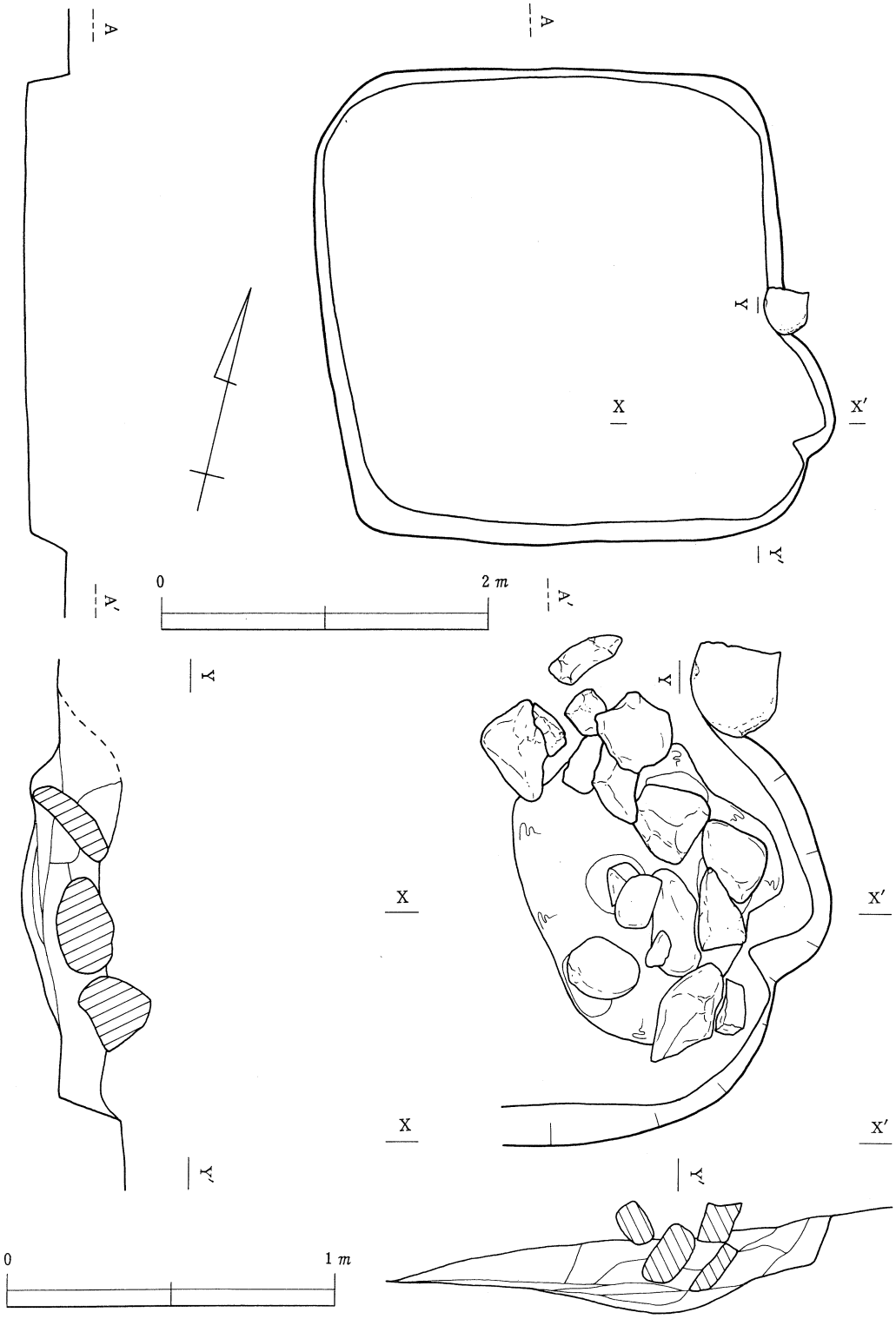
第15図　A区１号住居址（1／40）

＜C区１号住居址＞　（第16図）

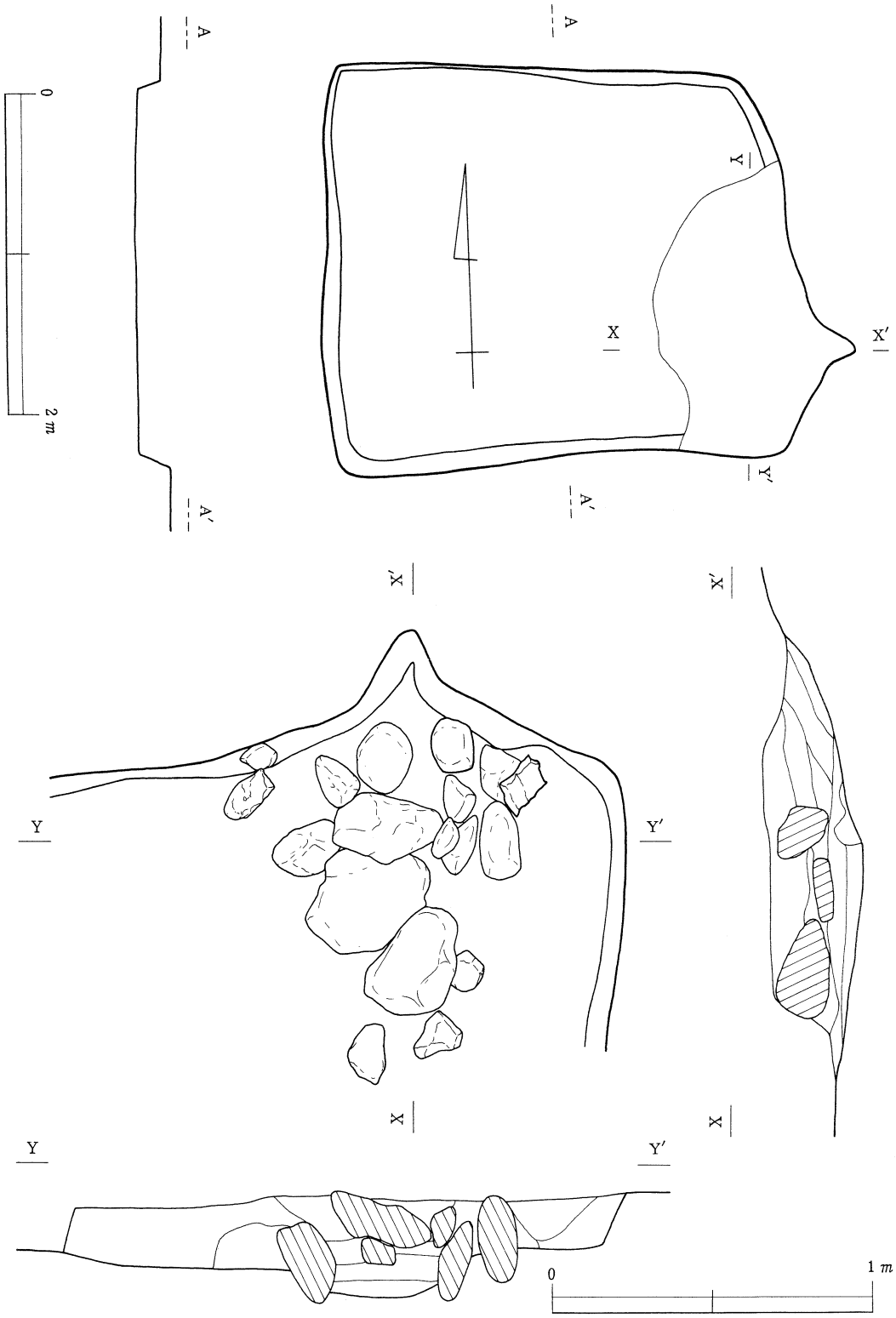
調査区域東側B－２域、５号住居址の南側に位置する。暗褐色土中に黒い落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は正方形を呈し、規模は一辺約2.8mを測る。壁は良好な立ち上がりをみせ、



第16図　C区1号住居址（1／40）・カマド（1／20）



第17図　C区2号住居址（1／40）・カマド（1／20）



第18図　C区3号住居址（1／40）・カマド（1／20）

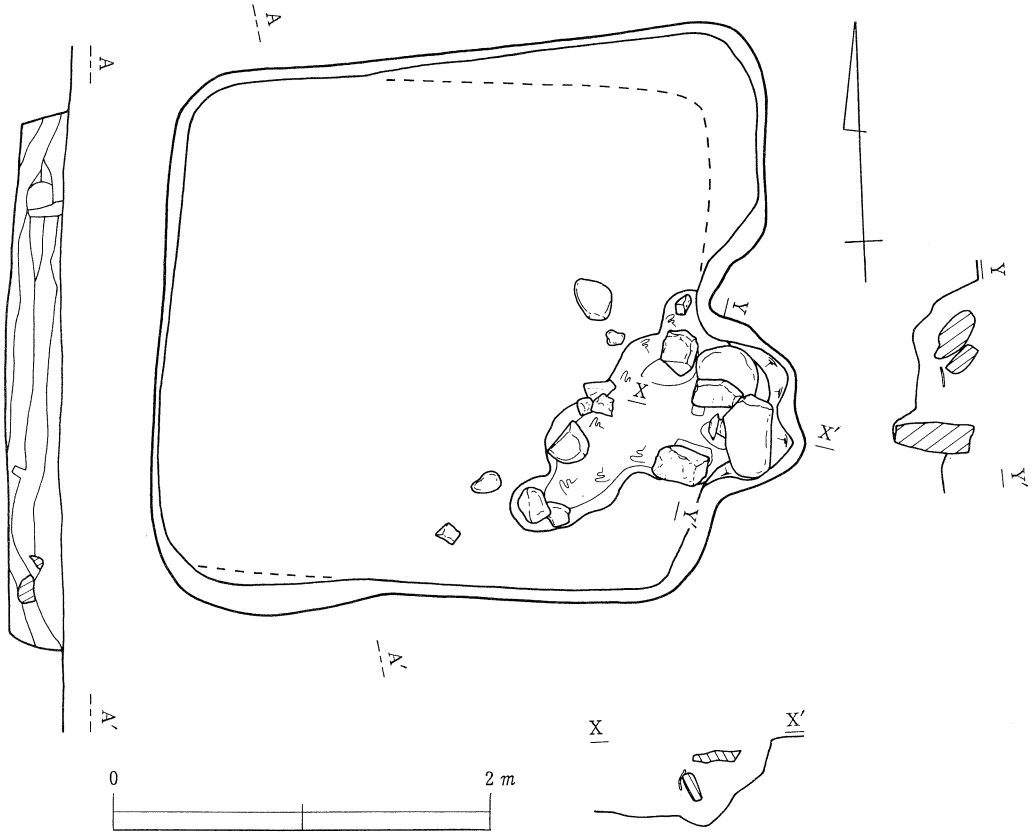
高さは30cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1.2m、幅90cmで、石を組んで作られる。内部に甕を支える支脚の石があり、土師器皿が3枚程伏せてかぶせてあった。本住居址は平安時代のものである。

＜C区2号住居址＞　（第17図）

調査区域東側D－2域、5号住居址の北側に位置する。暗褐色土中に黒い落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は隅円方形を呈し、規模は一辺約2.8～2.9mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1m、幅90cmで、石を組んで作られていたと思われるが、遺存状態は悪かった。本住居址は平安時代のものである。

＜C区3号住居址＞　（第18図）

調査区域東側C－3域に位置する。排土作業に際してカマドを検出し住居址とする。平面形態はほぼ長方形を呈し、規模は東西約2.8m、南北約2.5mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は15cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1.3m、幅90cmで、石を組んで作られていたと思われるが、遺存状態

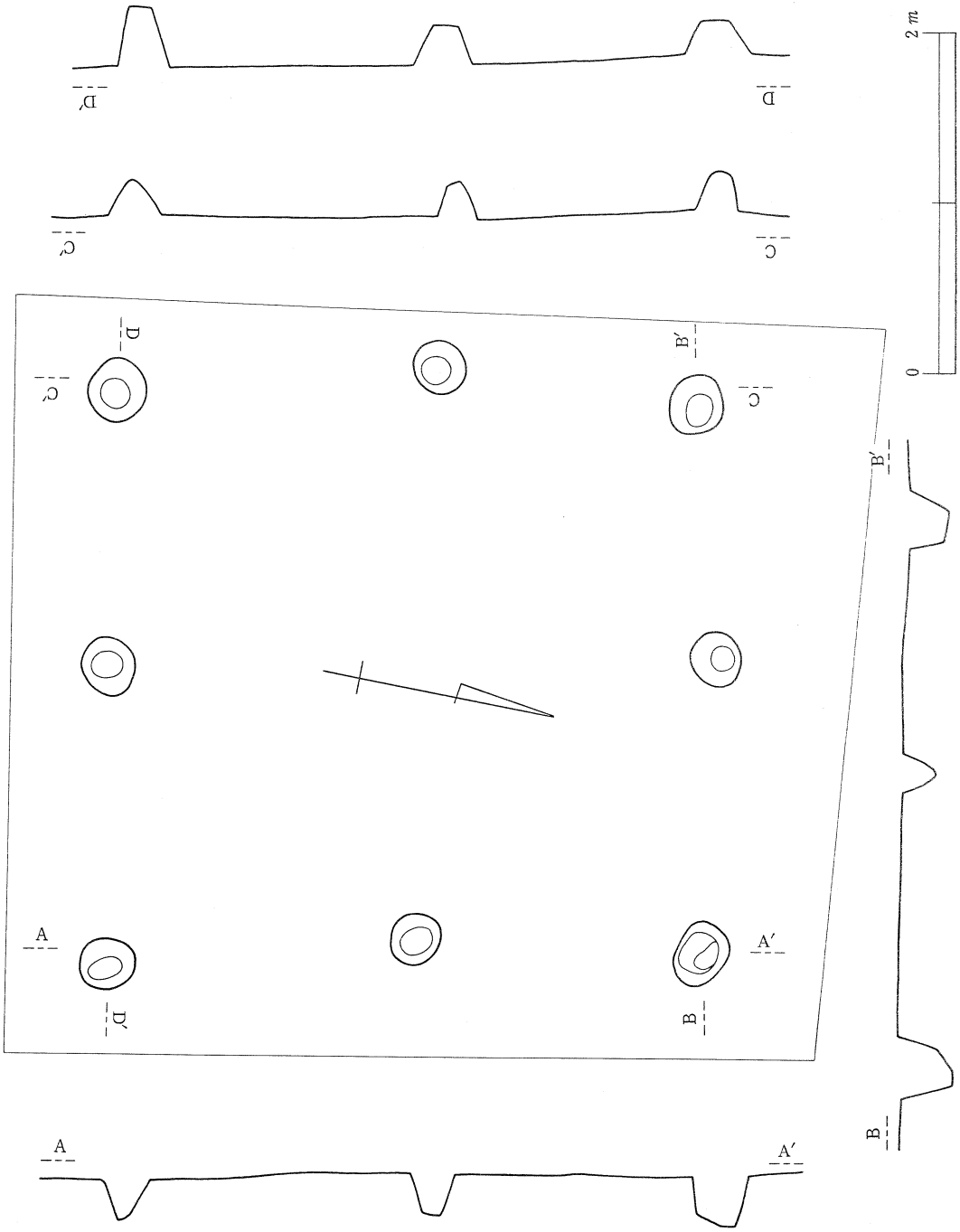


第19図　C区6号住居址（1／40）

は悪かった。本住居址は平安時代のものである。

＜C区6号住居址＞　（第19図）

調査区域東端C－0・D－0域、4号住居址の北側に位置する。暗褐色土中に黒い落ち込みを



第20図　C区掘立柱建物址（1／40）

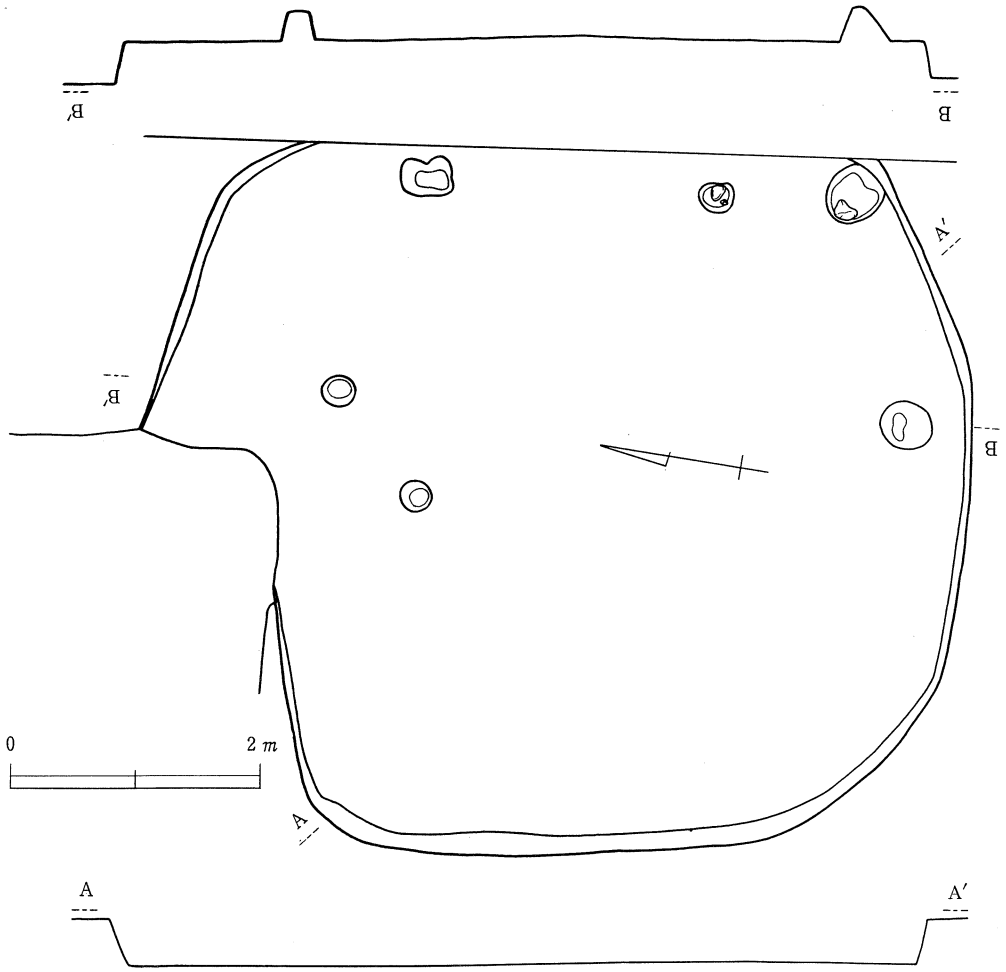
発見し掘り下げる。平面形態は隅円長方形を呈し、規模は東西約3m、南北約2.8mを測る。壁は外傾しながら立ち上がり、壁高は25cm前後を測る。床面は堅く平坦である。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南半部に構築され、規模はおよそ長さ1.3m、幅1mで、石を組んで作られていたと思われるが、遺存状態は悪かった。本住居址は平安時代のものである。

＜C区掘立柱建物址＞　（第20図）

調査区域東半部A－3・B－3域に位置する。当初黒い落ち込みを掘り下げたところ、穴が並んで検出されたので、掘立柱建物址とした。柱間は約1.8mで、東西2間、南北2間の建物址である。柱穴は、直径30cm前後で、確認面からの深さは20～35cmを測る。出土遺物はないが、平安時代のものであろう。

＜D区1号住居址＞　（第21図）

調査区域東南端に位置する。試掘調査により床面が確認され、住居址としたのであるが、掘り

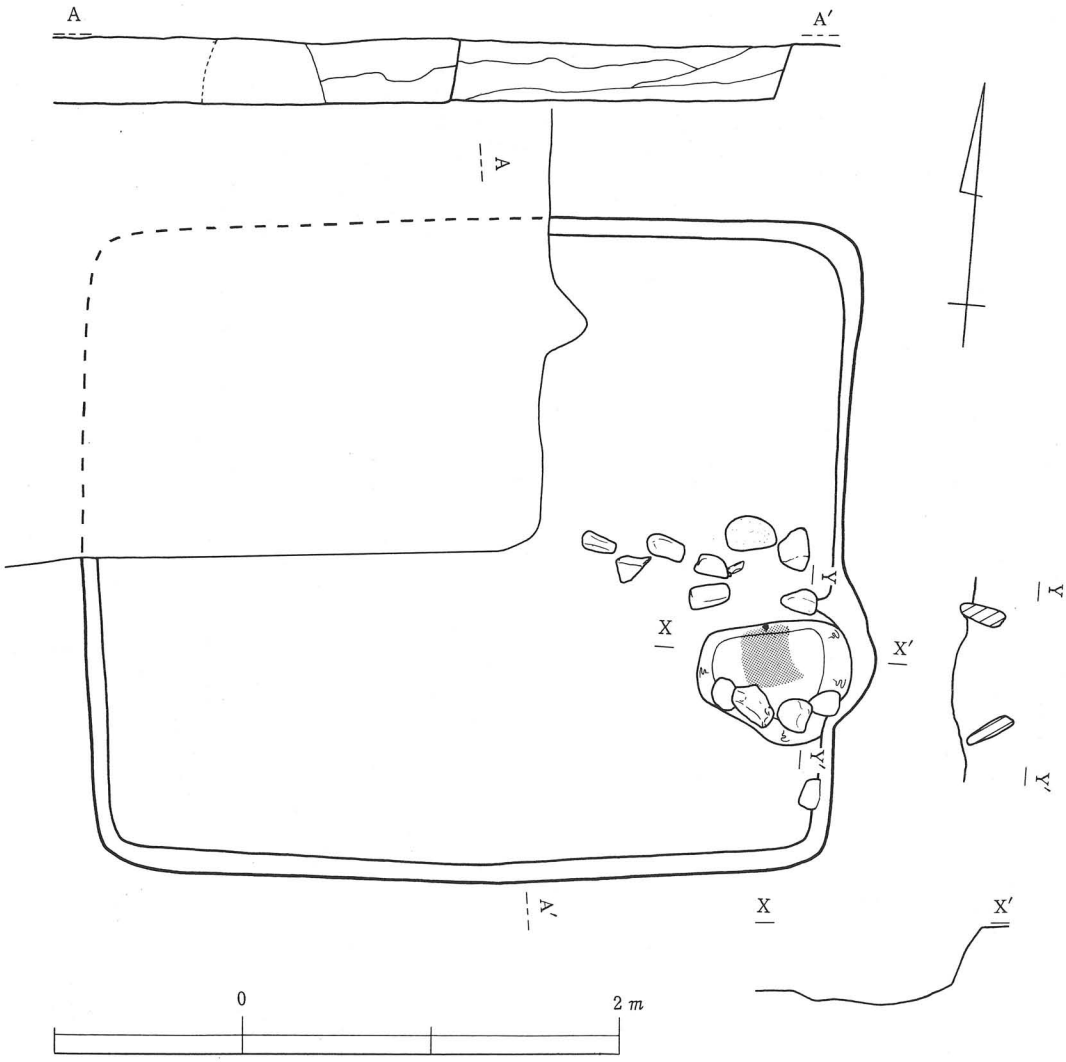


第21図　D区1号住居址（1／60）

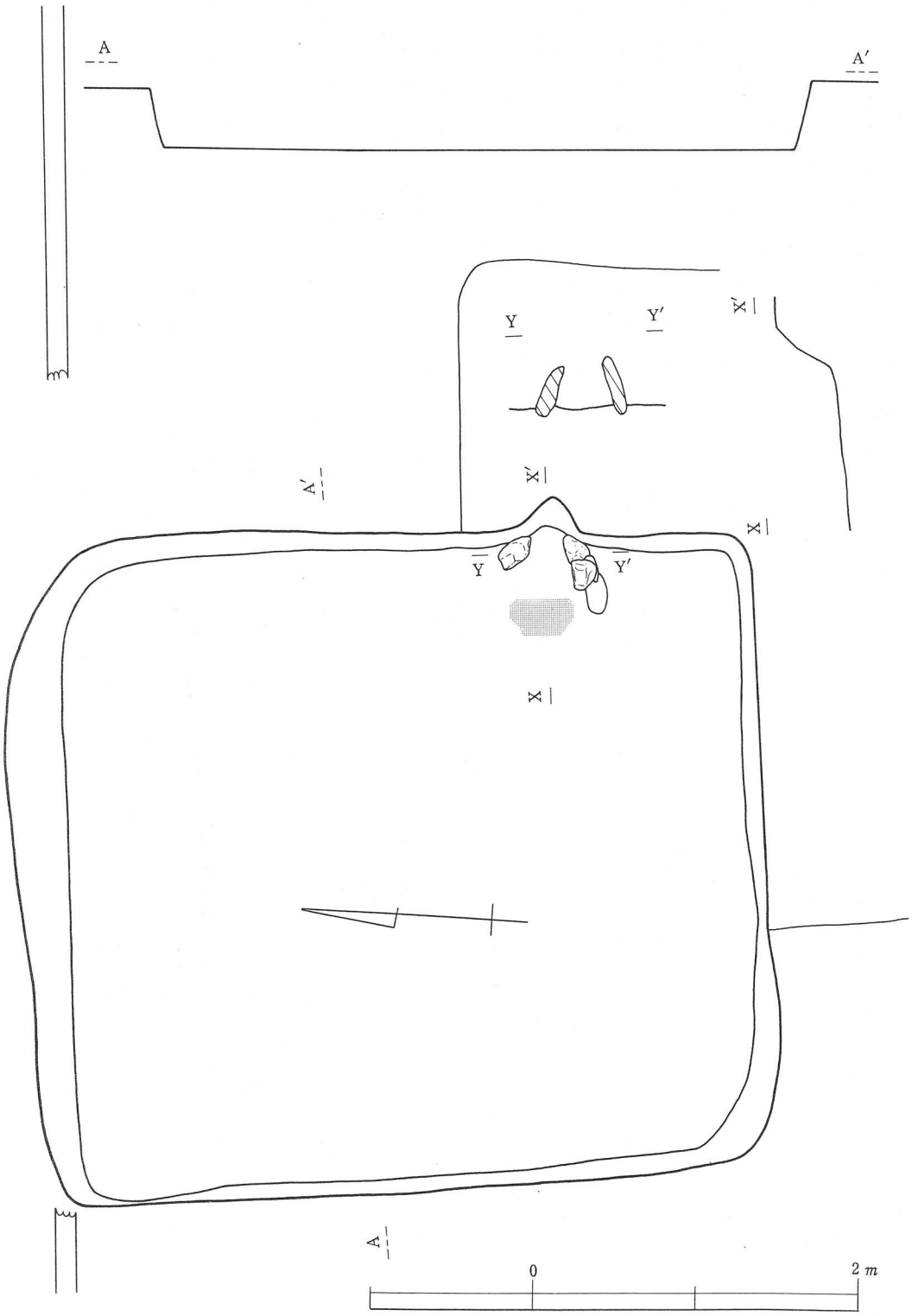
下げたところ、一般の住居址とは形態を異にしていた。平面形態は不整の方形を呈するものと思われるが、定かではない。南北で6.6mを測る。穴は東側に6つ検出された。床面からの深さは25cm前後を測るが、平面形態はそれぞれである。壁は外傾しながら立ち上がる。床面は比較的平坦であった。北側は5号住居址に切られている。本遺構は奈良時代のものであろうか。

＜D区2号住居址＞　（第22図）

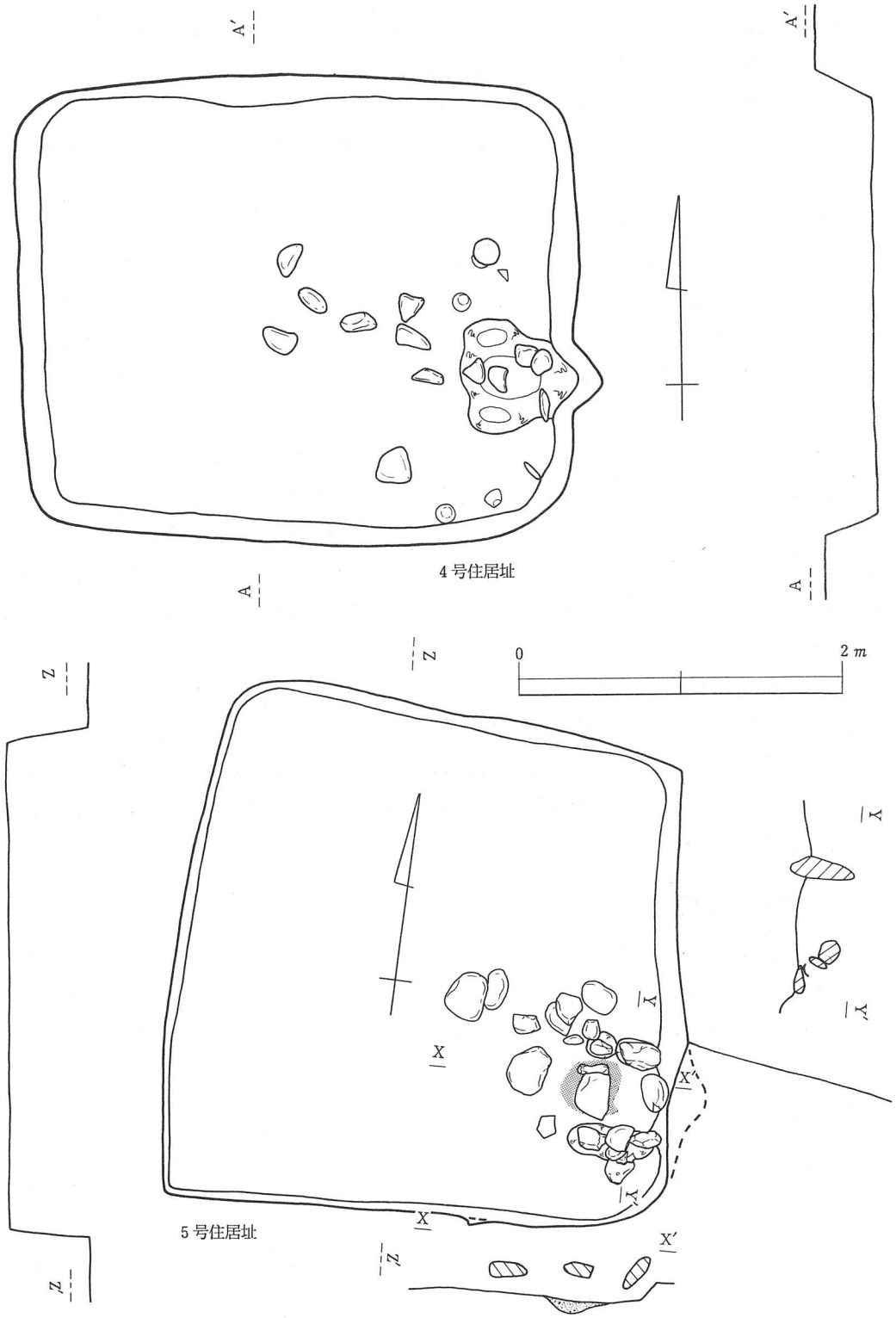
調査区域南側に位置する。北西部は3号住居址に切られ遺存していない。遺構同志の切り合いを考慮し、土層観察用の土手を残し掘り下げる。規模は東西約4m、南北約3.5mで、平面形は長方形を呈する。壁は良好な立ち上がりをみせ、30cm前後を測る。3号住居址との床面の比高差約3cmを測る。床面はほぼ平坦。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南側に東西1.1m、南北1m程の規模で、石を用い構築される。本住居址は平安時代のものである。



第22図　D区2号住居址（1／40）



第23図　D区3号住居址（1／40）



第24図　D区4号住居址・5号住居址（1／40）

＜D区３号住居址＞　（第23図）

調査区域南側に位置する。２号住居址を切って構築される。規模は東西約４ｍ、南北約4.5ｍを測る。平面形は南北にやや長い長方形を呈する。壁は外傾しながら良好な立ち上がりをみせるが、２号住居址を切る部分は明瞭ではなかった。壁高は40cm前後を測り比較的深い竪穴となっている。床面は平坦。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南側に石を用いて構築される。本住居址は平安時代のものである。

＜D区４号住居址＞　（第24図）

調査区域南側、２号住居址の東側に位置する。規模は東西約3.4ｍ、南北約2.9ｍを測る。平面形は東西に長い隅円長方形を呈する。壁は外傾しながら良好な立ち上がりをみせる。壁高は35cm前後を測り比較的深い竪穴となっている。床面は平坦。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南側に石を用いて構築されたと思われるが、遺存状態は悪かった。本住居址は平安時代のものである。

＜D区５号住居址＞　（第24図）

調査区域南側、４号住居址の南東に位置する。１号住居址を切って構築される。規模は東西約3.2ｍ、南北約3.2ｍを測る。平面形は不整の方形を呈する。壁は外傾しながら良好な立ち上がりをみせるが、南東側の１号住居址を切る部分は明瞭ではなかった。壁高は50cm前後を測り深い竪穴となっている。床面は平坦。柱穴・周溝はない。カマドは東壁南側に、東西約1.2ｍ、南北約１ｍの規模で石を用いて構築されたと思われるが、遺存状態はあまり良くなかった。本住居址は平安時代のものである。

＜D区６号住居址＞　（第25図）

調査区域北辺に位置する。規模は東西約4.5ｍ、南北約3.7ｍを測る。平面形は不整の長方形を呈する。壁は外傾しながら立ち上がる。壁高は30～40cm前後を測る。床面は平坦。柱穴は西側に１つあり、床面からの深さ28cmを測る。周溝はない。カマドは検出されなかった。本住居址は平安時代のものであろう。

４　その他の遺構

＜C区土坑群＞　（第26図）

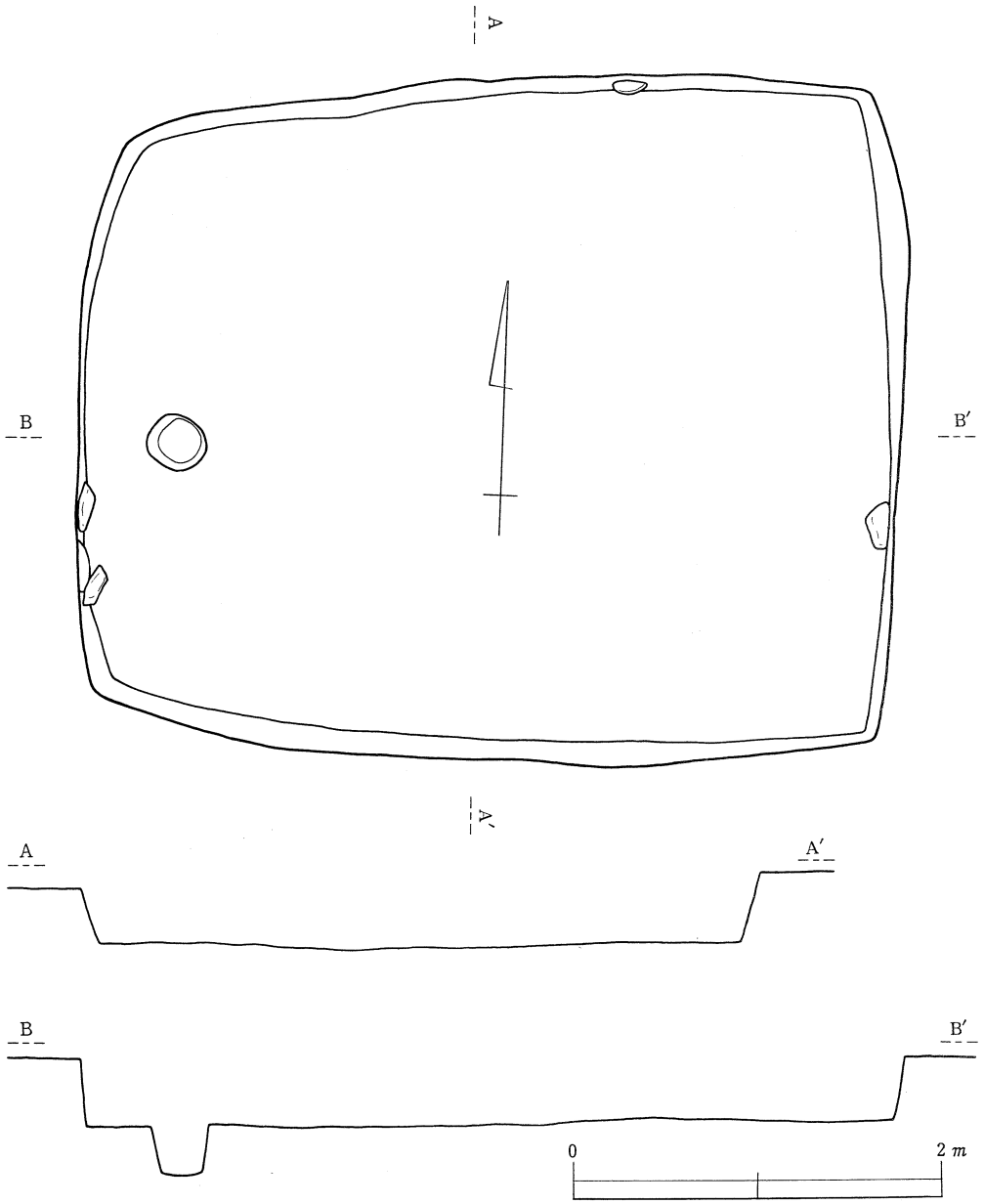
土坑群はＡ－４・Ｂ－４域に位置する。北から南にⅠ～Ⅳとし、みていく。

Ⅰ　規模は東西約90cm、南北約85cmで、平面形は不整円形を呈する。確認面からの深さは約14cmを測り、底に石が敷き詰めてあった。

Ⅱ　規模は長軸約1.25ｍ、短軸約1.1ｍで、平面形は不整楕円形を呈する。確認面からの深さは約25cm前後を測る。

Ⅲ　規模は長軸約60cm、短軸約40cmで、平面形は不整楕円形を呈する。確認面からの深さは約25cm前後を測る。

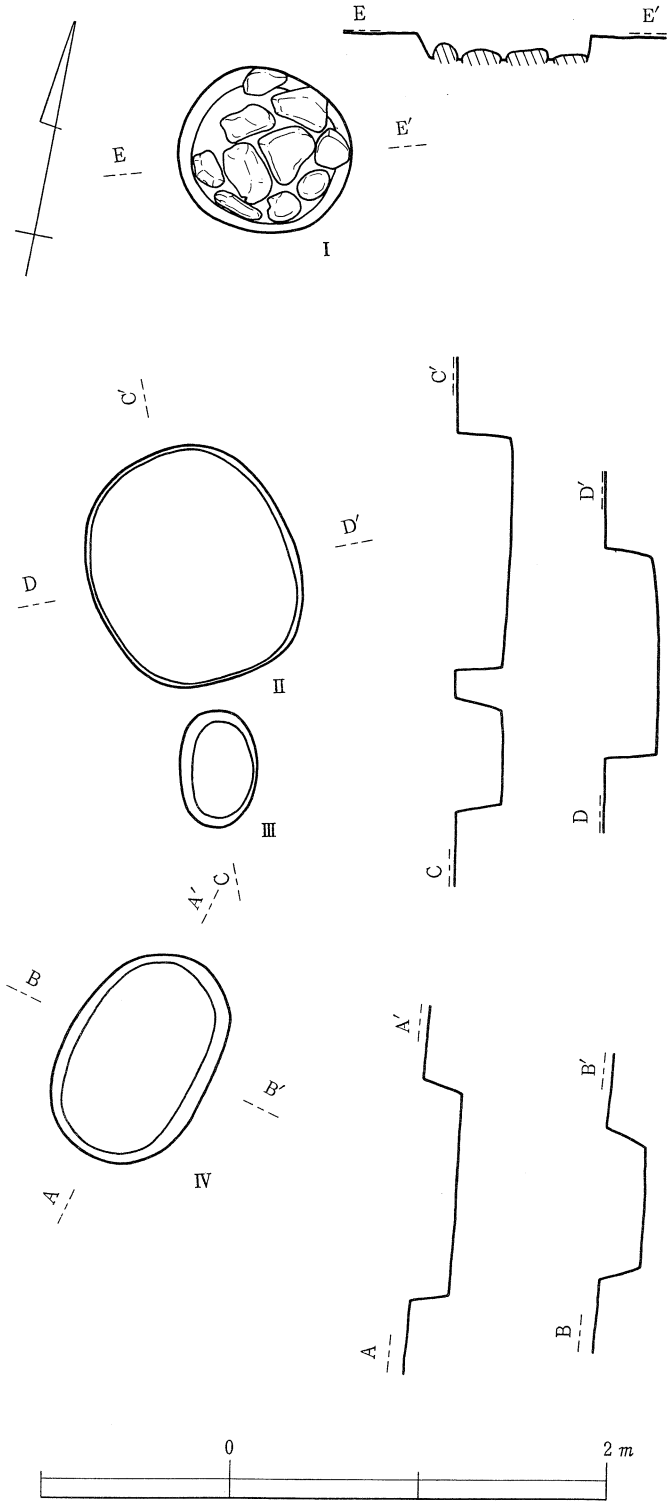
Ⅳ　規模は長軸約1.15ｍ、短軸約80cmで、平面形は不整楕円形を呈する。確認面からの深さは約25cm前後を測る。



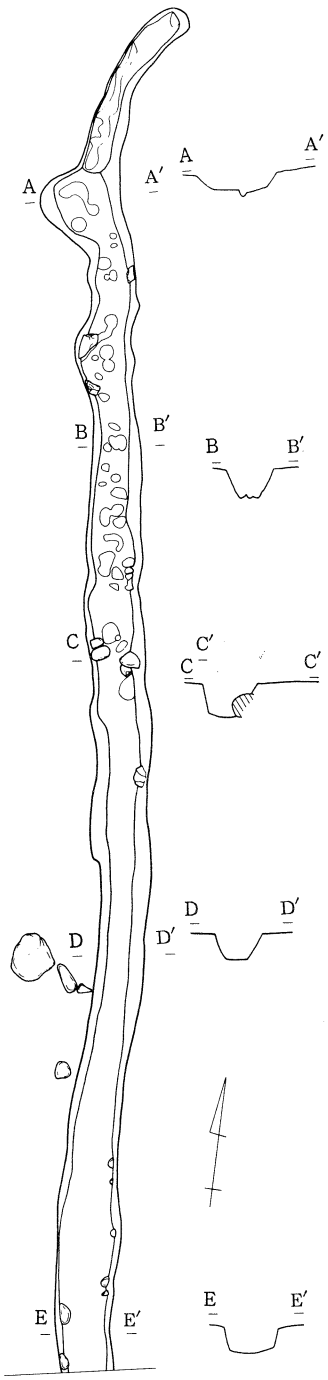
第25図　D区6号住居址（1／40）

＜C区　溝＞　（第27図）

調査区域A－4・B－4・C－4域西端に位置する。グリッド掘り下げに際して検出された。北から南に流れる溝である。長さ約15.5*m*、幅30～70*cm*を測る。溝の断面形態はほぼ逆台形を呈する。確認面からの深さは約15～35*cm*で、漸次深くなっている。底には大きな石などはみられなかったが、砂利等が確認された。



第26図　C区　土坑群（1／40）



第27図　C区 溝（1／80）

Ⅵ 遺　　物

調査の結果出土した遺物は、縄文時代中期中葉～後半・後期前葉、古墳時代前期、奈良・平安時代にわたっている。それらは竪穴住居址・集石土坑・配石遺構などの各遺構にともなうものが主体となっている。以下、時代を追って遺物の概要をみていこう。

1　縄文時代

＜B区1号住居址出土遺物＞　（第28図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，30.0，－	白色砂粒を含む	橙茶褐色 暗茶褐色	胴部隆帯で区割され、うず巻と蛇行懸垂文が見られる 条線あり　破片
2	縄文土器	深鉢	－，24.0，－	白色粒子、砂粒を含む	灰茶褐色 茶褐色	胴部は5本の隆帯で区割され条線が施されている 埋甕　½残
3		土偶		白色粒子を含む	灰褐色 黒　変	脚部破片
4		石棒				
5	石器	?				
6	石器	くぼみ石				

＜B区2号住居址出土遺物＞　（第29・30図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，40.0，－	白色粒子を含む	暗褐色	隆帯によるうず巻きと条線が施されている　炉敷土器
2	縄文土器	深鉢	－，36.0，－	粗い白色粒子を含む	暗褐色 灰褐色	把手が5コあり、そのうち4コはX字状、胴部うず巻きで下半にU字隆帯で条線が施されている　埋甕
3	縄文土器	深鉢	－，－，7.0	白色粒子を含む	黒褐色 赤褐色	胴部に隆帯と条線が施されている 底部破片
4	縄文土器	深鉢	－，24.0，－	白色微砂粒を含む	黒褐色 褐色	胴部にうず巻きがあり条線が施されている
5	縄文土器	深鉢	42.0，38.0，－	白色粒子を含む	灰褐色 橙褐色	胴部にうず巻きがあり条線が施されている 底部穿孔　炉敷土器

＜B区３号住居址出土遺物＞　（第31図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，　，9.0	粒い白色粒子を含む	橙褐色 一部黒変 明褐色 一部黒変	隆帯と条線がみられる 底部破片
2	縄文土器	深鉢	－，29.2，－	白色砂粒を含む	暗茶褐色	頸部に隆帯によるうず巻きがあり条線も施されている 口縁部破片
3	縄文土器	深鉢	48.0，37.0，10.4	粗い白色粒子を多量に含む	黒褐色 口縁部赤変 橙黄褐色	頸部から胴部にかけて隆帯による大小のうず巻きがあり隆帯が懸垂している 間に条線が施されている　炉敷土器
4	縄文土器	深鉢	26.5，23.4，7.8	白色砂粒を多量に含む	赤褐色	口縁部から胴部にかけて隆帯によるうず巻きがあり胴部に横Ｓ字モチーフが１単位ある 地文は縦位の条線である 底部穿孔　埋甕
5	石　器					破片

＜C区１号集石土坑出土遺物＞　（第32図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，24.8，－	粗い白色粒子を含む	褪褐色	内面－撫で 外面－波状口縁部に隆帯によるうず巻文、胴部は隆帯を懸垂させその間に列点状刺突文
2	石　器	石棒				

＜C区１号配石遺構出土遺物＞　（第33・34・35図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，－，4.8	白色粒子、砂粒を含む	赤褐色 （一部薄肌色） 茶褐色 （一部黒変）	外面－胴部に条線と蛇行させた粘土ひもで懸垂文を施している
1	縄文土器	深鉢	76.0，54.4，10.8	黒・白砂粒を含む	淡赤褐色 黄褐色	外面－文様区画は横位に楕円形と三角形を用いて区切り、連続刺突文を凸帯の内側又は両側に施している
3	縄文土器	深鉢	69.0，35.6，10.8	白色粒子、砂粒を含む	淡茶褐色 （一部赤褐色黒変）	水煙土器 外面胴部に縦の条線が施される

＜C区２号配石遺構出土遺物＞　（第36・37・38・39・40・41・42図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄文土器	深鉢	－，43.4，－	細い砂粒を含む	黄灰褐色 淡茶褐色 （一部黒変）	外面－口縁部は無文 頸部に四個等分の把手 胴部にうず巻状文を描きながら隆帯が垂下、その間に条線が縦や斜めに施されている
2	縄文土器	深鉢	58.0，47.2，10.4	細い白色粒子を含む	赤茶褐色 灰赤褐色 （下部赤褐色）	外面－口縁部にU字の隆帯、それを囲むように懸垂する隆帯の間にハの字状列点の突文あり 底部穿孔
3	縄文土器	深鉢	48.4，40.2，11.6	砂粒を含む	灰赤褐色 赤褐色 （一部黒変）	外面－頸部に四個等分の把手 把手を挟むようにうず巻文を描き隆帯が垂下、その間に綾杉文が施されている
4	縄文土器	深鉢	－，－，9.8	砂粒を含む	黄茶褐色 （一部黒変）	外面－頸部に四個等分の把手 文様は隆帯のみで構成されている 底部穿孔？
5	縄文土器	深鉢	47.0，39.0，11.0	砂粒を含む	灰茶褐色 黄焦げ茶褐色	外面－口縁部は無文 頸部に四個等分の把手 文様はU字や四角形の隆帯で区切り、その間にハの字状列点の刺突文あり　底部穿孔
6	縄文土器	深鉢	－，－，－	細い砂粒を含む	灰茶褐色 黄焦げ茶褐色	外面－胴部に大きな二重のうず巻文を描きながら隆帯が垂下するその間に縦の条線が施されている
7	縄文土器	深鉢	－，－，9.0	細い白色粒子を含む	赤褐色 黄茶褐色 （一部黒変）	外面－頸部に四個等分の把手 胴部に大きなうず巻文を描き隆帯が垂下し、その間に綾杉文が施されている
8	縄文土器	深鉢	－，－，10.6	細い砂粒を含む	灰赤褐色 灰橙褐色	外面－頸部に四個等分の把手 把手下、横列にうず巻文が大小並びその下中心から隆帯が垂下し、その間の上部はハの字状刺突文、下部は乱雑に条線が施されている
9	縄文土器	深鉢	48.0，43.0，11.0	金雲母を多量に含む	灰肌褐色 暗灰赤褐色	外面－頸部に四個等分の把手 把手のまわりを縦長方形の隆帯で区切りながら垂下し、その間にハの字状刺突文あり 底部穿孔
10	縄文土器	深鉢	－，－，10.8	粗い白色粒子を含む	赤褐色 外面上部黒変	外面－頸部に四個等分の把手 胴部にうず巻文を描きながら隆帯が垂下し、その間にハの字状刺突文あり　底部穿孔？
11	縄文土器	深鉢	－，－，－	砂粒を含む	灰黄褐色 灰橙褐色	外面－頸部に四個等分の把手 把手と把手の間を隆帯がクロスし、その中心からうず巻文を描きながら隆帯が垂下し、その間にハの字状列点の刺突文あり
12	縄文土器	深鉢	43.0，41.2，10.4	白色粒子、砂粒を含む	灰黄褐色 灰肌褐色	外面－頸部に四個等分の把手 隆帯で縦、横を区切り、その間にハの字状刺突文あり 底部穿孔

＜B区遺構外出土遺物＞　（第43・44図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄　文 土　器	深鉢	28.6，21.2，7.6	白色砂粒を含む	暗茶褐色 暗灰褐色	胴部は５本の懸垂する隆帯で区割され地文は縦位の条線である
2	縄　文 土　器	深鉢	23.6，28.0，9.2	白色砂粒を含む	赤茶褐色 暗茶褐色	棒状工具で縦位に平行した２本の沈線を施し、６区割されている 間に綾杉文が見られる
3	縄　文 土　器	小型 深鉢	22.8，20.4，6.8	白色砂粒を含む	暗灰褐色	隆帯による５つのわらび手状の文様が区割され、その間に条線が施されている　その中に２つに蛇行した沈線がみられる
4	縄　文 土　器	小型 鉢	22.0，18.0，8.0	白色砂粒を含む	橙茶褐色 赤橙褐色	隆帯による「冂」字状文と条線を組み合わせ中に渦巻文を施す 底部穿孔
5	縄　文 土　器	深鉢	－，32.4，－	白色砂粒を含む	黒茶褐色 暗茶褐色	口縁部下部に鋸歯文が施され、胴部はアーチ型の凸帯の両側に連続の刺突文が施されている
6	縄　文 土　器	深鉢	35.4，31.6，9.4	白色砂粒を含む	淡灰褐色 黄灰褐色	胴部は隆帯で区割された中に蛇行した沈線が懸垂し、条線がある 底部穿孔　　埋甕
7	縄　文 土　器	深鉢	20.4，21.4，8.6	白色砂粒を含む	暗茶褐色 淡焦げ茶褐色	２本１単位の縦位の沈線が施文される 底部穿孔
8	縄　文 土　器	小型 壷	11.0，7.2，6.6	白色砂粒を含む	橙茶褐色	頸部に把手一つを有し、胴部に隆帯によるＳ字文が３コあり、その間に条線が施されている
9	縄　文 土　器	深鉢	40.0，30.0，9.2	白色砂粒を含む	赤黒茶褐色 赤黒褐色	胴部に２本と４本の沈線が４単位懸垂しその間に条線が施されている 埋甕
10	縄　文 土　器	深鉢	－，－，12.0	白色砂粒を含む	赤黒褐色 橙褐色	縄文が施されている 埋甕

＜C区B－11グリッド出土遺物＞　（第45・46・47図）

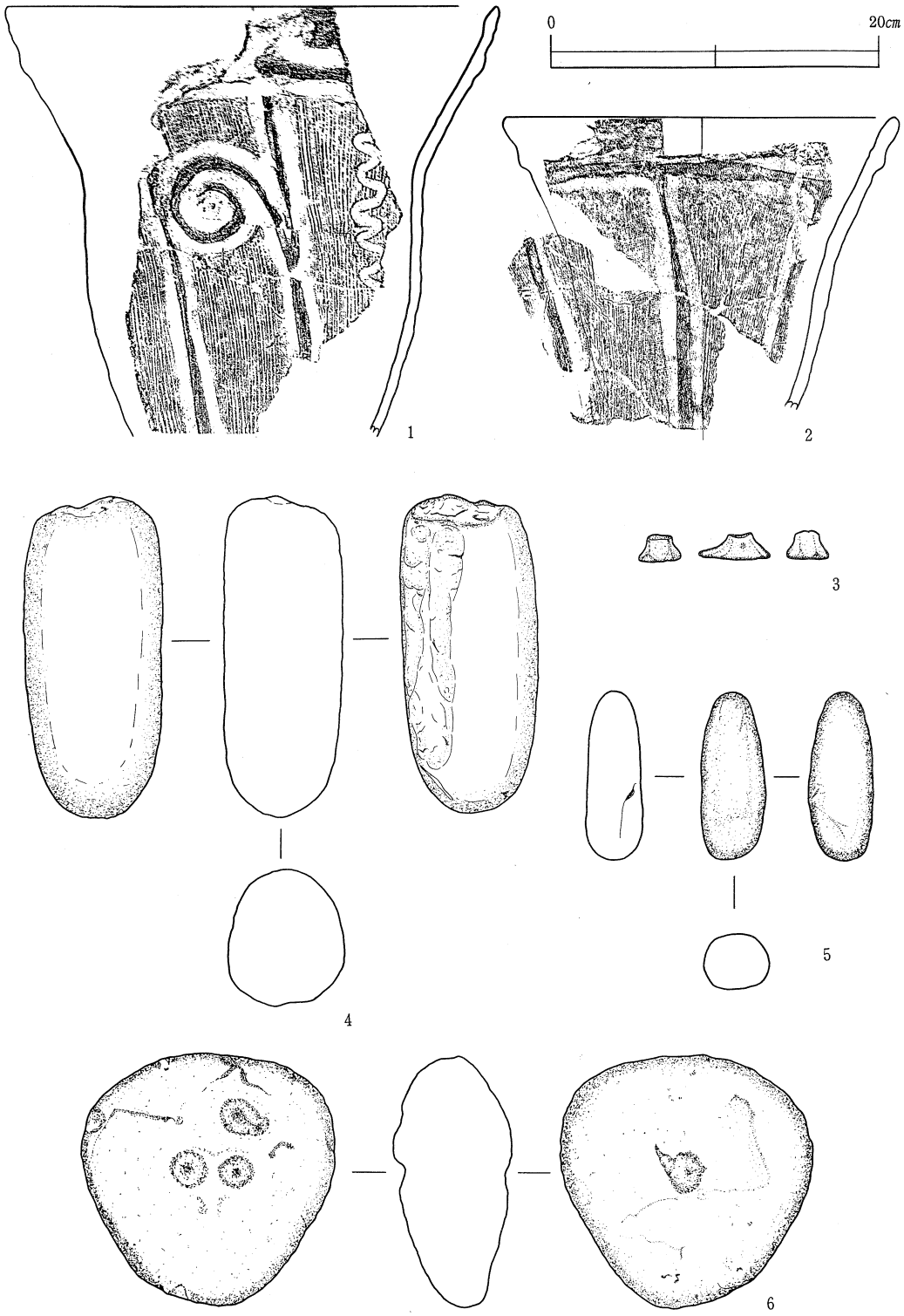
（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	縄　文 土　器	深鉢	－，18.0，－	細かい 砂粒を含む	白褐色 ～暗褐色	器面は磨かれる。 口縁部には沈線に挟まれた充塡縄文帯と「８」字貼付文を伴う有刻の隆線がめぐる。
2	縄　文 土　器	壷	－，12.5，－	砂粒を含む	暗茶褐色	内面は磨かれる。外面胴部は沈線と充塡縄文による文様。口縁部には小突起を境に両端を刺突する沈線がめぐる。
3	縄　文 土　器	深鉢	－，12.0，－	砂粒、赤褐色粒子を含む	暗褐色	内面は磨きがかけられる。 口縁部に有刻隆線と「８」字状文が組み合わされている。

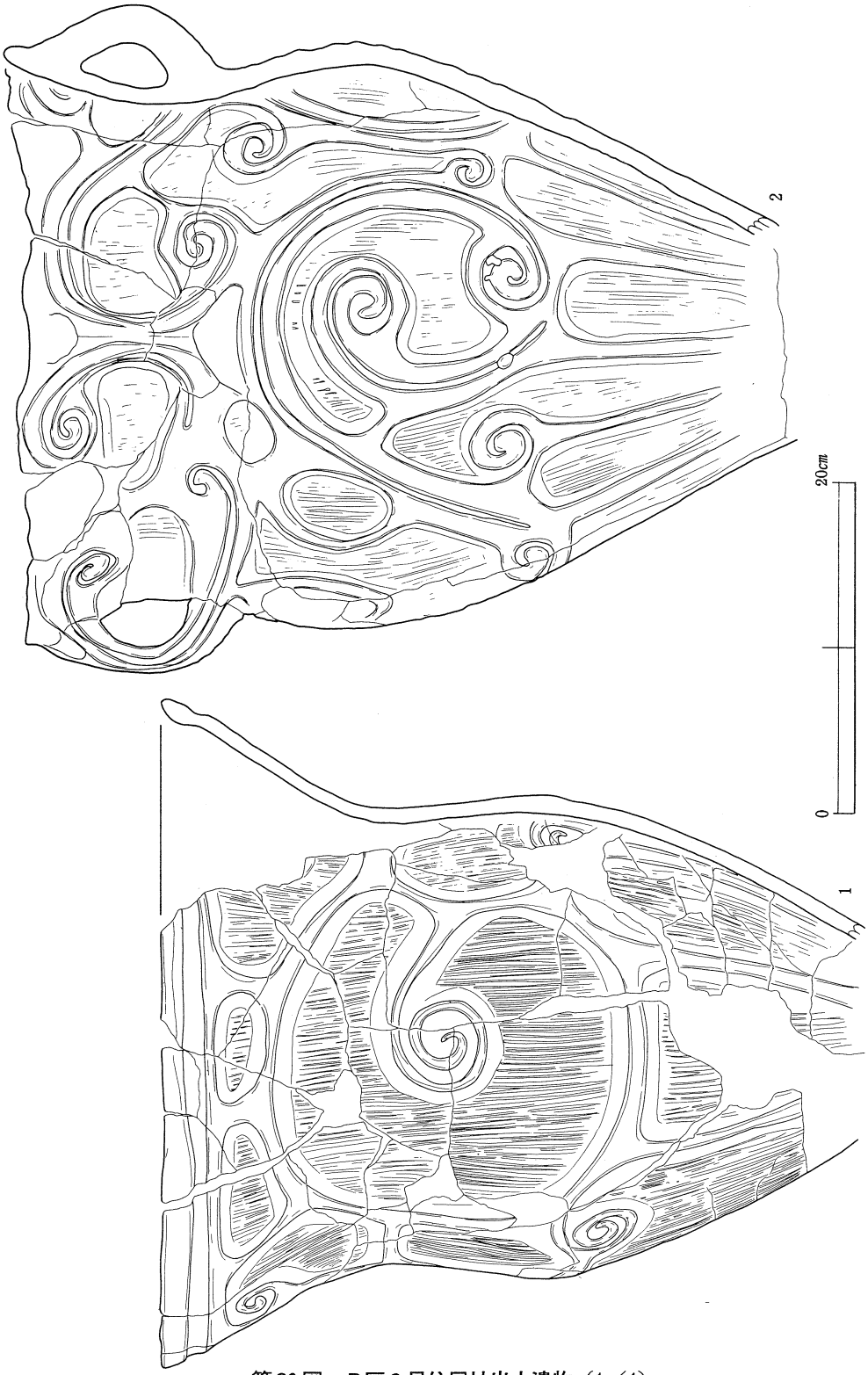
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
4	縄　文 土　器	鉢	7.5，　－，　－	細かい砂粒を含む	暗褐色	器面は磨きがかけられる。 口縁部～頸部、有刻隆線＋「８」字状文。 胴部は、充塡縄文と沈線による窓枠状三角形文。
5	縄　文 土　器	鉢	－，23.0，　－	砂粒を含む	暗褐色	器面は丁寧に磨かれる。口縁部は刻目・押え・沈線がめぐる。胴部外面は沈線・刺突列・充塡縄文により施文される。
6	縄　文 土　器	深鉢	－，32.0，　－	砂粒を含む	淡橙褐色	内面は磨かれ、口縁に沈線がめぐる。外面口縁部は、小突起・有刻隆線と「８」字状文が組み合わされる。胴部には沈線による楕円形の窓枠状文がみられる。
7	縄　文 土　器	深鉢	－，16.8，　－	砂粒を含む	暗褐色 白褐色	内面は磨きがかけられる。 口縁部には円形貼付文を伴う有刻隆線がめぐる。
8	縄　文 土　器	浅鉢	－，32.0，　－	砂粒を含む	暗褐色系 褪褐色	器面は磨きによる仕上げ。口唇部に有刻の小突起と刺突列がめぐる。 口縁部内側には沈線と充塡縄文による文様。
9	縄　文 土　器	深鉢	－，17.5，　－	砂粒を含む	暗褐色	器面は比較的丁寧な磨きにより仕上げてある。刻目・沈線・磨消縄文等により口縁部に文様が施される。
10	縄　文 土　器	注口	11.5，　－，　－	細かい砂粒を含む	暗褐色系 黒褐色系	器面は比較的丁寧に磨かれる。 外面には曲線的な集合沈線文が施されている。
11	縄　文 土　器	鉢	－，25.5，　－	砂粒を含む	白褐色系	内面は磨きが施されている。 口縁部内側に沈線がめぐる。
12	縄　文 土　器	鉢	－，18.8，　－	砂粒を含む	褪暗褐色 暗灰褐色	磨きにより仕上げられる。
13	縄　文 土　器	浅鉢	4.8，14.0，　6.5	砂粒を含む	白褐色系 黒斑あり	内・外面撫で磨き仕上げ。
14	縄　文 土　器	深鉢	－，20.0，　－	砂粒を含む	褪赤褐色	内面はは粗い磨きが施される。
15	縄　文 土　器	深鉢	－，35.3，　－	砂粒を含む	褪褐色 暗褐色系	器面は磨滅によりザラつく。 粗製の大型深鉢形土器。
16	縄　文 土　器	深鉢	－，20.0，　－	砂粒を含む	褐色 ～暗褐色	内面は粗い磨き。 口縁部に沈線がめぐる。 外面は削りふうの撫で。
17	縄　文 土　器	深鉢	－，23.8，　－	砂粒を含む	暗灰褐色	内面は雑な磨き。 外面は粗い撫で。 口縁部は刻目がめぐり、内側に沈線が横走し外側に条線が施される。
18	縄　文 土　器	深鉢	－，27.3，　－	砂粒を含む	褪赤褐色 肌色系	口縁部外側に格子状に条線が施される。若干煤ける。

番号	種　類	器形	法　　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
19		土偶				中空土偶の脚部砕片。 輪積みによりつくられる。
20	本土偶の形態は、顔をやや斜め上にあげて、水平に上げた腕を肘から垂直に下げ、腹を突き出し、股を少し広げて直立できるしっかりと踏ん張った両脚をもつ特徴的なものである。高さは21.5㎝で、両腕があった場合の長さは推定で約17㎝。 顔は頭部に平板な仮面を付けた形態で、下半を欠損するが遺存部で最大約6㎝の幅を測る。沈線及び隆帯・刺突により、顔の輪郭・額・眉・目を表している。眉を表現する隆帯は顔の中心で鼻になると思われる。口は小孔が穿たれる。頭部は半球状で、刺突と沈線による区画と、充塡縄文などにより、帽子のような表現がなされている。頭部中心の頂きには直径約5㎜、深さ4㎝程の孔が穿たれている。頸部には入り口部が直径約1㎝、中央が直径約5㎜の孔が横に貫通している。胴部は、乳房の表現はなされておらず、臍を頂点として腹部が膨らんでいる。臍は沈線と隆帯により円く表現され、中心に小孔が穿たれる。背面には渦巻文、腹部及び背部には、沈線によって襷状の文様がみられる。襷状にめぐる沈線の間隙には、刺突列と縄文が施されている箇所がある。肩部は頸部から水平に突出しており、左腕は肘で垂直に折れ曲げたような表現がなされている。肩部には刺突と沈線により、方形の区画文・同心円文がみられる。屈曲した腕の外側には充塡縄文の施された沈線による方形の区画が作り出されている。右腕は欠損している。脚部は両脚とも最大幅で7.4×6㎝を測る。底の若干上でくびれ、前後の面に左右対称に縄文を充塡した幅広の「C」字形の区画文がみられる。脚の裏面は2.3×3㎝の不整楕円形に孔が空いている。脚部と背面の境界には同心円文が左右にある。脚部の付け根は穿孔されている。下腹部には、前後2箇所に刺突された小突起により陰部が表現されている。 本土偶は、頭部・左腕部を除いて中空に作られている。頭部は粘土塊を芯にその上に半球の帽子状に粘土をかぶせ、顔は板状の粘土を張り付けてある。口に空けられた小孔は、頸部の中を斜めに貫通し背部の内面まで届いている。胴部は腹部と背部を別々に作りつなぎ合わせており、器壁は一様ではなく、破片の状態で内面に指頭圧痕が多く認められた。臍の孔は貫通している。腕部は肩部で胴部に接合されている。脚部は輪積みによって作られる。（本土偶は国立歴史民俗博物館においてX線による内部観察を行った結果、断面等の構造が良好に把握できたものである。） なお、挿図の脚部底の網点部は剝落部分、断面図の網点部分は残存部分を表わしている。					

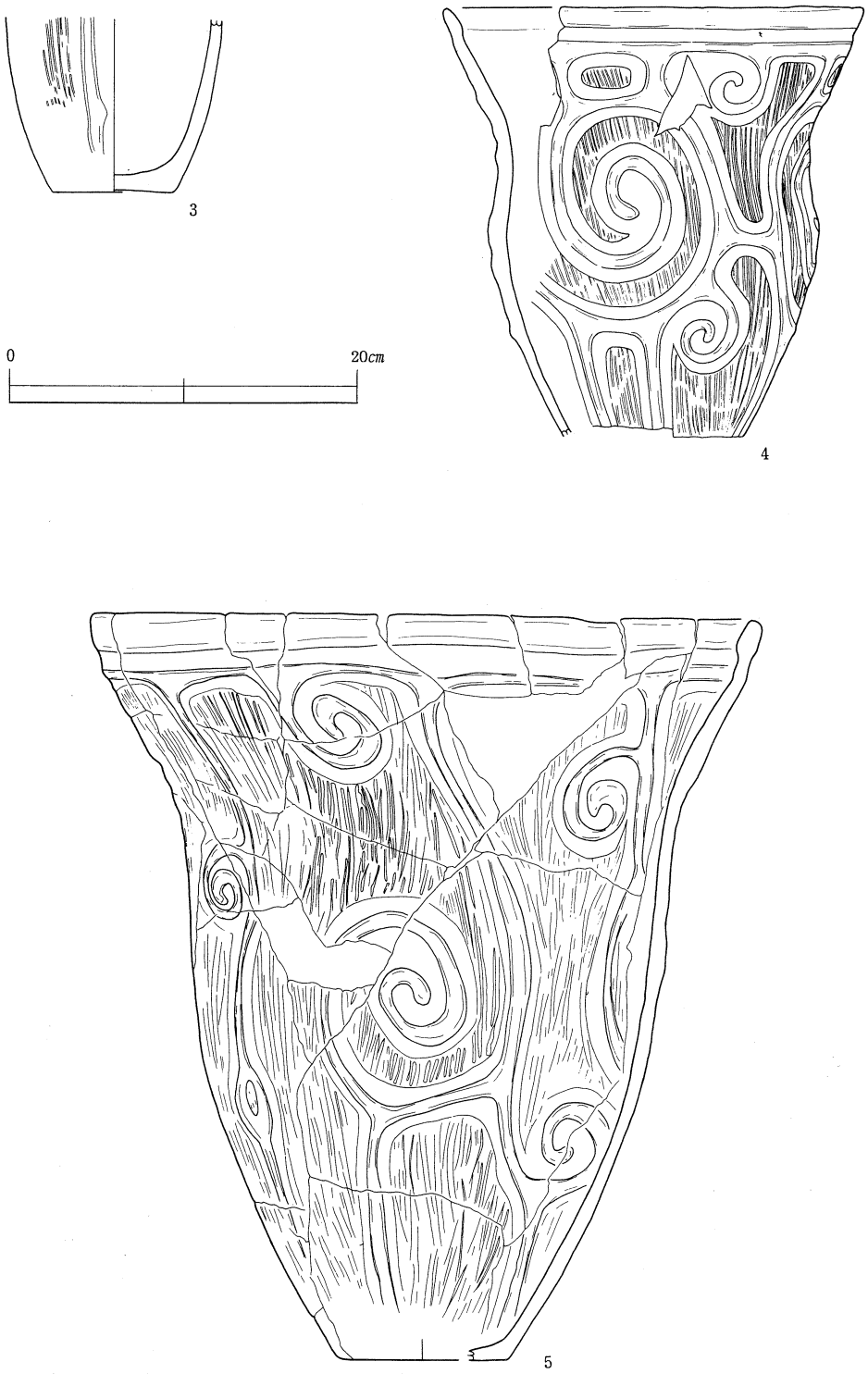
C区B－11グリッドから出土した遺物は、遺構に伴うものではなく、遺物包含層である黒褐色土中からほぼまとまって発見された。土器の型式からすれば若干の時間的幅はあるものの、土偶を含めて一括で廃棄されたものであろう。



第28図　B区1号住居址出土遺物（1／4）

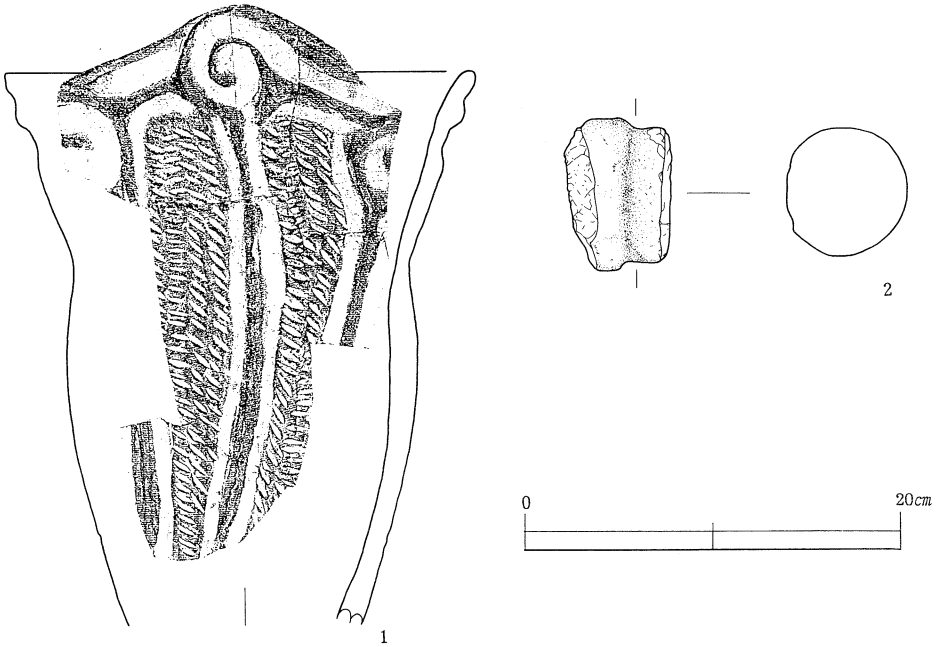


第29図　B区2号住居址出土遺物（1／4）

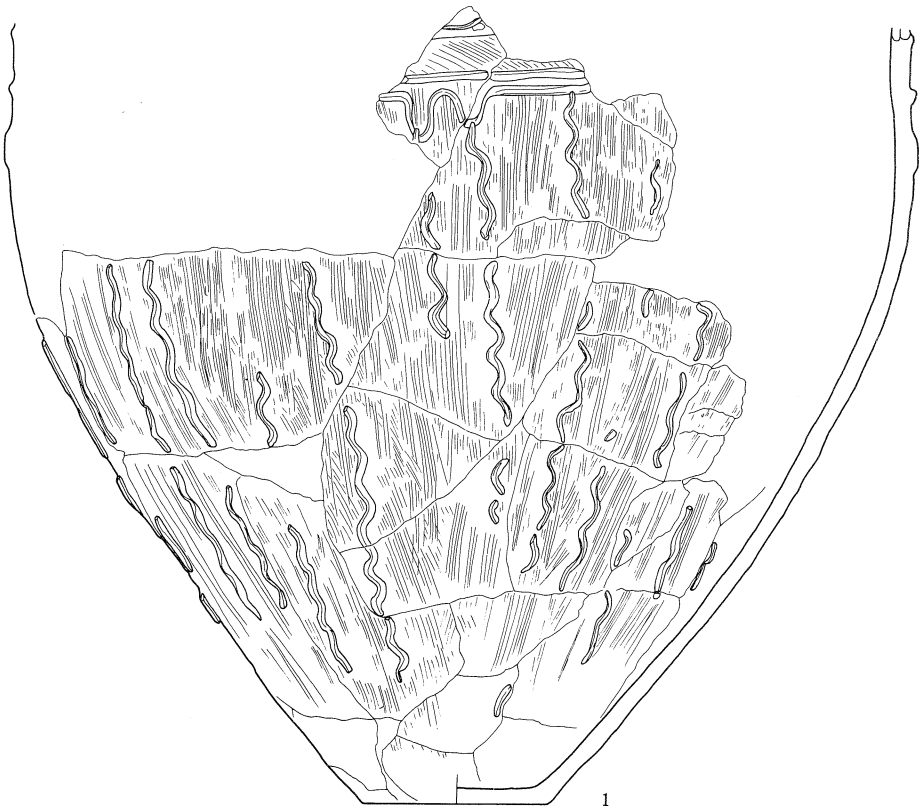


第30図　B区2号住居址出土遺物（1／4）

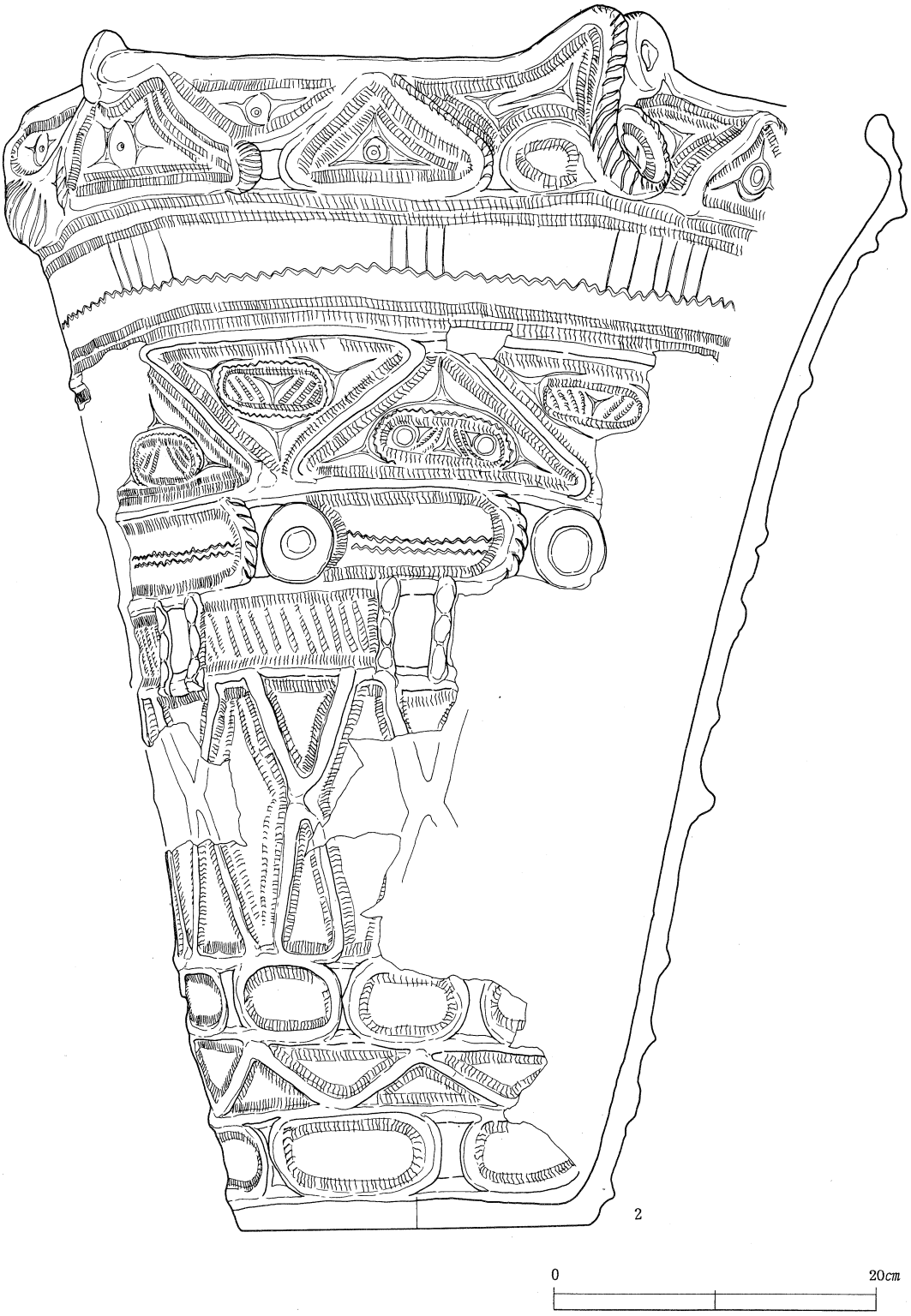
第31図　B区3号住居址出土遺物（1／4）



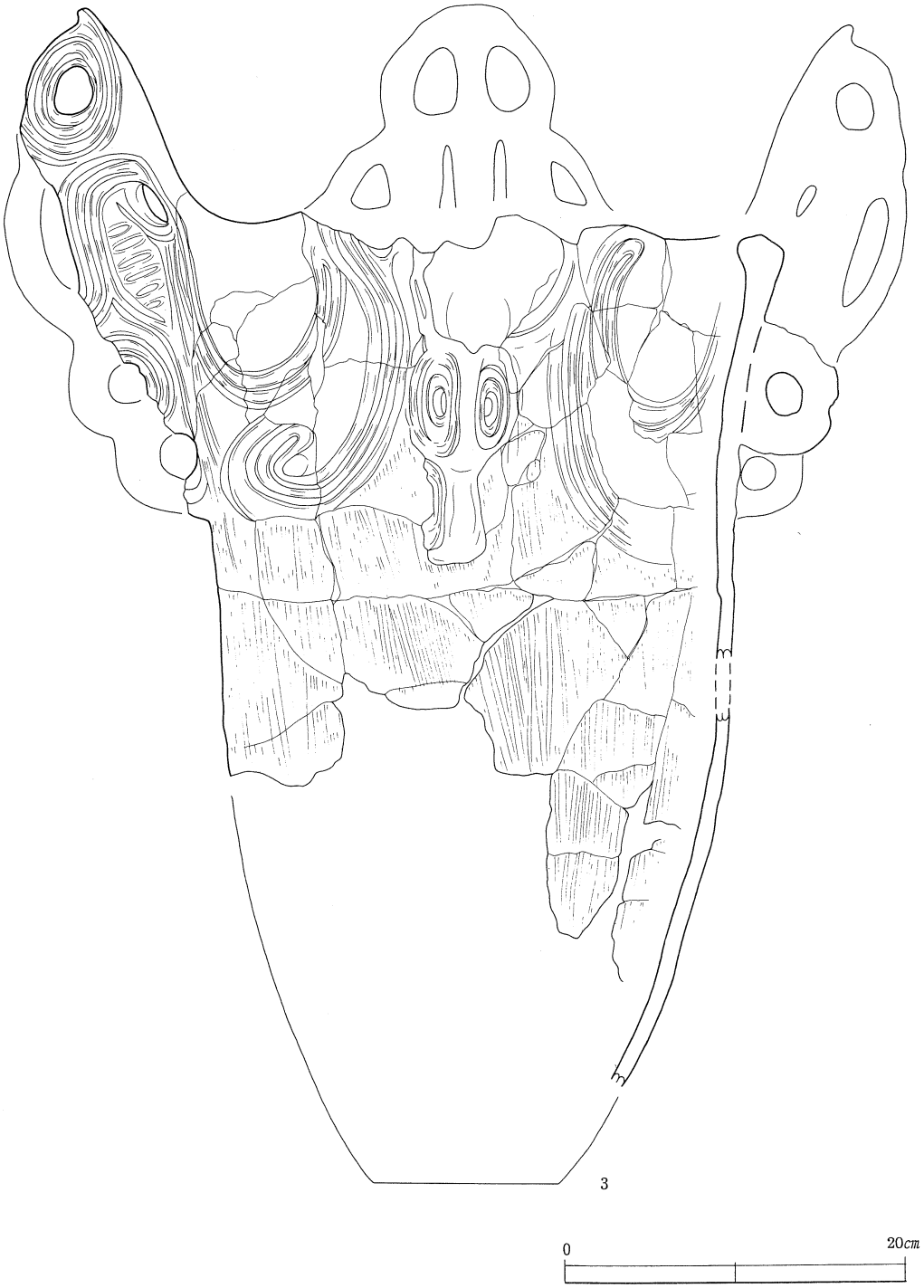
第32図　C区1号集石土坑出土遺物（1／4）



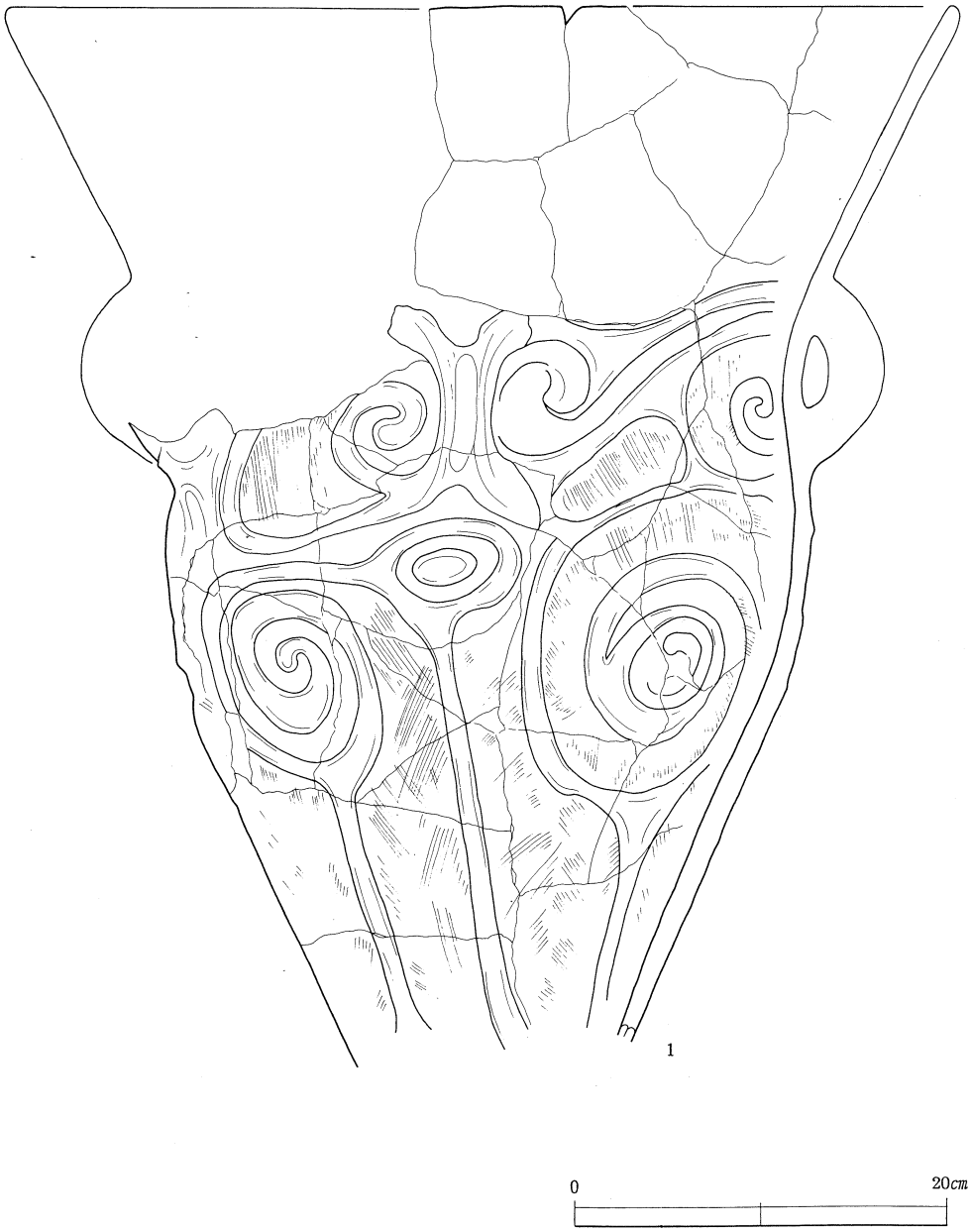
第33図　C区1号配石遺構出土遺物（1／4）



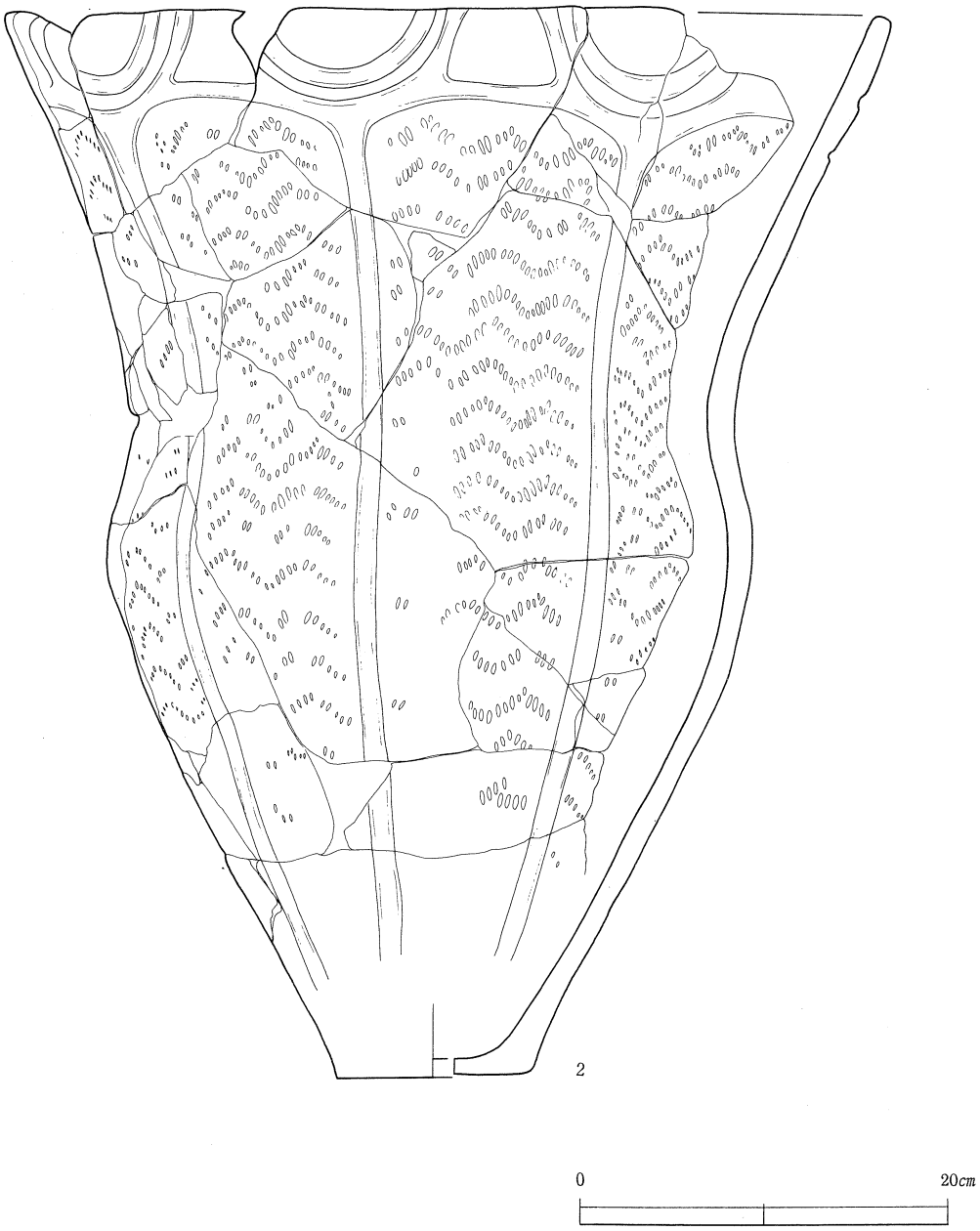
第34図　C区1号配石遺構出土遺物（1／4）



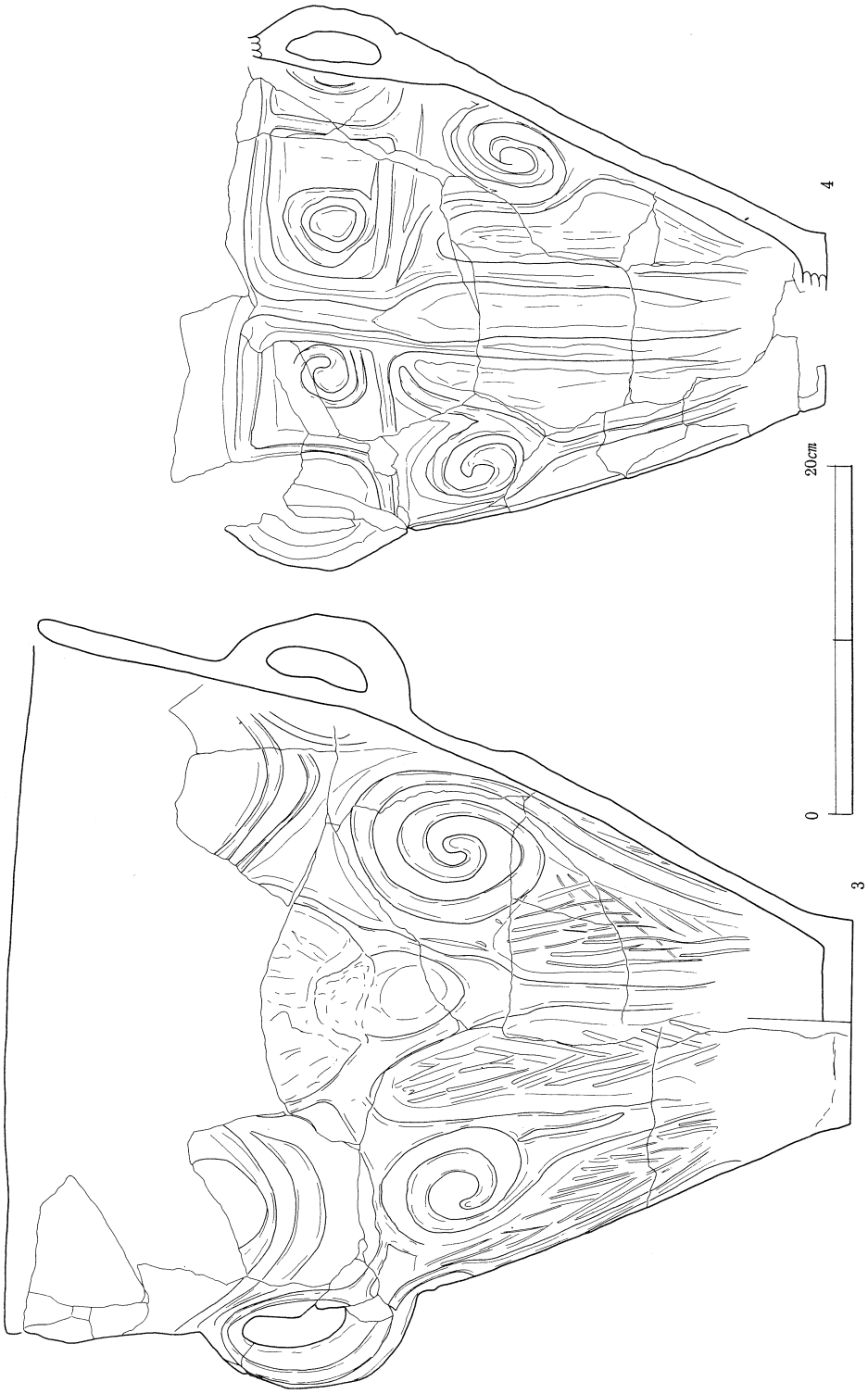
第35図　C区1号配石遺構出土遺物（1／4）



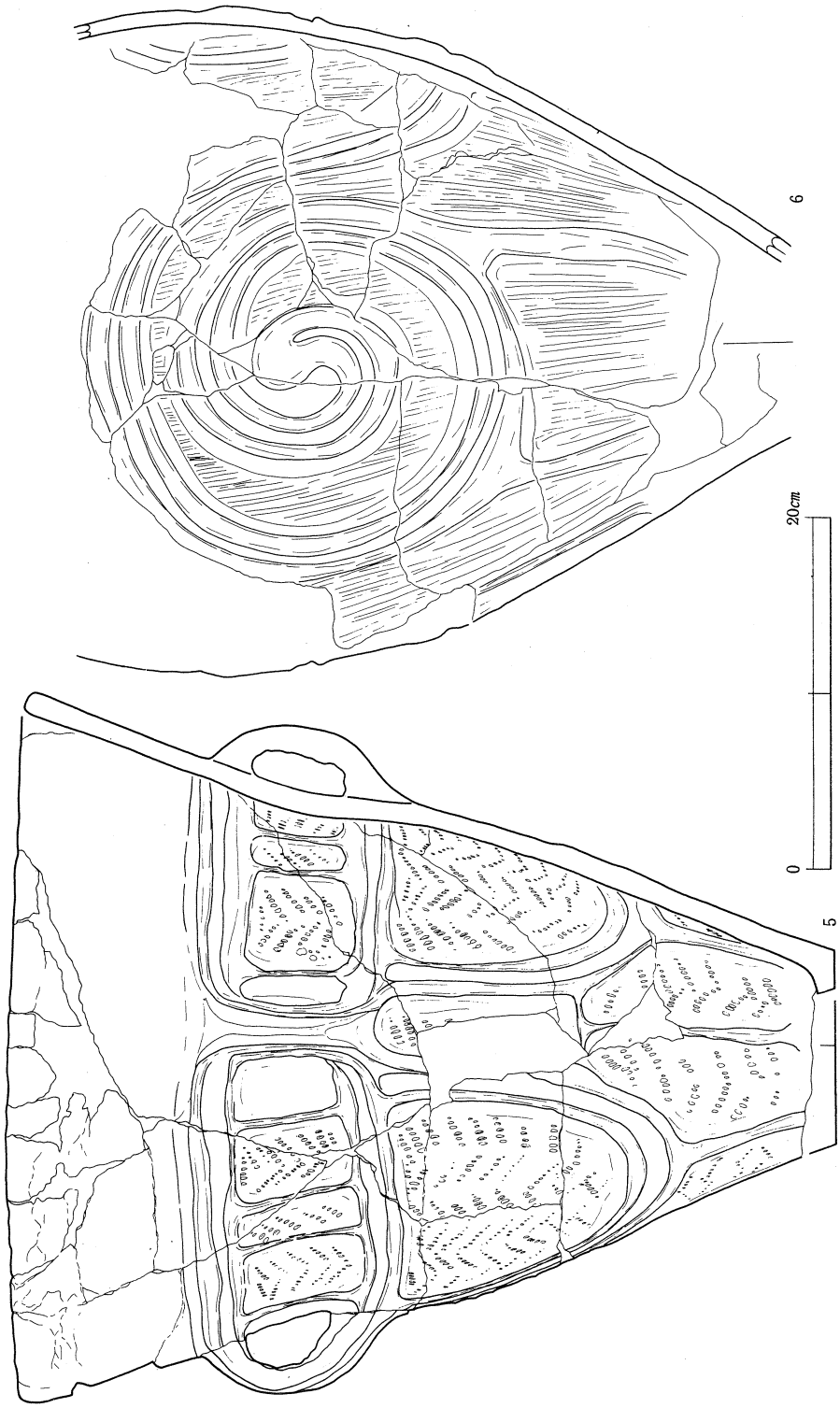
第36図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



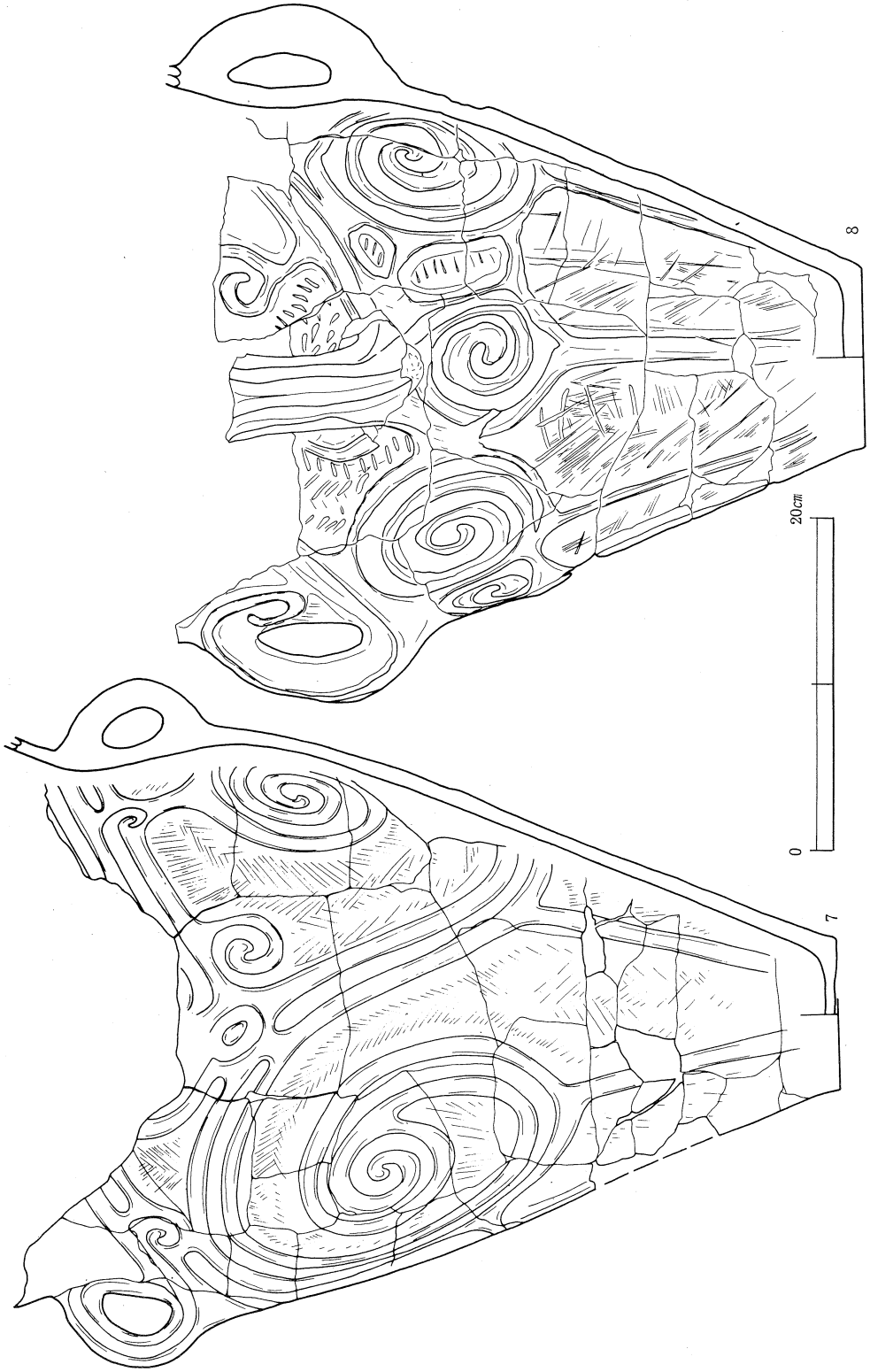
第37図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



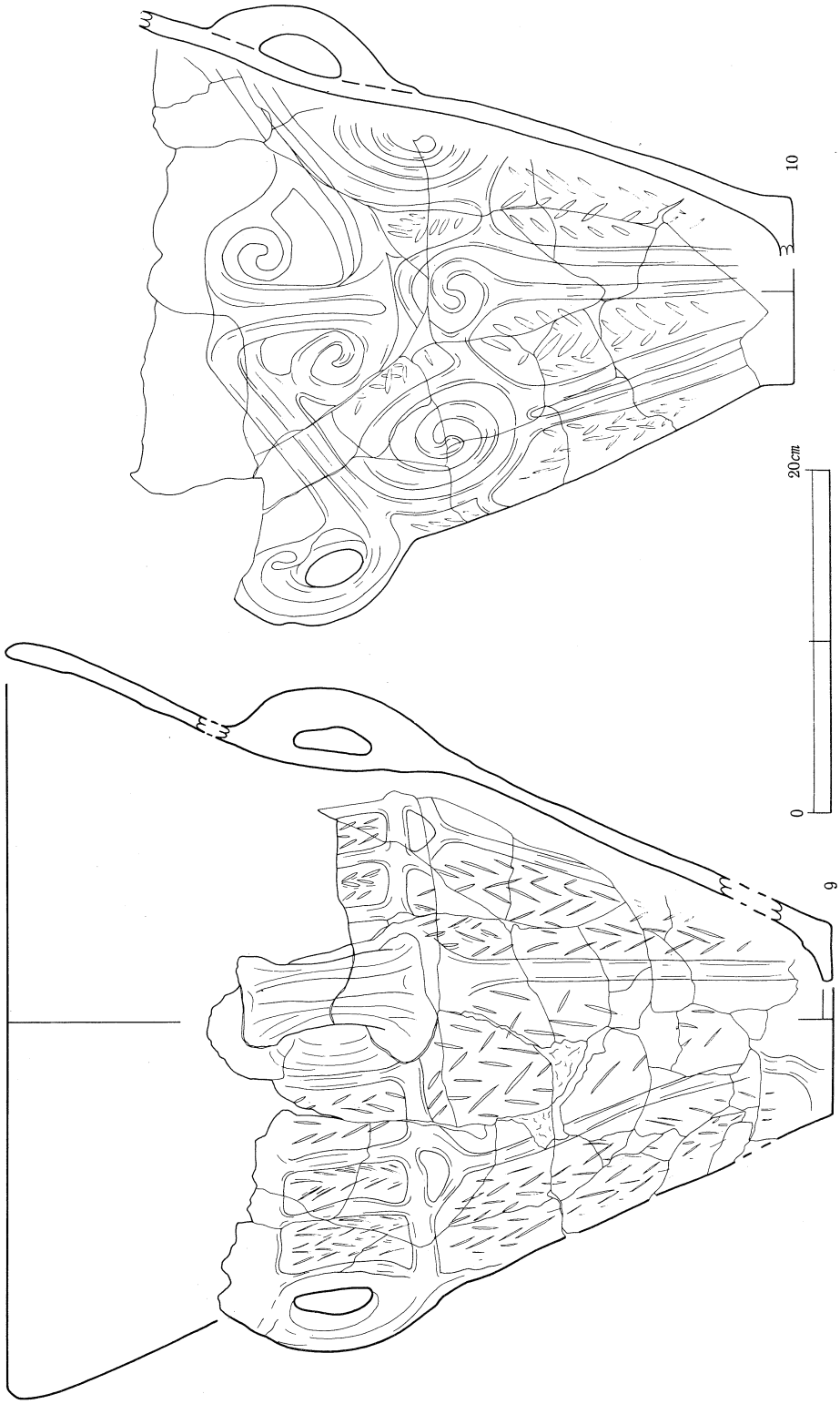
第38図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



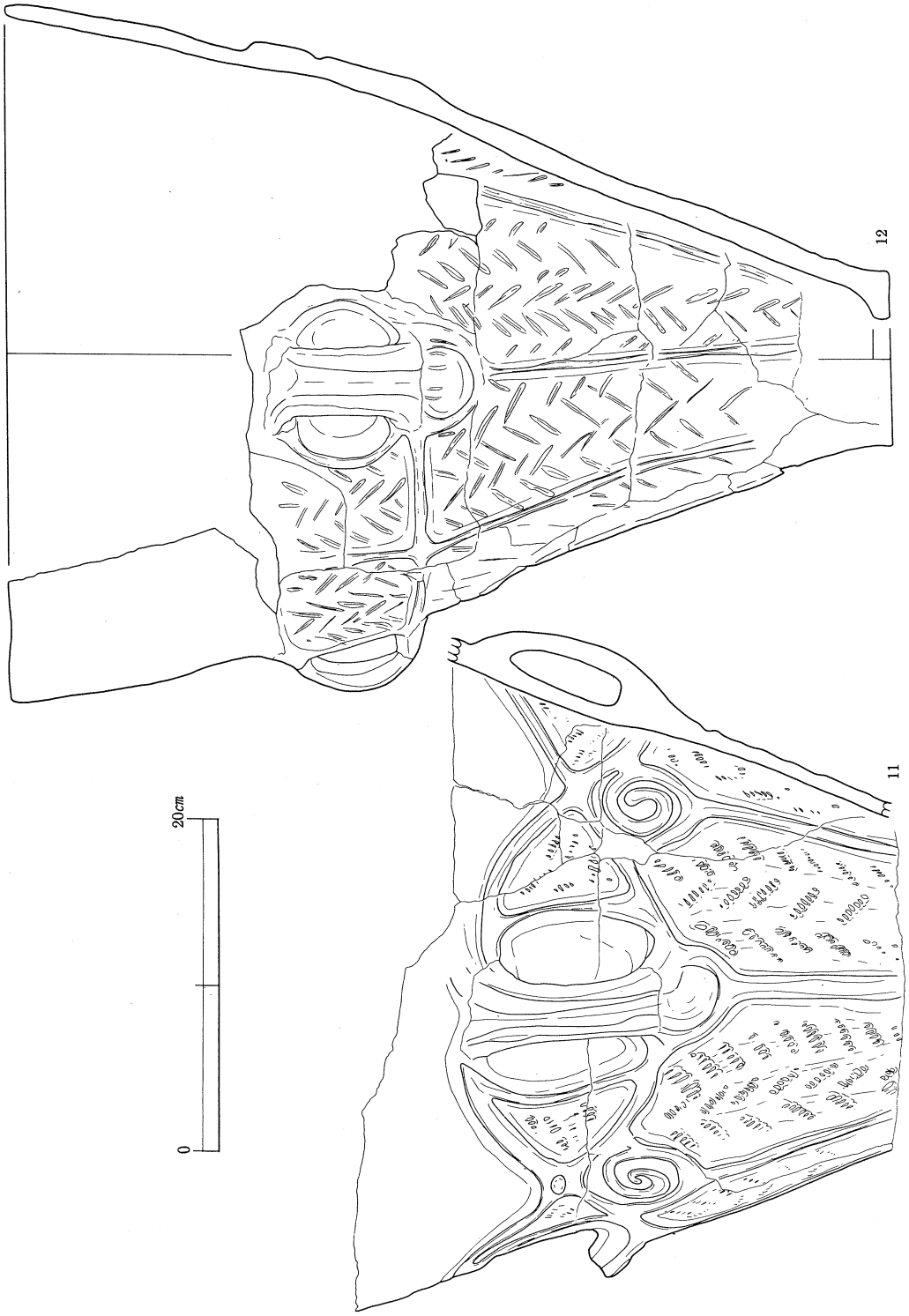
第39図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



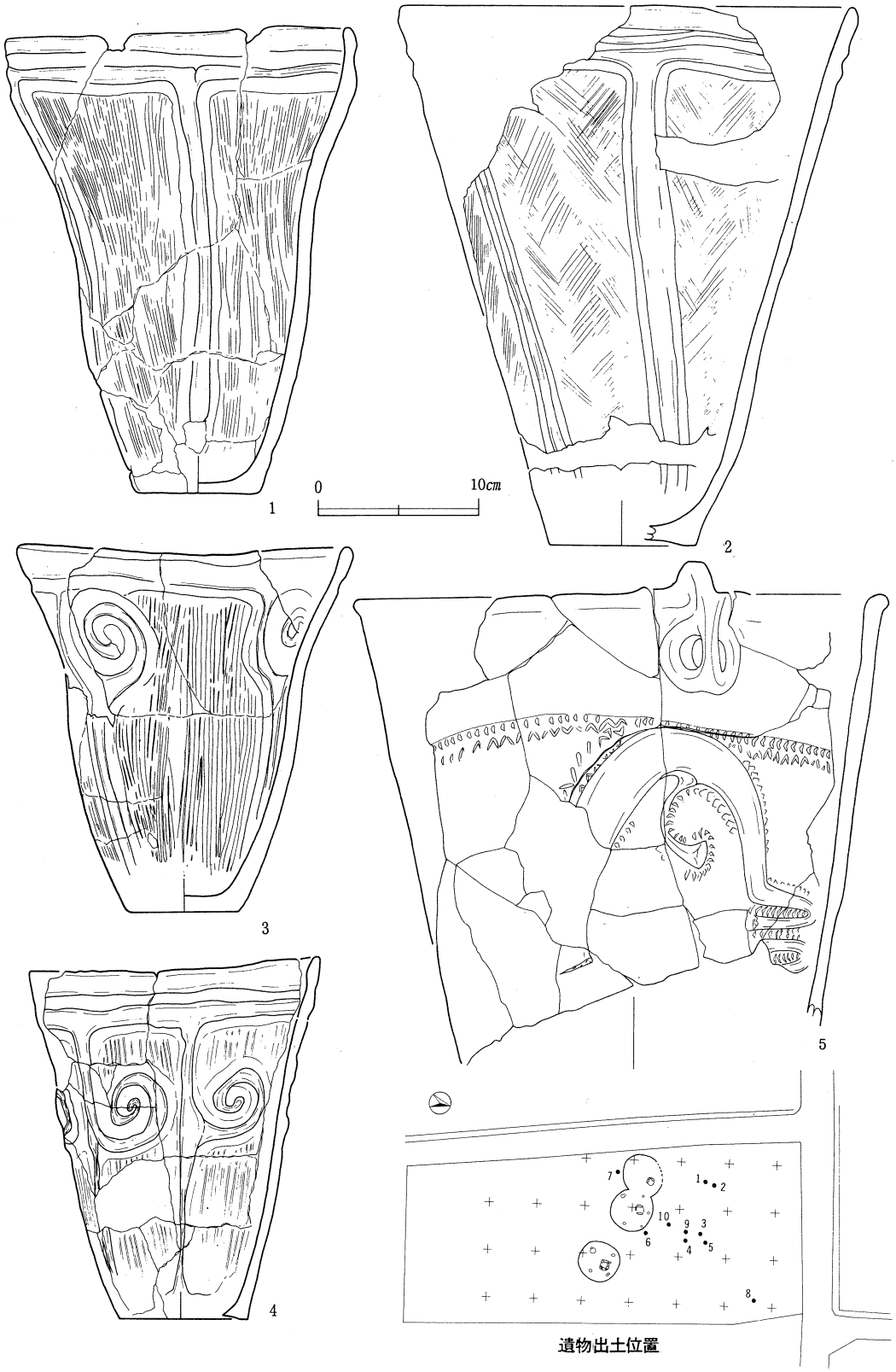
第40図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



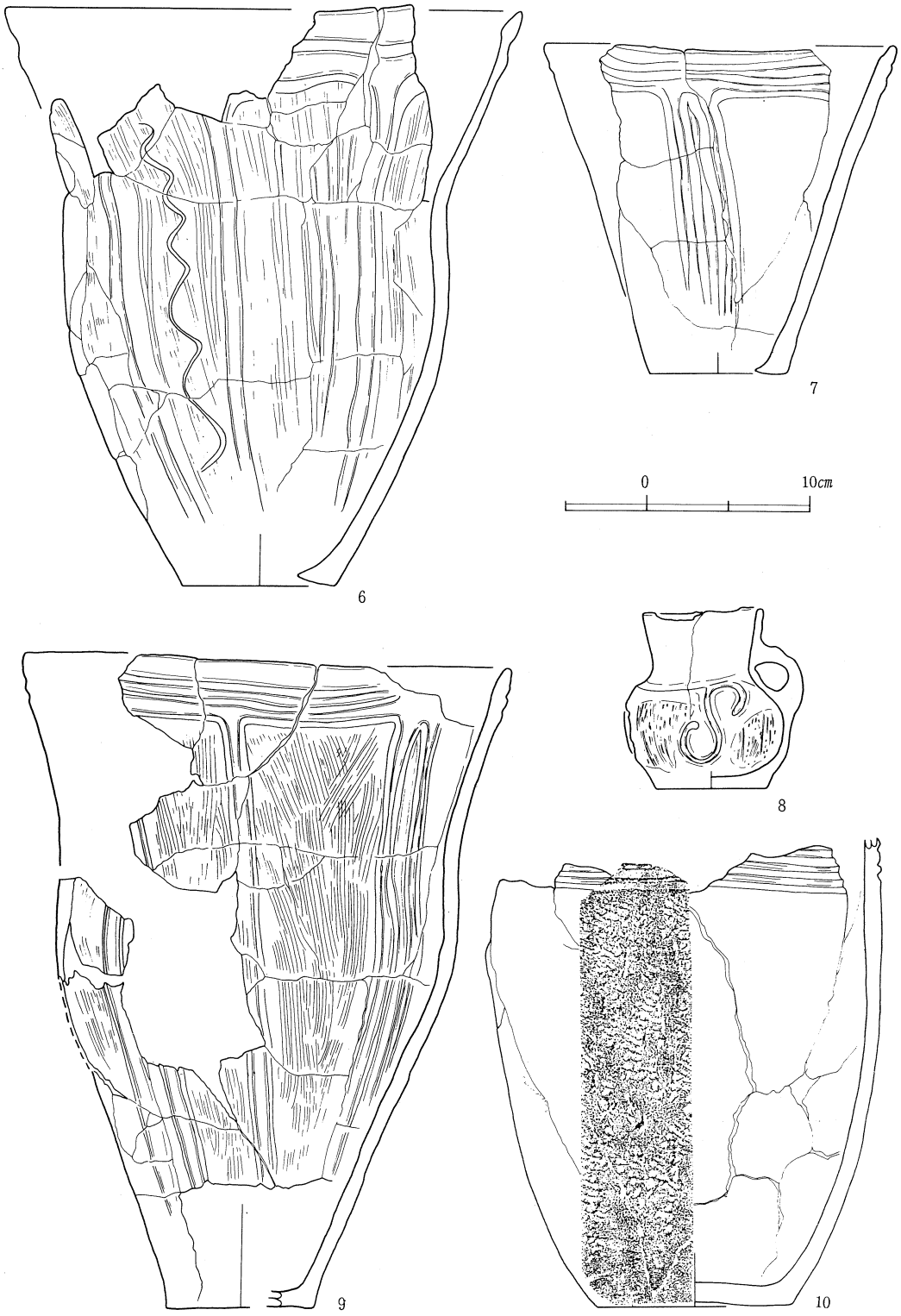
第41図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



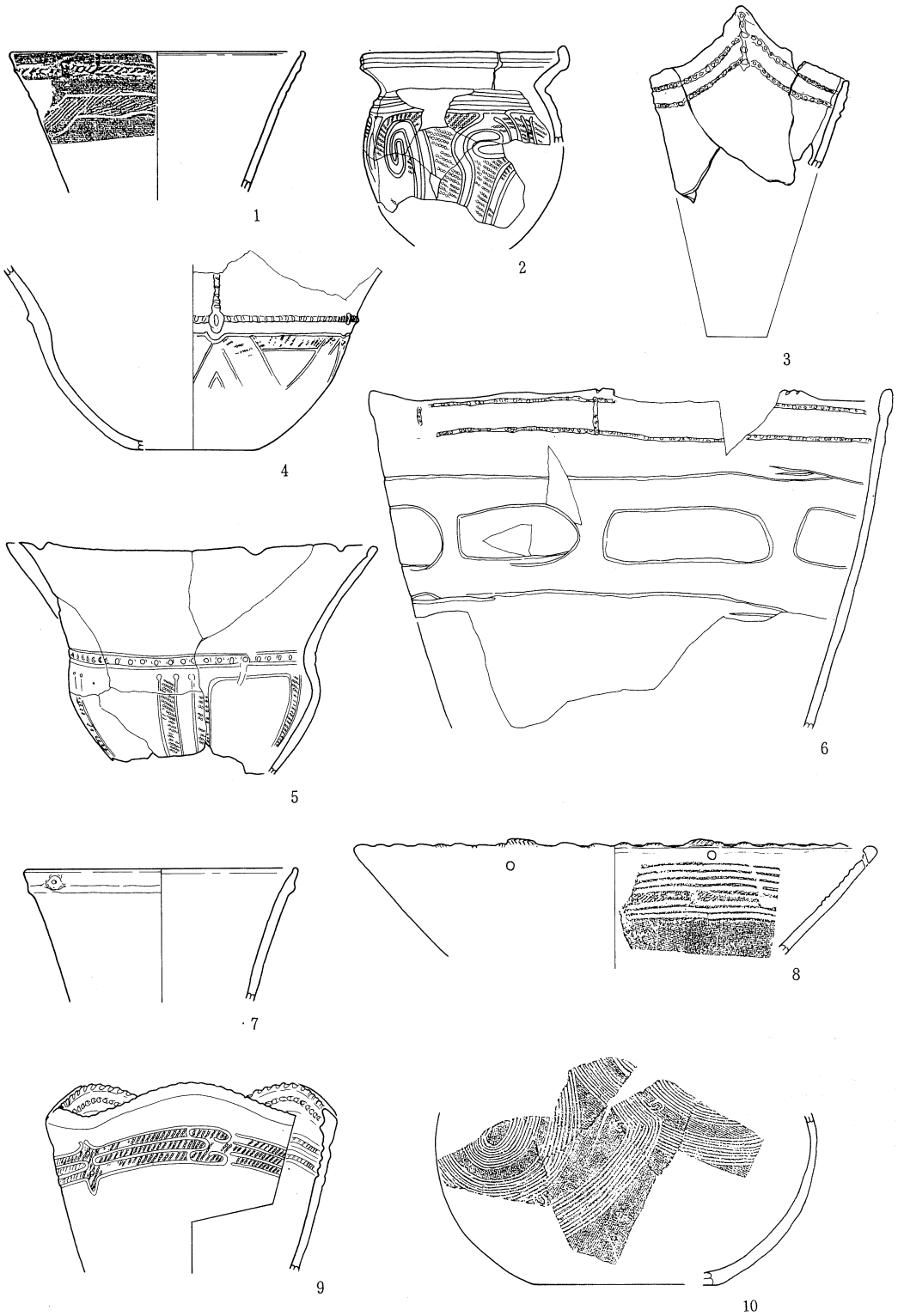
第42図　C区2号配石遺構出土遺物（1／4）



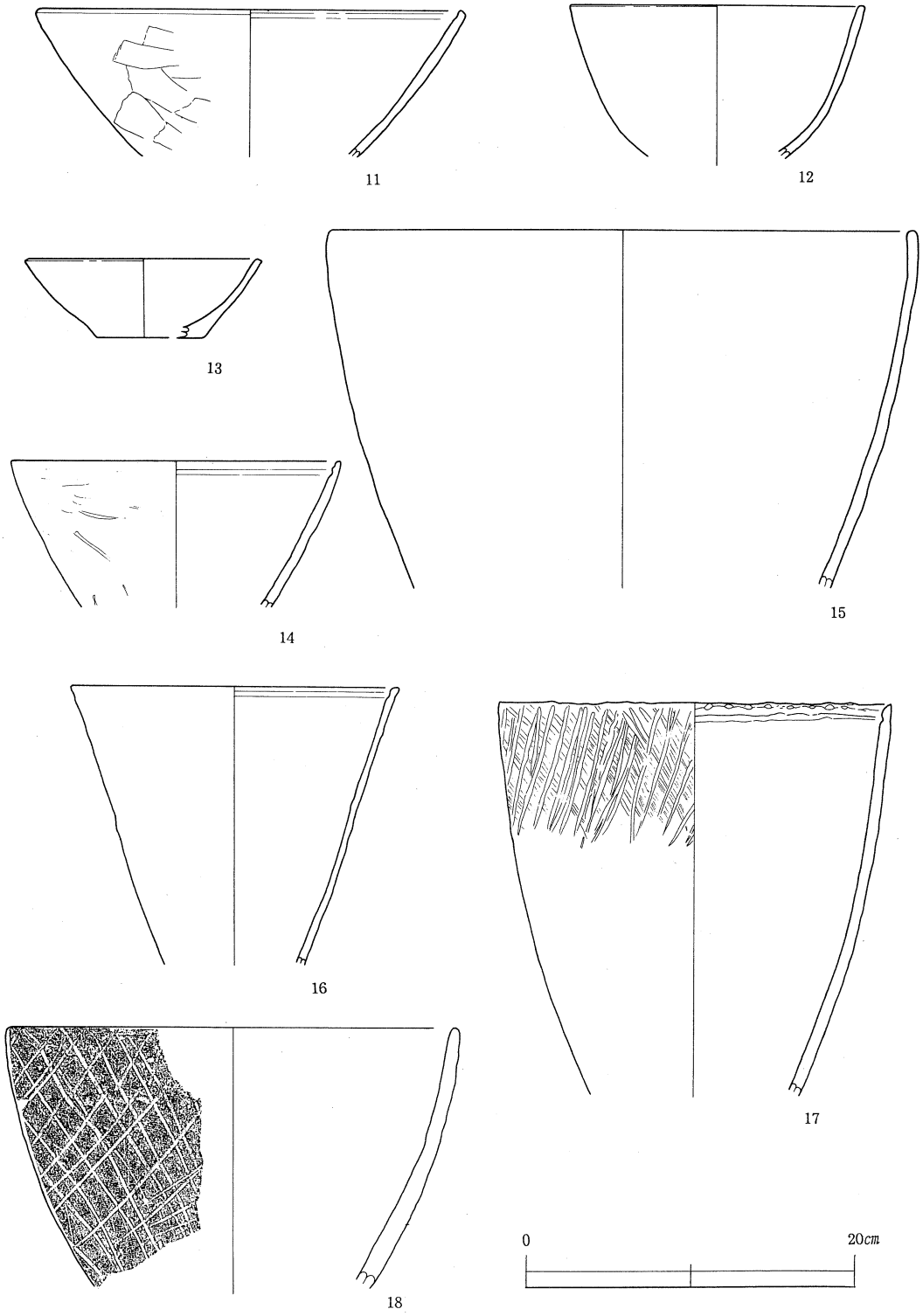
第43図　B区遺構外出土遺物（1／4）



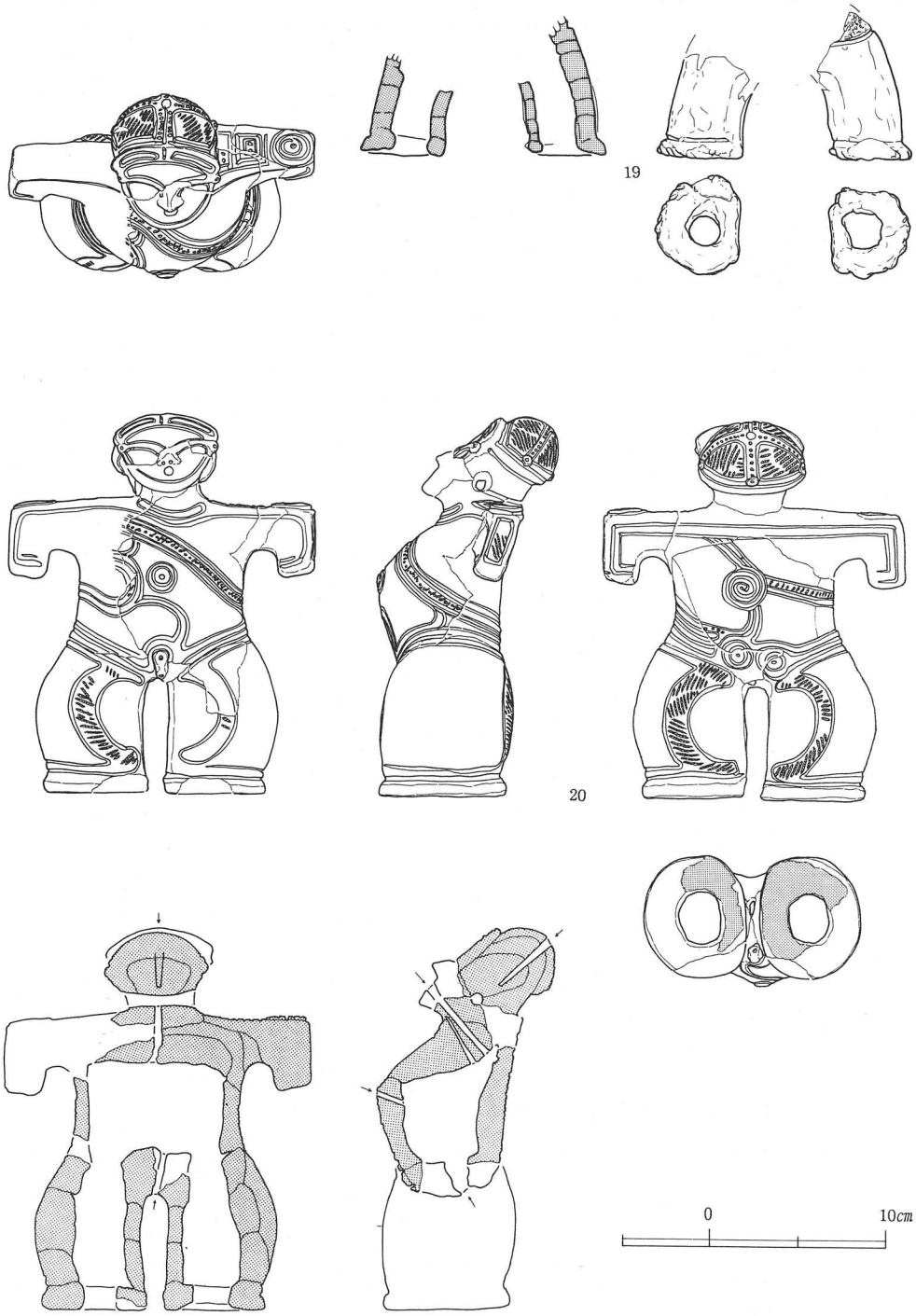
第44図　B区遺構外出土遺物（1／4）



第45図　C区B－11グリッド出土遺物（1／4）



第46図　C区B－11グリッド出土遺物（1／4）



第47図　C区B－11グリッド出土遺物（1／4）

2　古墳時代

＜C区4号住居址出土遺物＞　（第48図）

（単位　cm）

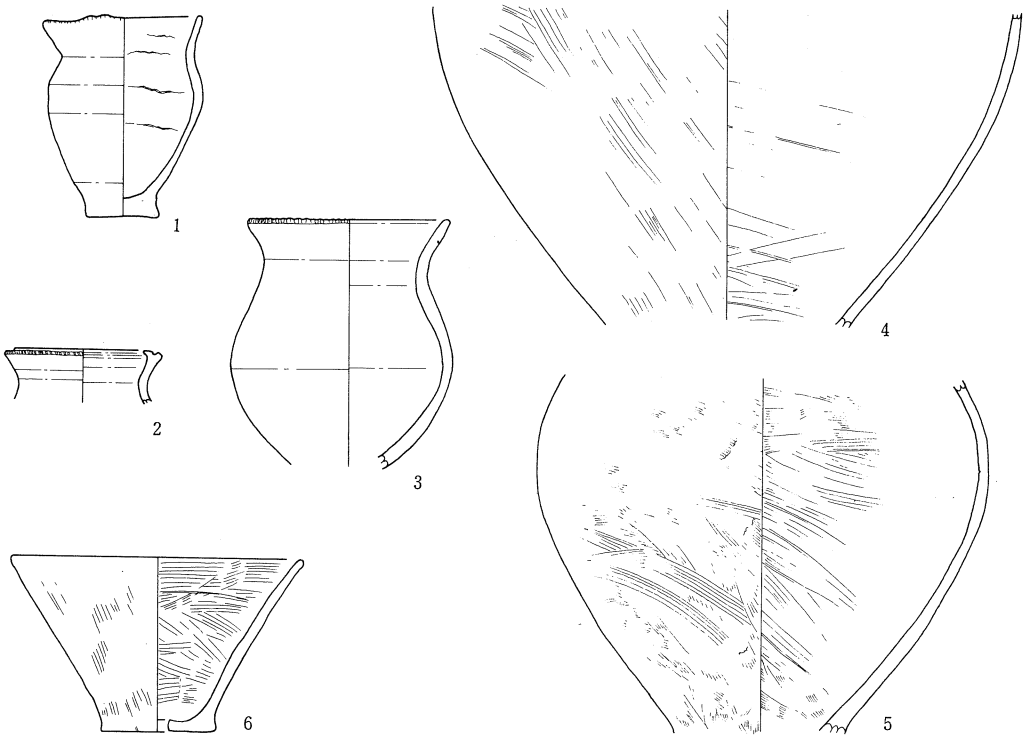
番号	器種	法量等／胎土／色調 整形・特徴・その他
1	壷	口径8.4　底径3.7　器高10.5　完形　／　砂粒を含む　／　肌色～白褐色系 口縁部横撫で、器面は撫で等の整形が施されたと思われるが、磨滅によりザラつく。内面に輪積み痕がみられる。小型壷。
2	壷（?）	口径約6.0　口縁部破片　／　砂粒を含む　／　白褐色系 器面は磨きにより仕上げてある。口縁部端に刻目がめぐり、その内側に沈線がまわっている。
3	甕	口径10.5　底部欠損　／　細かい砂粒を含む　／　白褐色系 器面は撫で及び磨きにより仕上げられるが、磨滅によりザラつく。口縁部に刻目がめぐる。外面若干煤付着。
4	甕	胴部破片資料　／　細かい砂粒を含む　／　肌色系 内面は削り及び撫で、磨き。外面は刷毛目状の撫でがみられる。
5	甕	胴部破片資料　／　細かい砂粒を含む　／　褪赤褐色 内面は刷毛目状の痕跡が残る粗い磨きが施される。外面は刷毛目痕あり。
6	甑	口径15.3　底径6.0　器高9.3　⅕欠損　／　細かい砂粒を含む　／　薄茶色 口縁部横撫で、内面は刷毛目痕あり。外面は磨き、撫でによって仕上げられるが刷毛目痕がみられる。底部に単孔があく。

＜C区5号住居址出土遺物＞　（第49・50図）

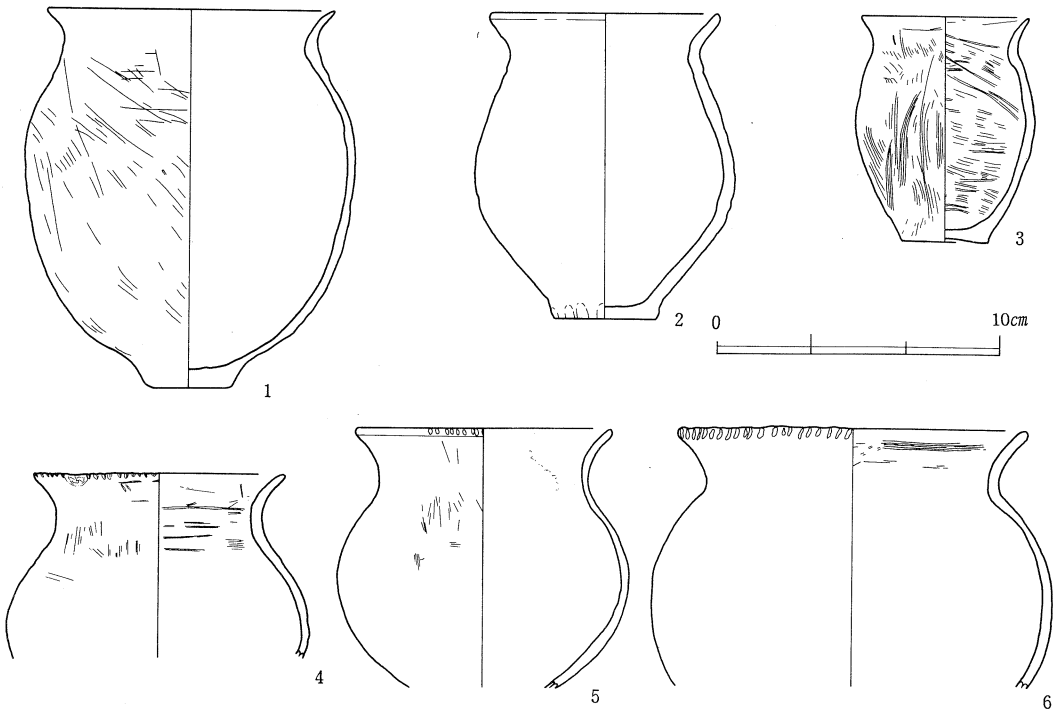
（単位　cm）

番号	器種	法量等／胎土／色調 整形・特徴・その他
1	壷	口径15.2　底径約4.0　器高20.0　⅕欠損　／　細かい砂粒を含む　／　黒褐色 口縁部横撫で、胴部外面は撫で及び粗い刷毛目状の痕跡がみられる。胴部内面は細かい刷毛目状の撫で乃至磨きが施される。
2	壷	口径12.0　底径5.3　器高16.2　口縁部若干欠損　／　細かい砂粒を含む　／　白褐色系 撫で、磨きにより仕上げられたと思われるが、磨滅によりザラつく。
3	壷	口径8.8　底径4.5　器高12.0　完形　／　細かい砂粒を含む　／　白褐色～褪赤褐色 口縁部横撫で、外面は比較的明瞭に刷毛目痕がみられる。胴部内面は棒状工具による磨きが施される。
4	甕	口径13.2　½欠損　／　砂粒を含む　／　褪褐色系 口縁部は横撫でされ、刻目がめぐる。頸部内側に刷毛目痕がみられる。胴部内外面は撫で乃至磨きにより仕上げられるが、磨滅によりザラつく。外面に若干煤付着。台付甕か?

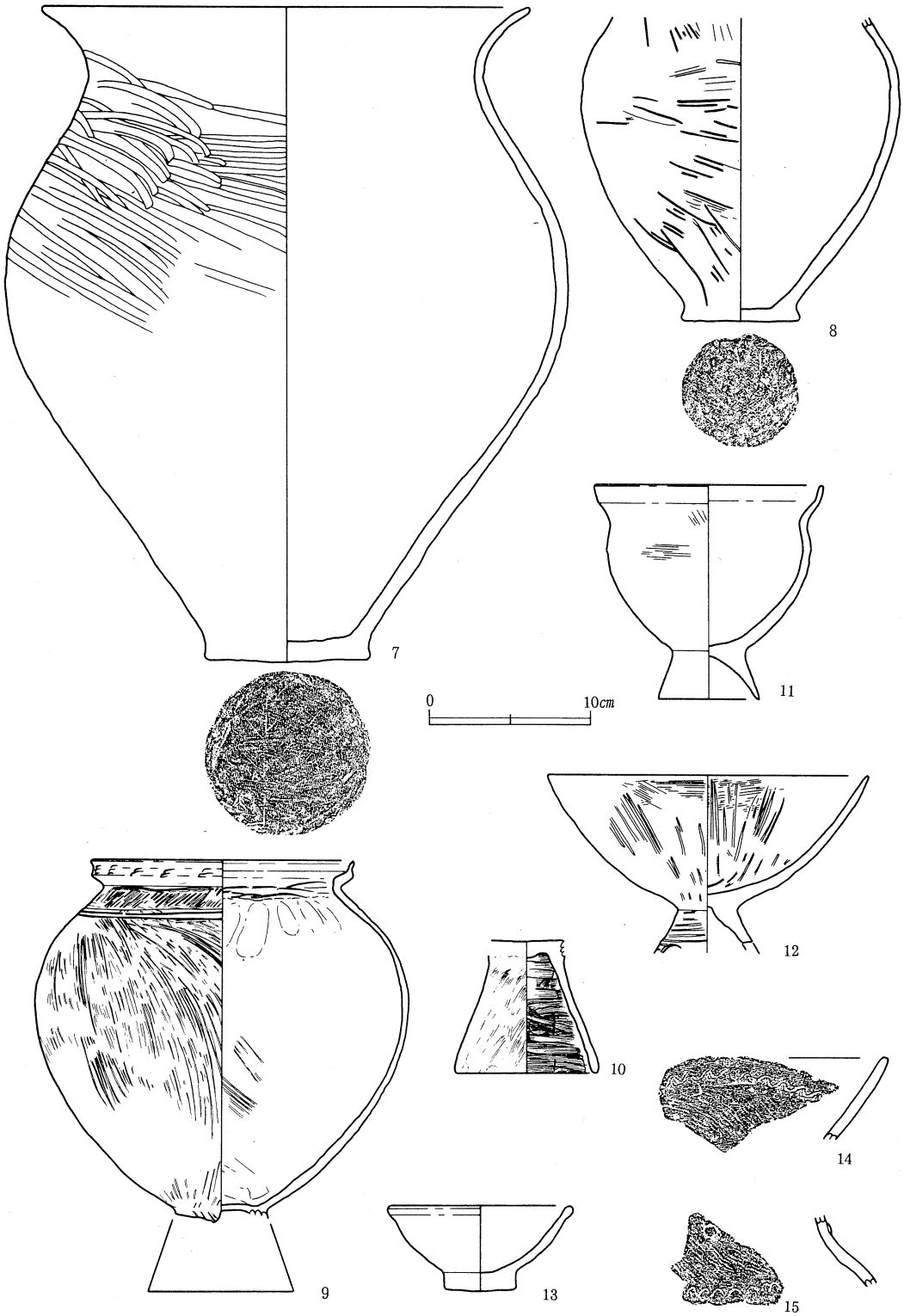
番号	器種	法量等／胎土／色調 整形・特徴・その他
5	甕	口径 13.4　⅓ 欠損　／　砂粒を含む　／　外面　赤褐色〜褐色　内面　暗褐色
		口縁部は横撫でされ、刻目がめぐる。胴部内面は磨きが施され、外面には刷毛目痕がみられる。台付甕か？　内外面に若干煤付着。
6	甕	口径 18.2　⅔ 欠損　／　砂粒を含む　／　褐色
		口縁部には櫛歯状工具による刻目がめぐる。外面は細かい刷毛目が顕著である。内面は刷毛目整形の後磨きがかけられる。
7	甕	口径 30.0　底径 10.0　器高 40.3　½ 欠損　／　比較的細かい砂粒を含む　／　白褐色
		口縁部は横撫でされ、刻目がめぐる。胴部外面上半は斜位の細かい刷毛目状の整形、下半は撫でが施される。器内面は撫で整形で、頸部に若干刷毛目痕がみられる。底部木葉痕あり。
8	甕	底径 7.3　½ 欠損　／　砂粒を含む　／　灰褐色系
		外面は棒状工具による撫で、内面は撫で乃至磨きが施される。
9	台付甕	口径 16.0　⅓ 及び脚台部欠損　／　砂粒を含む　／　暗褐色
		S字状口縁部は横撫でされ、外側に刷毛状工具による刺突がめぐる。頸部内面は刷毛目痕がある。外面頸部下には比較的粗い刷毛目が施される。外面頸部下に煤付着。
10	台付甕	底径 8.7　脚台部破片　／　細かい砂粒を含む　／　白褐色系
		内外面ともに刷毛目痕あり。
11	台付甕	口径 14.0　底径 6.2　器高 13.2　⅓ 欠損／微砂粒を含む／外面 褪赤褐色 内面 暗褐色
		磨滅が著しく、器面がザラつき整形等が不明瞭。外面に僅かに刷毛目痕がみられる。
12	高坏	口径 19.7　⅓ 欠損　／　微砂粒を含む　／　褪褐色
		坏部は刷毛整形の後、放射状に箆磨きが施されている。脚部は欠損しているが，円孔が3カ所にあくと思われる。
13	鉢	口径 11.0　底部 4.3　器高 5.2　口縁部若干欠損　／　砂粒を含む　／　暗褐色
		撫でにより仕上げられている。
14	壷	／　砂粒を含む　／　外面 褪橙褐色　内面 薄茶色
		結節縄文が内側に施される。壷形土器の口縁部資料と思われる。15 と同一個体か？
15	壷	／　砂粒を含む　／　褪橙褐色
		胴部外面に円形貼付文及び結節縄文が施される壷形土器の破片資料。



第48図　C区4号住居址出土遺物（1／4）



第49図　C区5号住居址出土遺物（1／4）



第50図　C区5号住居址出土遺物（1／4）

3　奈良・平安時代

＜A区１号住居址出土遺物＞　（第51図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	－，　－，　－	砂粒を含む	褪褐色	外面に横撫でと、叩目がみられる。 胴部破片
2	土師器	甕	－，　－，　－	砂粒を含む	暗褐色 褪褐色	外面に縦位の刷毛目痕あり。 胴部破片

＜C区１号住居址出土遺物＞　（第52・53図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.25，11.6，5.0	赤褐色粒子 砂粒を含む		底部回転糸切り 1/5 欠損
2	土師器	坏	4.1，12.4，4.0	赤色粒子を含む	茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部ヘラ削り　2/3 欠損
3	土師器	坏	3.85，12.2，3.9	白色粒子を含む	赤茶褐色 黄茶褐色 一部黒変	体部下半、底部ヘラ削り 口縁部欠損
4	土師器	坏	4.0，13.4，－	赤色粒子 砂粒を含む	黄茶褐色 黄橙褐色	体部下半、底部ヘラ削り 3/4 欠損
5	土師器	坏	4.2，16.2，－	赤色粒子 砂粒を含む	茶黄褐色	体部下半、底部ヘラ削り 墨書あり　3/4 欠損
6	土師器	坏	4.0，12.4，3.6	赤褐色粒子 砂粒を含む	黄茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 墨書あり 底部糸切り後、ヘラ削り　1/3 欠損
7	土師器	坏	3.85，12.4，3.0	赤色粒子 砂粒を含む	黄茶褐色 一部黒変	底部回転糸切り後、ヘラ削り 外面　体部下半ヘラ削り 墨書あり　1/3 欠損
8	土師器	坏	3.7，14.8，6.0	茶色粒子 砂粒を含む	黒 薄茶褐色	内面　暗文あり 外面　体部下半ヘラ削り　4/5 欠損
9	土師器	坏	5.1，16.2，6.0	砂粒を含む	黒一部褐色 暗茶褐色	内面　底部回転糸切り後、ヘラ削り 外面　体部下半ヘラ削り　1/3 欠損
10	土師器	坏	5.4，17.4，7.4	赤色粒子 砂粒を含む	黒 淡橙褐色	内面　ヘラ磨き 1/2 欠損
11	土師器	皿	2.4，11.0，－	赤色粒子 砂粒を含む	淡茶褐色 一部黒変	外面　体部下半～底部にかけてヘラ削り
12	土師器	皿	2.7，12.4，－	赤色粒子 砂粒を含む	茶褐色	ロクロ水挽き後、底部ヘラ削り 2/5 欠損
13	土師器	皿	2.5，12.4，3.0	赤褐色粒子 砂粒を含む	暗茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部墨書あり　1/3 欠損
14	土師器	皿	2.6，12.1，4.0	赤褐色粒子 砂粒を含む	茶褐色 黄灰褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部ヘラ削り　1/2 欠損
15	土師器	皿	－，12.0，－	砂粒を含む	淡橙褐色	外面　体部下半ヘラ削り 墨書あり　1/2 欠損
16	土師器	皿	2.4，13.0，4.0	砂粒を含む	黄茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り離し後ヘラ削り 底部墨書あり　完形

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
17	土師器	皿	2.5，12.8，4.0	茶色粒子 粗い砂粒を含む	赤褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り 墨書あり　⅓欠損
18	石　器	砥石				全面にわたり使用痕あり
19	鉄　器	不明				
20	石　器	錘				

＜C区2号住居址出土遺物＞　（第54・55図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	－，15.6，　－	赤色粒子を含む	赤褐色	外面　ロクロ水挽 体部下半ヘラ削り 4/5欠損
2	土師器	坏	－，13.0，　－	赤色粒子を含む	黄褐色 暗茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り ロクロ水挽　口縁部破片
3	土師器	坏	6.7，17.8，　6.6	赤色粒子を含む	黒 灰黄褐色	外面　体部下半ヘラ削り 5/6欠損
4	土師器	坏	4.6，12.4，　6.0	白色粒子を含む	黒 黄茶褐色	底部回転糸切り 5/6欠損
5	土師器	皿	－，17.0，　－	赤色粒子を少量含む	淡茶褐色 黄茶褐色	ロクロ水挽 底部ヘラなで　破片
6	土師器	皿	2.6，11.4，　3.2	赤・白色粒子を含む	黄褐色 赤褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部糸切り 器体部に墨書（祝）？ 口縁部一部欠損
7	土師器	皿	1.9，12.4，　7.6	白・赤粒子を少量含む	淡黄茶褐色 淡茶褐色	外面　体部下半、底部ヘラ撫で 回転糸切り　½欠損
8	土師器	皿	－，12.0，　－	赤色粒子多量、白色粒子少量含む	赤褐色 赤褐色一部 暗灰色に変色	外面　体部下半ヘラ削り 4/5欠損

＜C区3号住居址出土遺物＞　（第56図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	土師器	皿	2.4，12.2，5.4	赤色粒子を含む	赤褐色	外面　体部下半ヘラ削り ½欠損
2	石　器	凹石				縄文時代の所産であろう

＜C区6号住居址出土遺物＞　（第57・58図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	3.4，14.8，10.0	白色粒子をを含む	明灰色	ロクロ水挽　破片

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
2	須恵器	高台坏	－，　－，7.6	白色粒子を僅かに含む	明灰色	ロクロ水挽 底部破片
3	土師器	坏	－，　－，4.8	茶色粒子 砂粒を含む	薄茶褐色 黄茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後、ヘラ削り ⅔ 欠損
4	土師器	坏	4.8，13.1，4.4	白色粒子 砂粒を含む	橙茶褐色 底部黒変	外面　体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後、ヘラ削り ⅔ 欠損
5	土師器	皿	2.6，12.9，4.0	白色粒子 砂粒を含む	暗茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後、ヘラ削り ⅓ 欠損
6	土師器	甑	－，　－，　－	粗い白色粒子を含む	赤褐色	内面　撫で整形、輪積痕がみられるすすけている 破片
7	土師器	甕(?)	－，14.0，　－	砂粒を含む	暗赤褐色	内面　横刷毛目 外面　口縁部横刷毛目 胴部縦刷毛目　口縁部破片
8	土師器	甕(?)	－，31.6，　－	粗い砂粒 金雲母を含む	暗茶褐色	内面　口縁部横刷毛目 胴部斜め刷毛目 外面　口縁部横刷毛目 胴部縦刷毛目　破片
9	石　器	摺石				縄文時代の所産であろう
10	石　器	石棒				縄文時代の所産であろう

＜C区幻の７号住居址出土遺物＞　（第59図）

（単位　cm）

（※ 本址は床面のみが僅かに確認され、遺物が若干出土したにすぎない。）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	土師器	蓋	－，　－，　－	赤色粒子を含む	橙褐色	つまみ部破片
2	土師器	坏	4.0，11.6，5.4	砂粒赤褐色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽。底部回転糸切り痕 外面　体部下半ヘラ削り　完形
3	土師器	皿	2.7，13.6，8.0	赤色粒子を含む	赤褐色	ロクロ水挽　⅚ 欠損
4	鉄　器	不明				

＜D区１号住居址出土遺物＞　（第60図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	鉢	15.9，24.0，6.0	白色粒子を含む	灰茶褐色	外面は叩目の後撫でが施される 外面　体部下半ヘラ削り 口縁部～底部破片
2	土師器	坏	3.55，14.9，8.0	茶色粒子 砂粒を含む	橙茶褐色 底部黒変	底部ヘラ削り ⅔ 残存
3	土師器	坏	3.1，13.0，7.0	砂粒を含む	薄茶褐色 底部黒変	ロクロによる横撫で 破片
4	土師器	甕	－，24.0，　－	金雲母 砂粒を含む	褐色 茶褐色	ロクロ横撫でによる仕上げ 外面に叩目がみられる 口縁部～胴部破片

＜D区２号住居址出土遺物＞　（第61・62図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	－，11.9，　－	白色粒子を含む	白灰色	ロクロ水挽 破片
2	須恵器	甕	－，　－，　－	砂粒を含む	灰赤褐色	外面に叩目あり　破片
3	土師器	蓋	3.2，16.6，　－	茶色粒子を含む	赤褐色	外面　回転ヘラ削り 4/5 残存
4	土師器	坏	4.1，10.8，5.8	砂粒を含む	黄茶褐色	外面　体部下半にヘラ削り 内面　暗文あり　1/2 残存
5	土師器	坏	3.5，11.3，5.8	砂粒を含む	橙薄茶色	外面　体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り　1/3 残存
6	土師器	坏	3.9，10.8，4.4	砂粒を含む	茶黄褐色	内面　口縁部～内側にかけて煤付着 4/5 残存
7	土師器	皿	2.35，12.8，6.4	砂粒を含む	黄橙褐色	底部回転糸切り離し後、回転ヘラ削り　1/2 残存
8	土師器	皿	－，13.8，　－	砂粒を含む	茶褐色 暗茶褐色	ロクロ水挽 破片
9	土師器	皿	2.7，14.8，6.8	砂粒を含む	黄橙褐色	底部回転ヘラ削り 外面　体部下半墨書あり　1/2 残存
10	土師器	甕	－，　－，7.9	粗い砂粒を含む	褪赤褐色 暗茶褐色	ロクロ整形 破片
11	土師器	小甕	－，26.0，8.8	金雲母、粗い砂粒を多量に含む	暗茶褐色	外面　刷毛整形 内面　横刷毛整形 底部に木葉痕あり 口縁部及び底部破片

＜D区３号住居址出土遺物＞　（第63・64図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	壷	－，　－，　－	精製	灰赤褐色系	ロクロ水挽 自然釉 長頸壷の頸部破片
2	土師器	蓋	－，17.8，　－	赤色粒子を含む	橙褐色	ロクロ水挽 1/4 残存
3	土師器	蓋	3.9，16.4，　－	精製	暗茶褐色	ロクロ水挽 内面に放射状暗文　口縁部一部破損
4	土師器	坏	6.0，15.4，8.4	細い赤色粒子を含む	淡茶橙褐色 淡黄褐色	付高台 2/3 残存
5	土師器	坏	－，　－，5.7	精製	黄橙褐色 茶橙褐色	ロクロ水挽 外面　細いヘラ削り　底部破片 内面　放射状暗文 底部　回転糸切り離し後ヘラ削り
6	土師器	坏	4.5，14.0，7.0	赤色、細い白色粒子を含む	淡茶褐色 茶褐色	ロクロ水挽 外面　細いヘラ削り 内面　放射状暗文　2/5 残存 底部　回転糸切り離し後ヘラ削り
7	土師器	坏	4.3，11.0，4.8	赤色粒子を含む	赤褐色	ロクロ水挽 外面　下部ヘラ削り　1/4 残存 底部　回転糸切り後ヘラ削り

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
8	土師器	皿	2.7，14.0，6.1	精製	橙褐色 (一部黒変)	ロクロ水挽 ¾ 残存
9	土師器	皿	3.1，14.9，7.0	密？	淡黄茶褐色 黄橙褐色	ロクロ水挽 外面　下部ヘラ削り　⅖ 残存 底部回転糸切り離し後ヘラ削り
10	土師器	皿	1.8，13.4，4.3	赤色粒子を含む	赤茶褐色	ロクロ水挽 内面　螺旋状暗文 底部回転ヘラ削り　完形
11	土師器	皿	2.6，15.4，6.4	赤色粒子を含む	茶褐色	ロクロ水挽 内面に放射状暗文　¼ 残存
12	土師器	甑	－，17.0，－	粗い白色粒子を含む	暗橙褐色 (一部黄褐色)	ロクロ整形（?） 口縁部破片
13	土師器	甕	－，－，8.9	砂粒を含む	灰茶褐色 赤茶褐色	外面　縦刷毛目 内面　横刷毛目 底部に木葉痕　底部破片
14	土師器	甕	－，23.6，－	金雲母、黒粒子、白粒を含む	赤茶褐色	外面　口縁部横撫で 胴部刷毛目（?） 内面　口縁部横撫で 胴部刷毛目（?）　口縁部破片
15	土師器		－，－，－	粗い砂粒をを含む	暗茶褐色 赤茶褐色	置きカマド（?） 破片
16	石　器	斧				縄文時代の所産であろう

＜D区４号住居址出土遺物＞　（第65図）

（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	4.2，11.0，5.2	白色砂粒をごくわずかに含む	灰色 (一部赤色)	焼成があまく、赤味がある 底部回転糸切り 口縁部一部欠損
2	土師器	坏	4.6，11.0，5.4	赤色砂粒を少量含む	茶褐色	ロクロ水挽 外面　体部ヘラ削り 内面　花弁状暗文　口縁部一部欠損
3	土師器	坏	4.1，10.8，4.6	赤色砂粒をごくわずかに含む	赤褐色	外面　体部ヘラ削り 底部回転糸切り 口縁部一部欠損
4	土師器	坏	4.1，10.5，5.2	赤色微砂粒を少量含む	赤褐色	ロクロ水挽 底部回転糸切り　口縁部一部欠損
5	土師器	坏	4.4，10.8，5.2	赤色砂粒を含む	茶褐色 赤褐色	外面　体部ヘラ削り 内面　暗文　完形
6	土師器	?	－，36.0，－	金雲母、白色粒子を含む	暗茶褐色 茶褐色	外面　縦刷毛目 内面　横刷毛目 口縁部破片
7	土師器	甑(?)	－，10.4，－	粗い白色砂粒を多量に含む	淡茶褐色 赤褐色	撫で整形 口縁部破片
8	土師器	甑	－，23.2，12.0	粗い砂粒を多量に含む	褪赤褐色	撫で整形 口縁部及び胴部～底部破片
9	石　器	砥石			黄褐色	片面に使用痕
10	石　器	鏃		石材 黒曜石		縄文時代の所産であろう 脚部欠損

＜D区５号住居址出土遺物＞　（第66図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	蓋	4.1，17.3，　－	砂粒を含む	赤黄褐色	外面　上部回転ヘラ削り つまみ中央に籾痕　¾ 残存
2	土師器	蓋	－，13.4，　－	砂粒を含む	黄橙褐色	破片
3	土師器	蓋	5.9，23.5，　－	褐色粒子を含む	黄橙褐色	外面　上部回転ヘラ削り　⅓ 欠損 内面　うず巻状暗文、墨書あり
4	土師器	坏	4.2，11.0，4.6	砂粒を含む	橙茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 内面　暗文あり 底部回転糸切り
5	土師器	坏	－，11.35，　－	砂粒を含む	橙黄褐色	外面　体部下半ヘラ削り 内面　暗文あり　½ 残存
6	土師器	坏	3.85，10.85，4.4	砂粒を含む	暗茶褐色 黄茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 内面　暗文あり 底部回転糸切り　½ 残存
7	土師器	坏	4.35，10.8，5.6	茶色粒子 砂粒を含む	黄茶褐色	外面　体部下半ヘラ削り 内面　暗文あり 底部回転糸切り
8	土師器	甕	－，　－，6.0	粗い砂粒を含む	暗茶褐色	撫で整形　底部破片
9	土師器	蓋	－，　－，　－	砂粒を含む	茶橙褐色	墨書あり　破片

＜D区６号住居址出土遺物＞　（第67・68図）　（単位　cm）

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 （内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	壷	－，　－，7.4	白色粒子を含む	灰色	ロクロ水挽 底部回転糸切り痕
2	須恵器	坏	－，　－，10.8	白色粒子を含む	灰色	付高台 破片
3	須恵器	甕	－，　－，　－	白色粒子粗い砂粒含む	灰色	外面に叩目 破片
4	土師器	坏	4.25，10.85，3.5	褐色粒子を含む	赤黄褐色	外面　体部下半ヘラ削り 内面　暗文あり　¼ 残存
5	土師器	坏	4.2，12.0，4.4	砂粒を含む	肌色褐色 茶褐色	磨滅により器面はザラつき整形等不明白　⅓ 欠損
6	土師器	坏	5.9，16.0，　－	砂粒を含む	黒、茶褐色	ロクロ水挽　破片
7	土師器	皿	2.2，12.4，4.2	粗い砂粒を多量に含む	赤褐色 褐色	外面　ヘラ削り 内面　うず巻暗文　完形
8	土師器	皿	－，12.6，　－	赤褐色粒子を含む	黄肌褐色	ロクロ撫で整形 破片
9	灰　釉	皿	－，9.1，　－	精製	淡灰緑色 淡灰褐色	付高台 破片
10	灰　釉	皿	－，15.8，　－	精製	淡灰緑色 淡灰褐色	内面および外面口縁部に灰釉付けが 破片
11	灰　釉		－，　－，　－	精製	灰釉色	把手と思われるが詳細は不明　破片
12	土師器	置きかまどのつば	－，　－，　－	金雲母を多量に含む	暗赤茶褐色	刷毛目あり 破片

番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
13		鞴の羽口	—，—，—	精製	暗茶褐色 (一部黒変)	削り、撫でにより作られる 破片

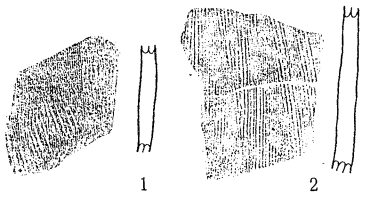
＜A区遺構外出土遺物＞　（第69・70図）

（単位　cm）

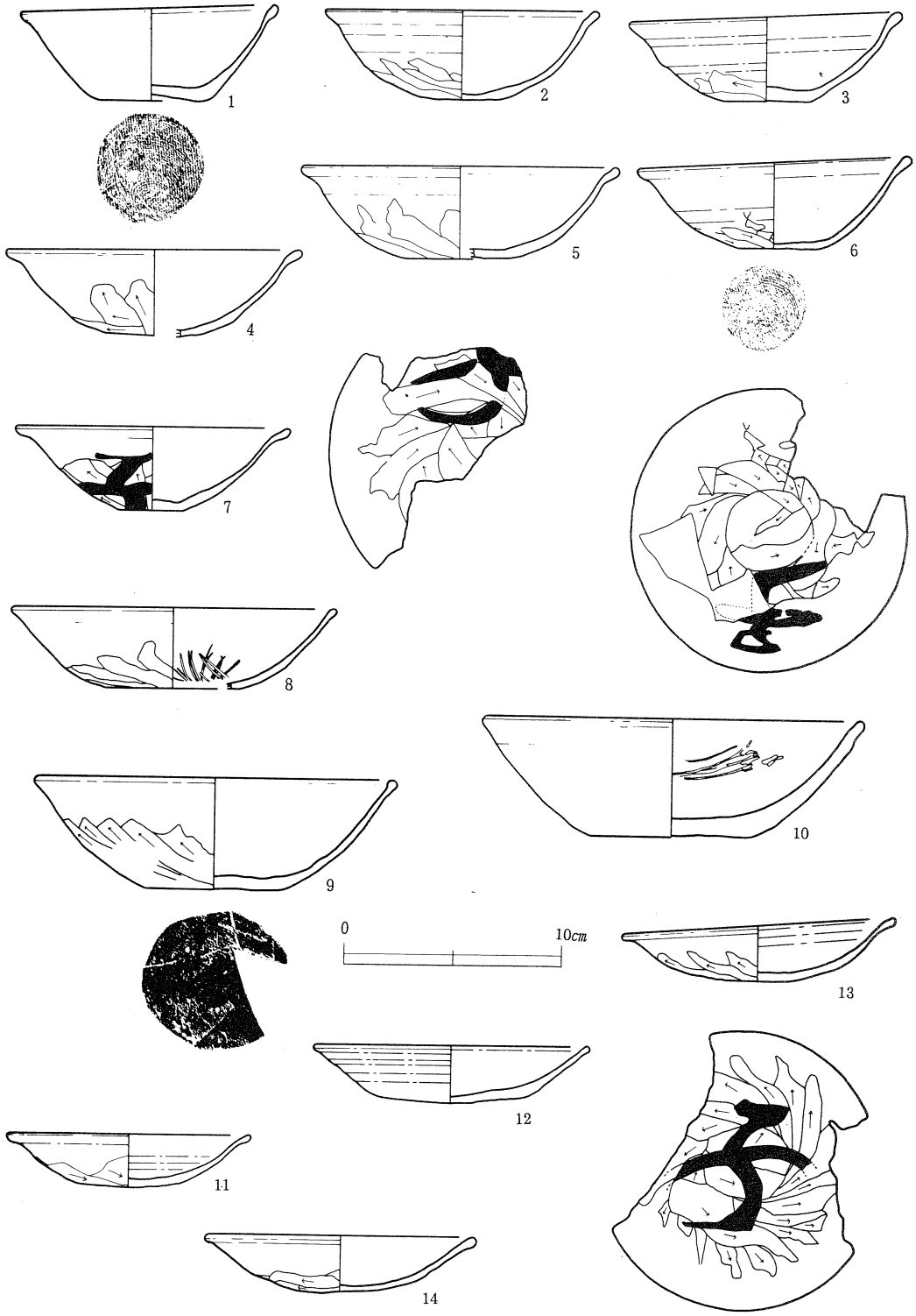
番号	種　類	器形	法　量 器高・口径・底径	胎　土	色　調 (内面 外面)	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	4.0，13.9，10.6	やや粗い 砂粒を含む	淡黄褐色 灰茶褐色 (一部黒変)	付高台 ½残存
2	須恵器	坏	3.6，14.8，9.3	砂粒を含む	白灰色	底部回転ヘラ切り　½残存
3	須恵器	甕	—，22.0，—	白色粒子 やや粗い 砂粒を含む	暗灰色	胴部外面叩目 口縁部破片
4	須恵器	甕	—，15.5，—	白色粒子 やや粗い砂 粒を含む	暗灰色、内面口縁部灰釉付けがけ	口縁部に若干自然釉付着 口縁部破片
5	土師器	甑(?)	—，—，—	砂粒を含む	灰黄褐色	横撫で整形されるが、外面に叩目がみられる 破片
6	土師器	坏	—，13.4，—	やや粗い白色粒子を含む	暗黄褐色	削り及び撫でによりつくられる ⅓残存
7	土師器	坏	—，15.0，—	やや粗い 砂粒を含む	赤茶褐色	内面　放射状暗文 みこみ部ラセン暗文　⅓残存
8	土師器	坏	6.7，17.9，10.0	褐色粒子 砂粒を含む	白黄褐色	ロクロ水挽 底部回転ヘラ削り　⅓残存
9	土師器	坏	3.9，14.0，6.2	砂粒を含む	黄褐色	ロクロ撫で整形 底部ヘラ削り　½残存
10	土師器	?	2.6，16.0，—	精製	淡黄褐色	内面　螺旋状暗文 皿乃至蓋と思われるが不詳　⅓残存
11	土師器	坏	3.7，15.5，8.0	微砂粒を含む	黄褐色 淡橙褐色	内面　みこみ部放射状暗文 体部内面ヘラ磨き 底部手持ちヘラ削り　完形
12	土師器	甕	—，17.4，—	白色粒子 砂粒を含む	黄褐色	内面　横刷毛整形 口縁部破片
13	土師器	甕	—，20.0，—	白色粒子 砂粒を含む	淡茶褐色 外面下部黒変	内面　口縁部横刷毛整形 外面　横、縦刷毛整形（胴部） 口縁部籾痕あり　口縁部破片
14	土師器	甕	—，29.4，—	白色粒子 やや粗い砂 粒を含む	黄灰褐色	内面　口縁部かき目 外面　かき目 口縁部破片

15〜18は、鞴の羽口の破片資料。いずれも熱と火を受け変色したり脆くなっている。

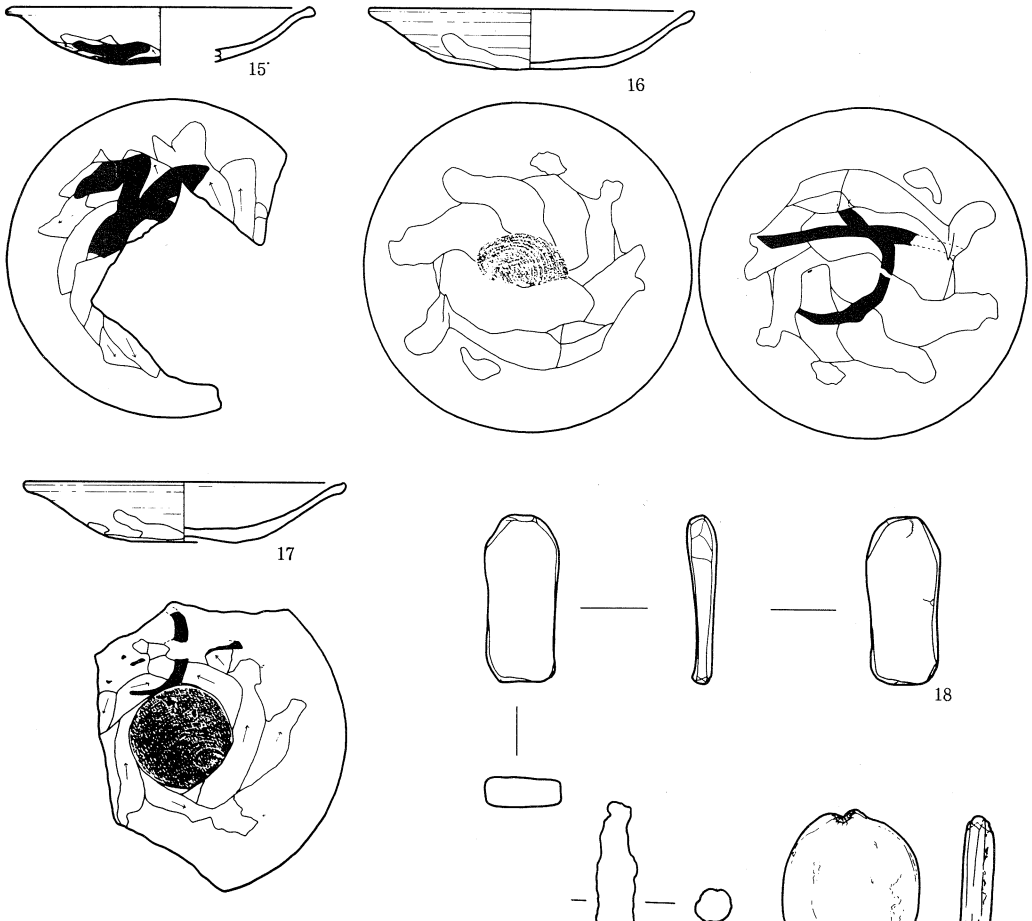
これらの遺物は、水溜りのような暗褐色土の落ち込みから出土したもので、ほぼ同一レベルから出土しているので一括遺物として扱っておきたい。



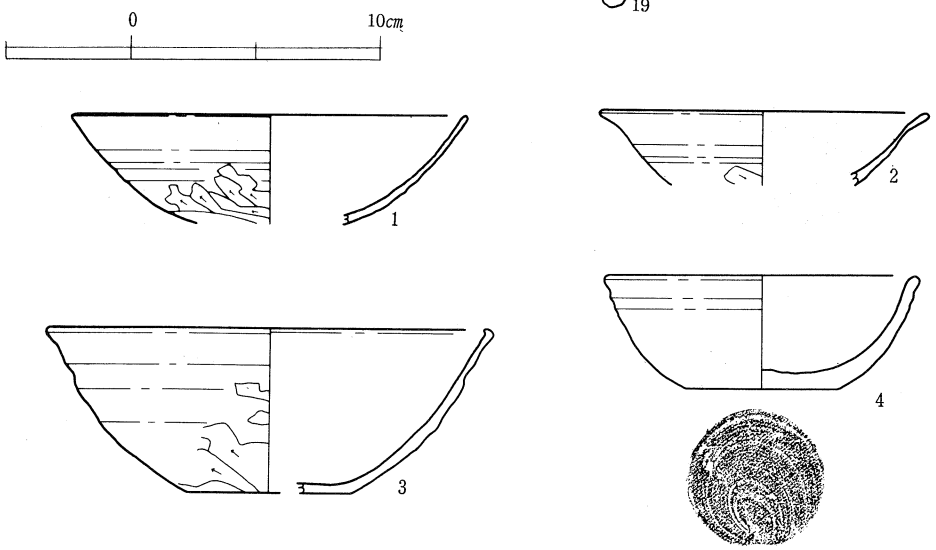
第51図　A区1号住居址出土遺物（1／4）



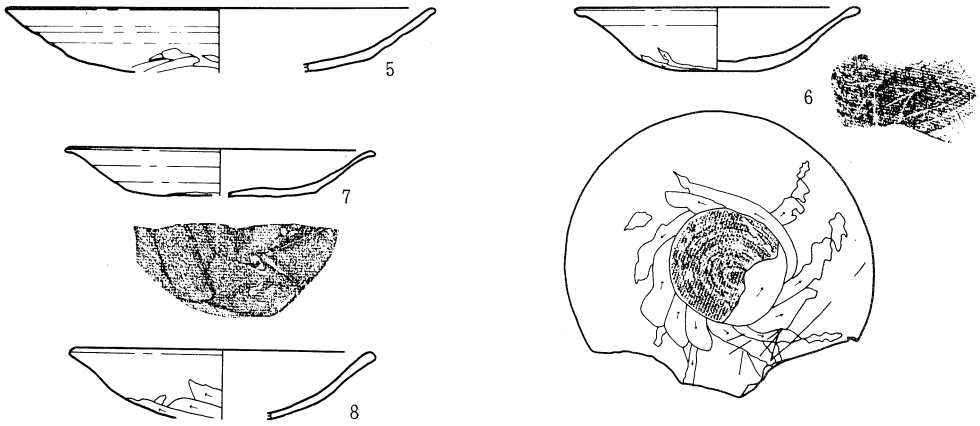
第52図　C区1号住居址出土遺物（1／3）



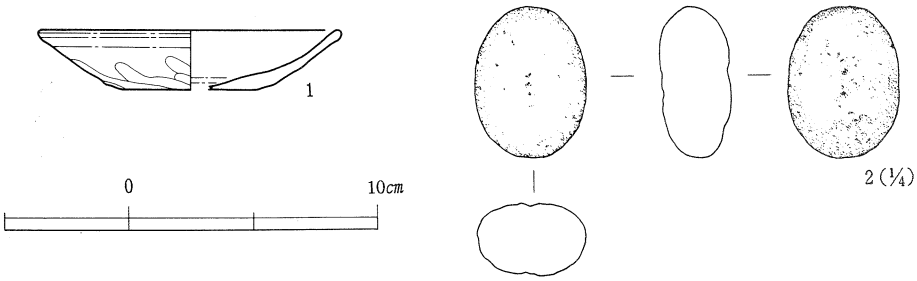
第53図　C区1号住居址出土遺物（1／3）



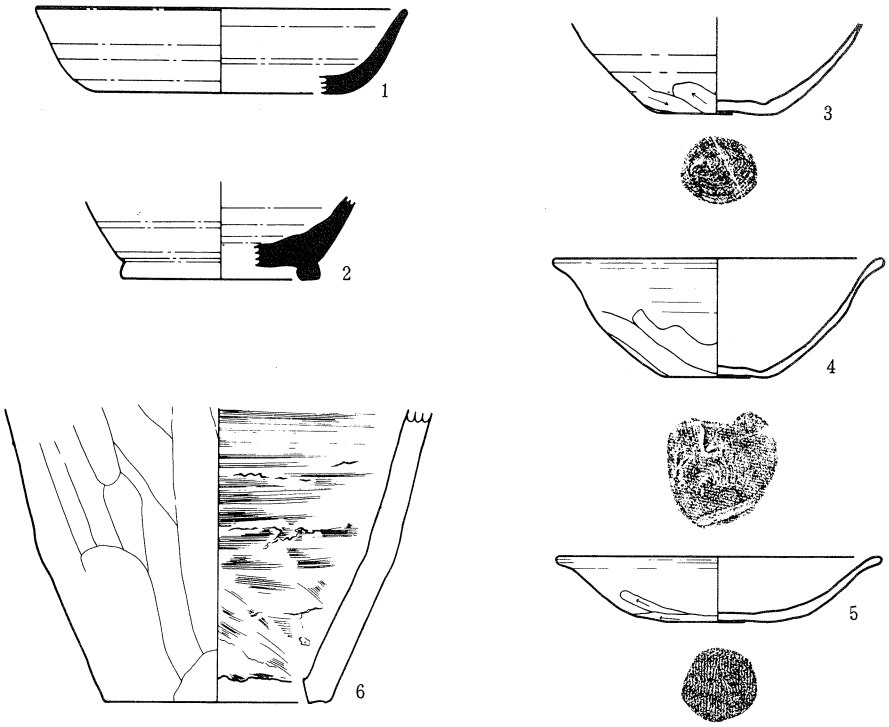
第54図　C区2号住居址出土遺物（1／3）



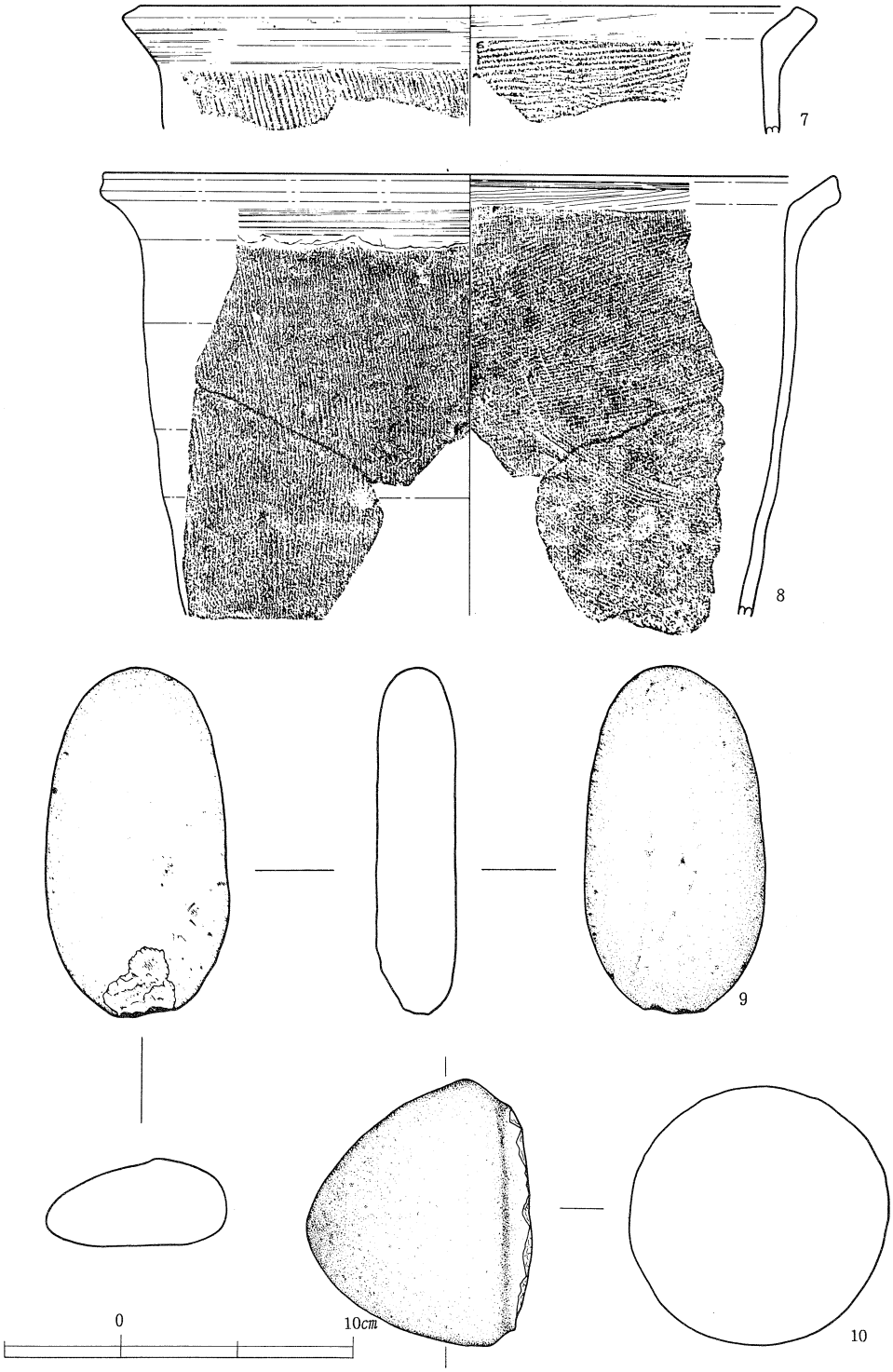
第55図　C区2号住居址出土遺物（1／3）



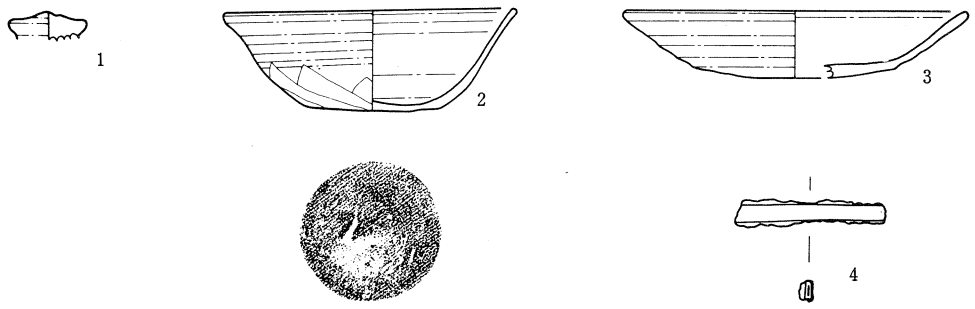
第56図　C区3号住居址出土遺物（1／3）



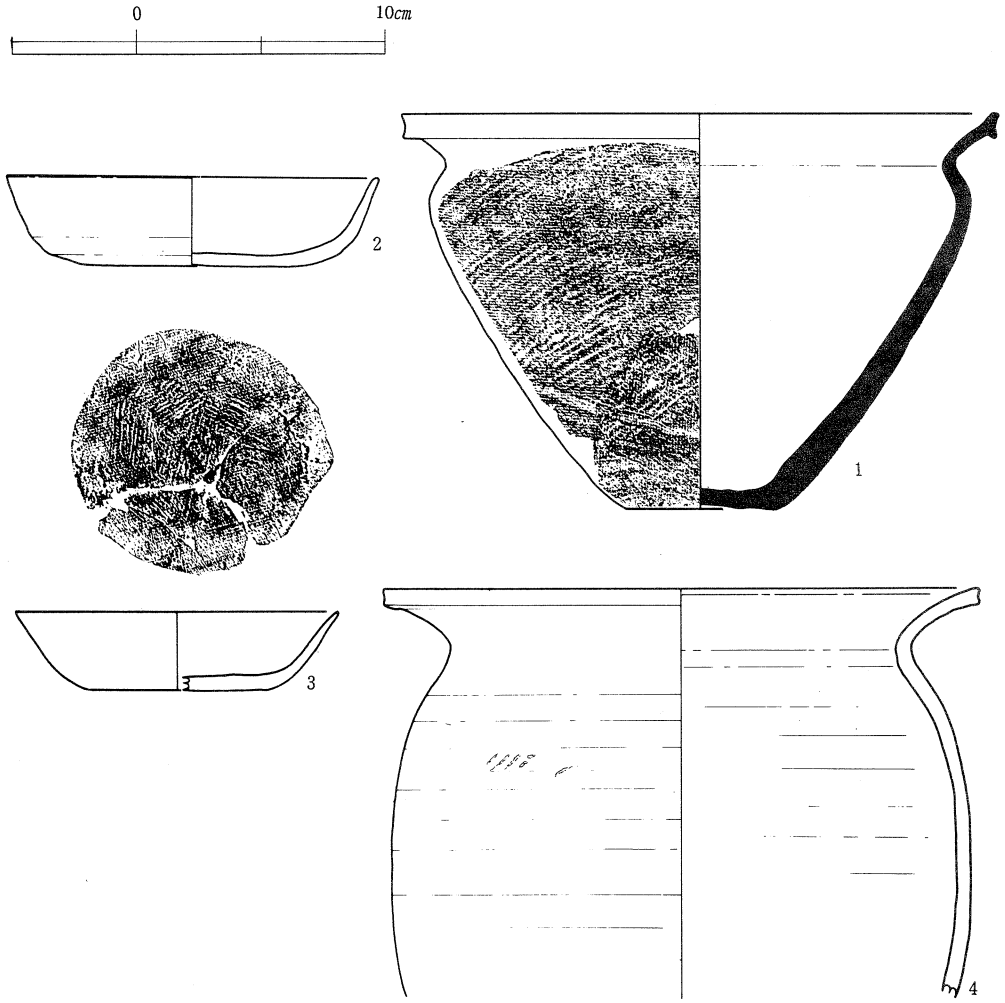
第57図　C区6号住居址出土遺物（1／3）



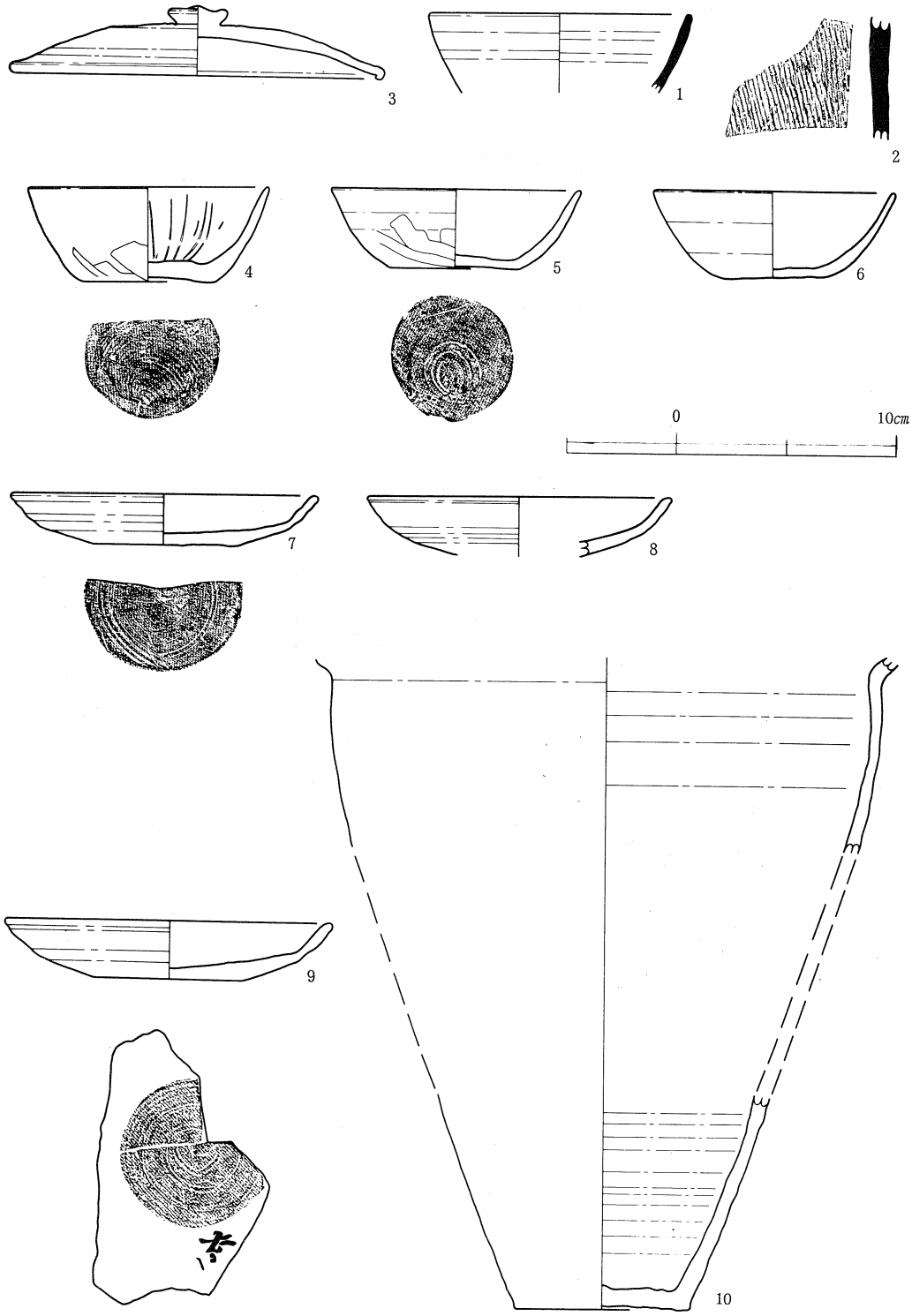
第58図　C区6号住居址出土遺物（1／3）



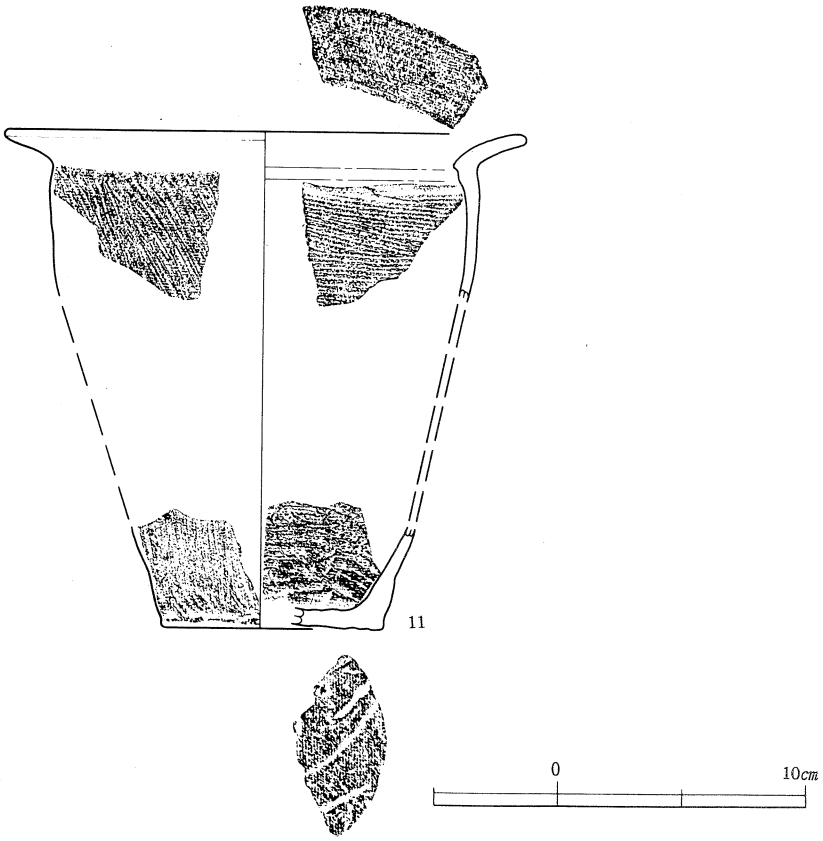
第59図　C区幻の7号住居址出土遺物（1／3）



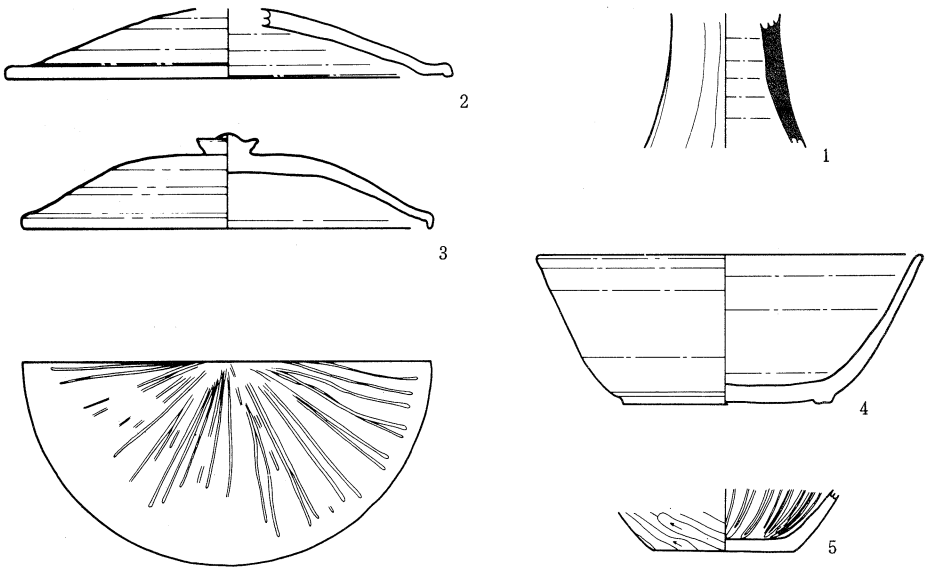
第60図　D区1号住居址出土遺物（1／3）



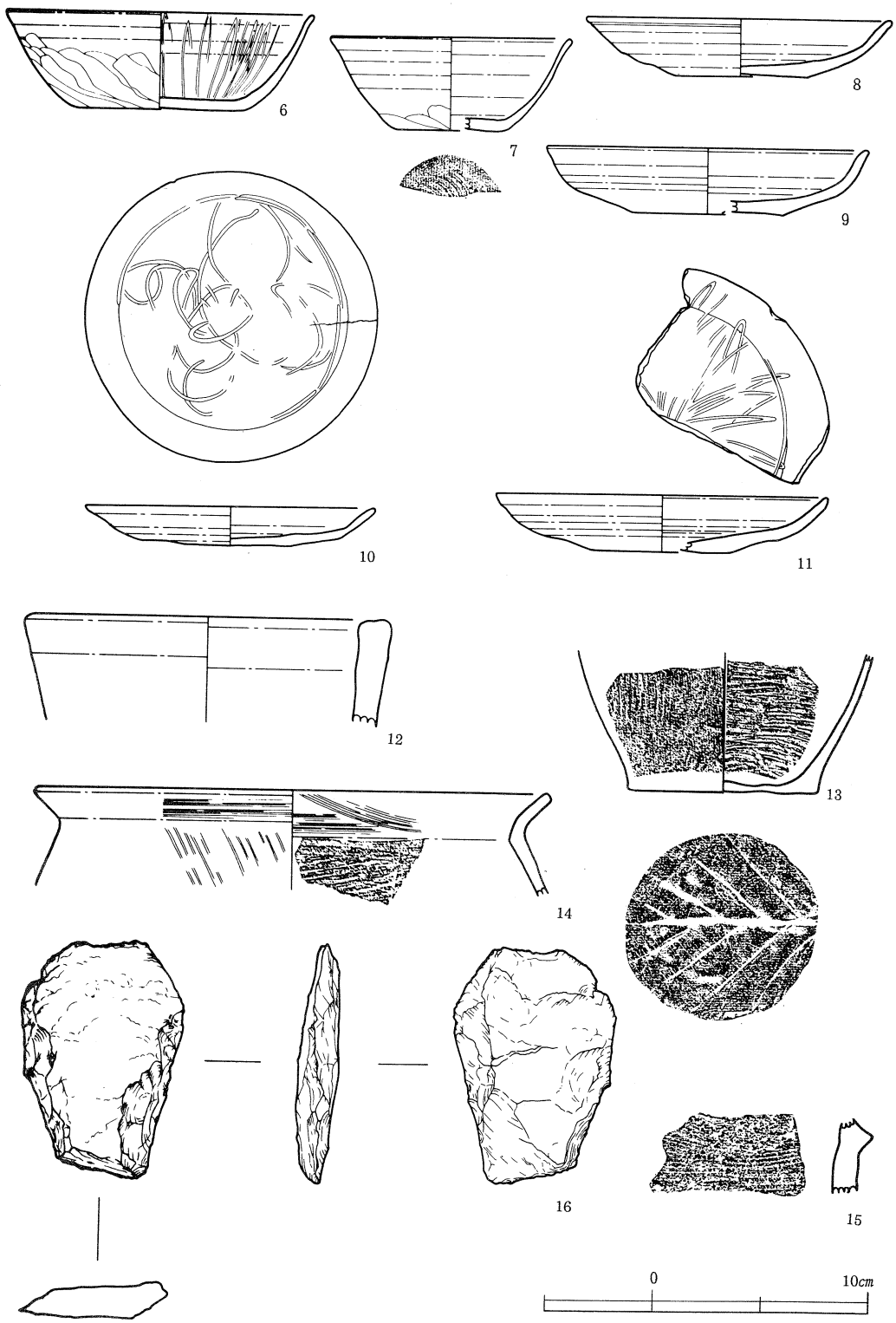
第61図　D区2号住居址出土遺物（1／3）



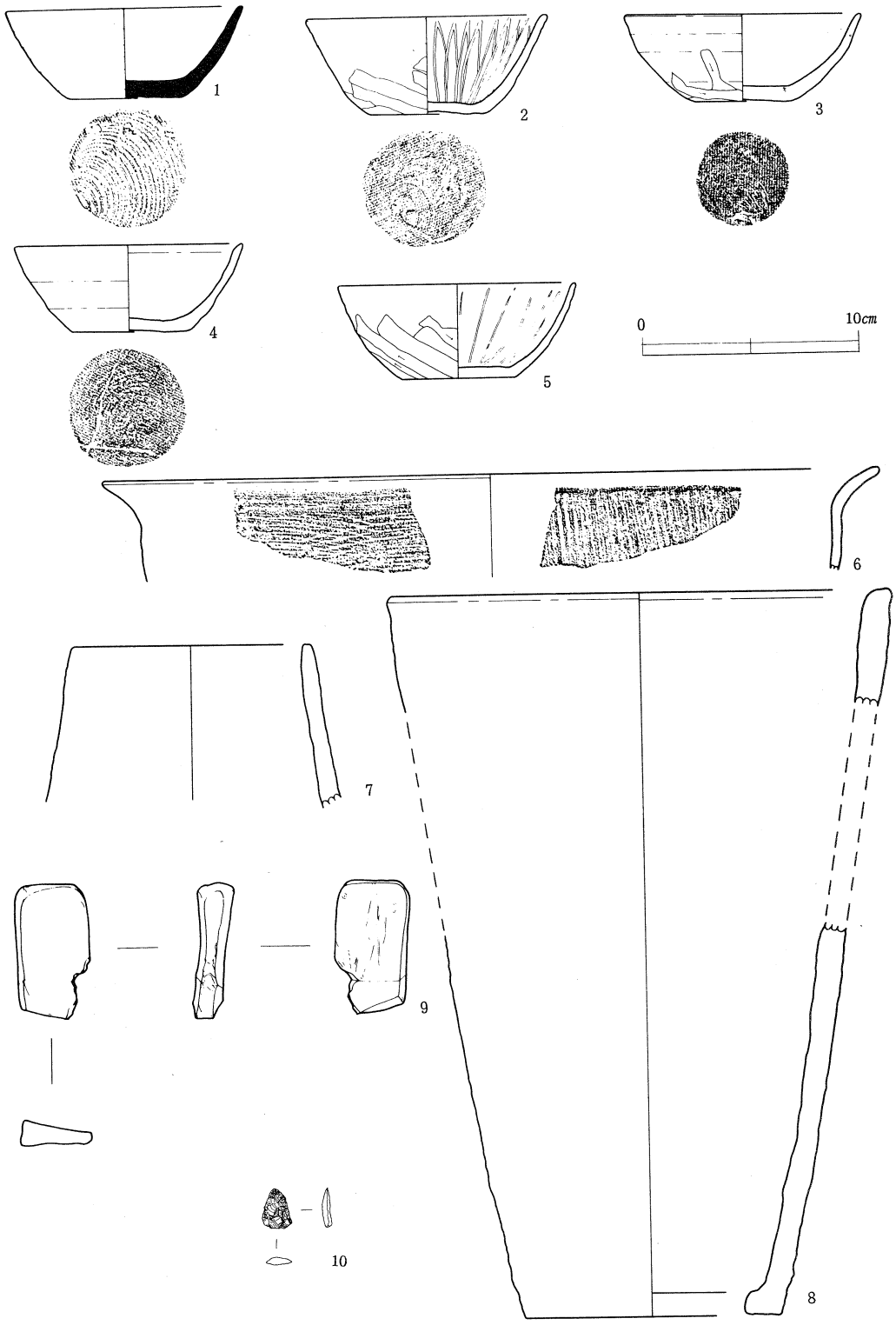
第62図　D区2号住居址出土遺物（1／3）



第63図　D区3号住居址出土遺物（1／3）

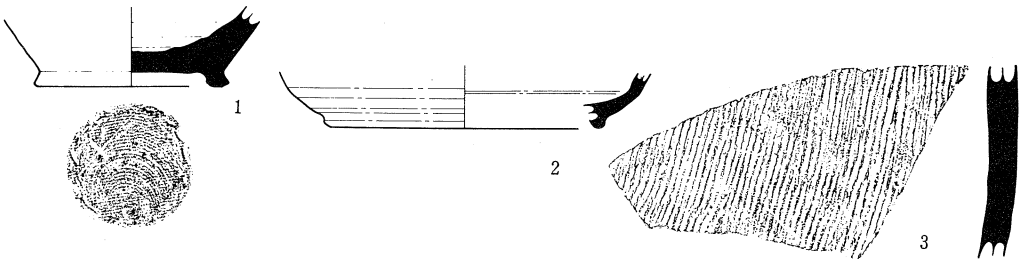


第64図　D区3号住居址出土遺物（1／3）

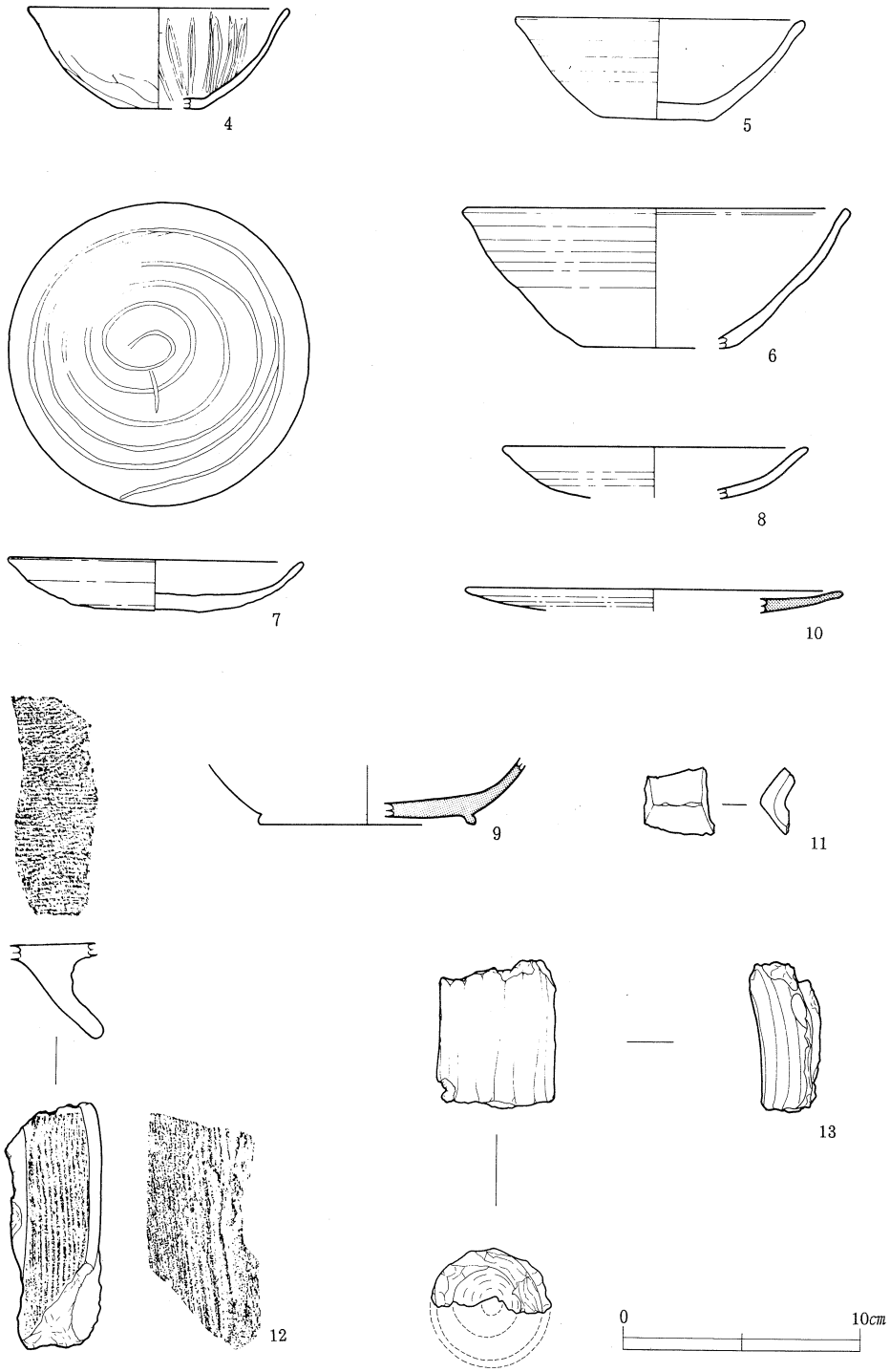


第65図　D区4号住居址出土遺物（1／3）

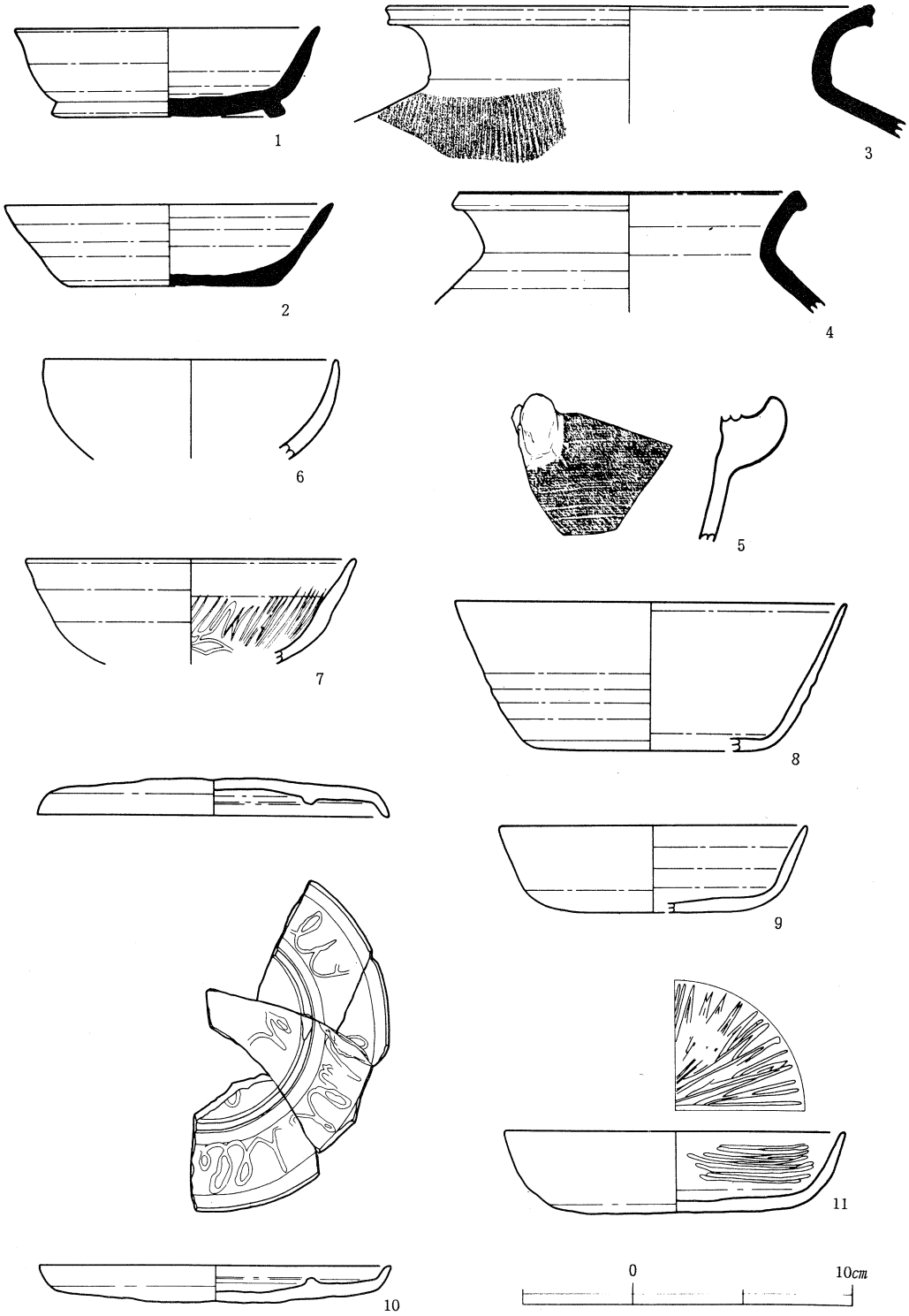
第66図　D区5号住居址出土遺物（1／3）



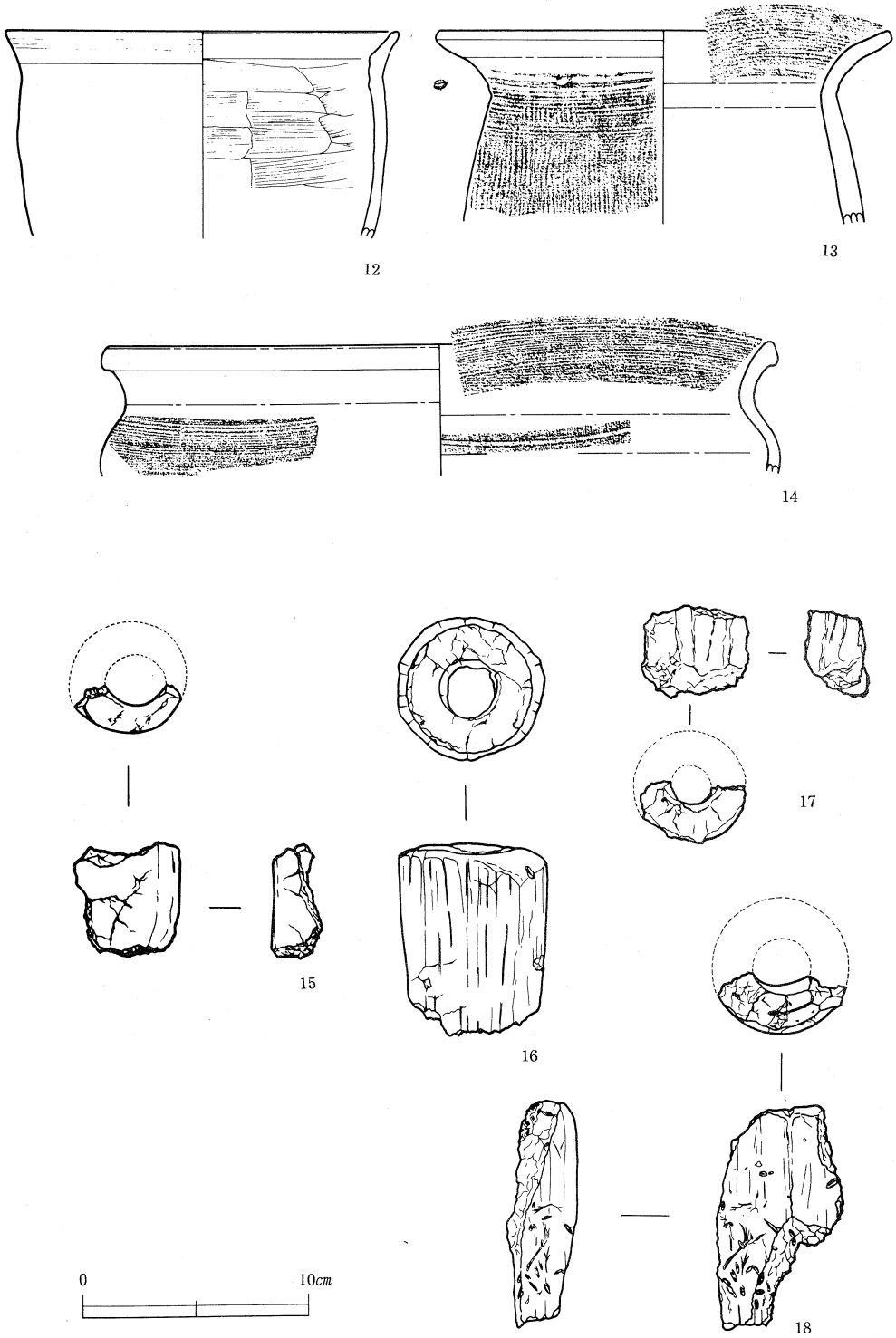
第67図　D区6号住居址出土遺物（1／3）



第68図　D区6号住居址出土遺物（1／3）



第69図　A区遺構外出土遺物（1／3）



第70図　A区遺構外出土遺物（1／3）

Ⅶ　ま　と　め

今回の調査で発見された遺構は、出土遺物により縄文時代竪穴住居址３軒、集石土坑１基、配石遺構２基、古墳時代竪穴住居址２軒、奈良・平安時代竪穴住居址12軒、掘立柱建物址１棟、その他溝、土坑となっている。まとめとして以下にその概要をみていこう。

１　縄文時代

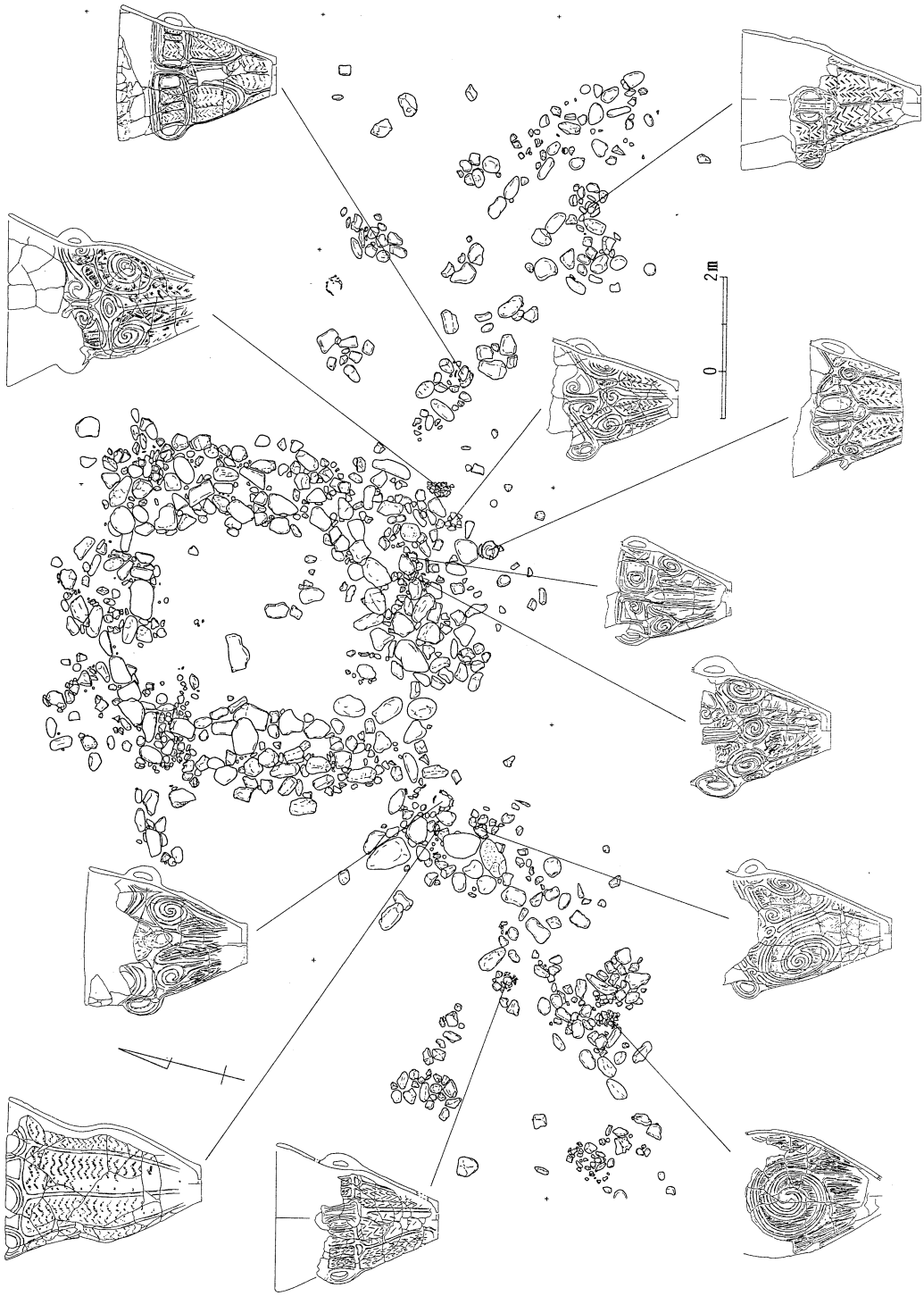
３軒の住居址及び集石土坑は、出土土器により中期後葉後半に位置付けられる。型式の上からは、Ｂ区１号住居址が２・３号住居址よりも若干古いようである。住居址の平面形はほぼ円形を呈し，石囲い炉を北寄りにつくり、南側に埋甕を有する本時期に一般的な形態を呈している。今回の発見は３軒と少なかったが、遺構外から多くの土器片が出土しており、氾濫・削平等を考慮すれば当該地域には本時期の集落が存在していた可能性が窺える。

Ｃ区１号配石遺構は、中期中葉・後葉前半の土器が出土しており時間的幅がみられる。円形の平面形を呈するが、性格等の詳細は不明白であり、今後類例を集めて検討すべきであろう。Ｃ区２号配石遺構は、中期後葉に位置付けられる頸部に粘土紐によるＸ字状把手を付けた深鉢形土器が主体に出土している。これらの土器はすべて埋設されており、中央に方形の区画を作り、南東隅と南西隅から張り出し部分を持つ特異な平面形を呈する本遺構の南側からのみ検出された。（第71図）このような形態の配石遺構は珍しく、他に類例をみないものであろう。墓域・祭祀遺構等が考えられそうであるが、果してどのような性質のものであったのかは、今後の課題としておきたい。これら両配石遺構は、当時の社会構造を解明していくうえで重要な資料となることと思われる。

Ｃ区Ｂ－11グリッドから後期前葉の土器とともに出土した中空土偶は、①体形的には顔を若干斜め上に上げ、腕は水平に上げ先で垂直に下げ、腹部を突き出し、脚を踏ん張って直立できる、②頭部が帽子をかぶったような表現がなされる、③顔は仮面を付けている、④中空であること、⑤頸部に貫通孔がある、⑥乳房の表現がない等の特徴を備えており、特殊な形態のものである。現在まで同形態の土偶は、唯一長野県上伊那郡辰野町新町泉水遺跡出土の土偶が知られるのみであり、県内においては北巨摩郡大泉村金生遺跡、北巨摩郡明野村清水端遺跡に同形態と思われる土偶の破片が認められるに過ぎなかった。このような状況にあって、今回の後田遺跡での土偶発見は意義のあるものであり、後期前半の特異な中空土偶の分布及びそれに拘る当時の人々の精神生活を考究していく上で、本土偶の持つ意味は重要と言えよう。

２　古墳時代

２軒の住居址は、出土遺物により同時期のものと捉えられよう。比較的良好に遺物を出土したＣ区５号住居址からは、口縁部に櫛歯状工具による刺突がめぐるＳ字状口縁台付甕が発見されている。この台付甕はＳ字状口縁台付甕の中でも最も古い段階に位置付けられるもので、県内では西八代郡三珠町一城林遺跡、塩山市西田遺跡、韮崎市坂井南遺跡（坂井南遺跡で第３次調査の結果58軒の住居址が発見され、出土土器をⅠ～Ⅲ期に編年しており、本遺跡の土器は坂井南Ⅰ期に

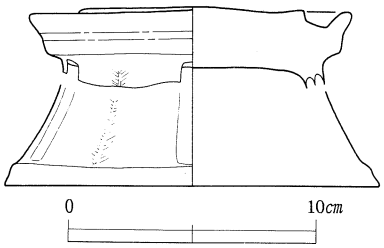


第71図　C区2号配石遺構埋甕出土位置図

該当するものとされる。）などで確認されているが、いずれも僅かに口縁部の破片が確認されるのみであった。古墳時代前期の古い段階の土器が発見されたことは、古墳文化の波及を考える上で遺跡の立地と併せて価値を持つものと思われる。

3　奈良・平安時代

奈良時代の住居址はA区1号住居址・D区1号住居址のみであり、集落として捉えるには些か無理があろう。しかしA区遺構外からは一括で当該時期の遺物が出土しており、またC区からは須恵器の円面硯（第72図）が採集されている。農耕等による削平を考慮すれば奈良時代の構築物が存在した可能性が窺える。



第72図　C区遺構外出土円面硯（1／3）

平安時代の住居址は10軒で、出土土器により9世紀後半から10世紀にかけて位置付けられる。掘立柱建物址も当該時期のものであろうか。住居址はC区とD区とに分かれるが、昭和61年度に調査された堂の前遺跡と合わせ考えると、本地域には大きな集落が営まれていたことになり、藤井平の歴史を繙く鍵となることであろう。

〔参考文献〕

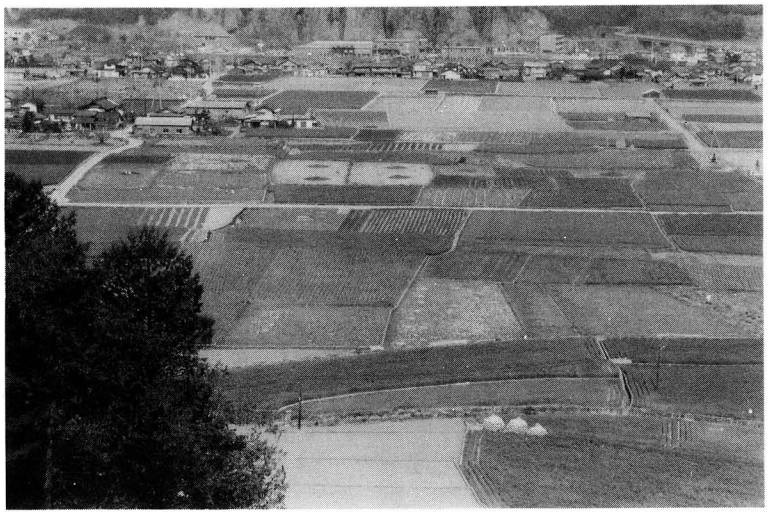
米田明訓ほか　『柳坪遺跡』　山梨県教育委員会　1986
伊藤公明　『方城第1遺跡』　大泉村教育委員会　1988
奈良泰史ほか　『中谷・宮脇遺跡』　都留市教育委員会　1981
宮沢公雄　『清水端遺跡』　明野村教育委員会　1986
赤羽篤　赤羽義洋　「長野県上伊那郡辰野町出土の土偶」『信濃』31－4　信濃史学会　1979
山梨県立考古博物館第1回特別展図録『土偶 一千年の女神が語る縄文時代の祈りとくらし』
山梨県立考古博物館　1983
小野美代子　『土偶の知識』考古学シリーズ18　東京美術　1984
山下孝司ほか　『坂井南』　韮崎市教育委員会　1988
山下孝司　『中本田・堂の前遺跡』　韮崎市教育委員会　1987
山下孝司　『前田遺跡』　韮崎市教育委員会　1988

お　わ　り　に

後田遺跡の発掘調査で発見された遺構並びに遺物は、縄文時代から平安時代に及び、質量ともに豊富なものであり、まとめで述べたようにそれぞれの時代において当時の社会構造等を解明する上で貴重な資料になるものと思われる。しかしながら今回の報告は、限られた作業の中でなされたものであり、遺構及びそれに伴う遺物を中心に資料を掲載・提示したにすぎない。調査の成果と資料の分析・検討が総体に行き届かず不十分な点は否めないが、本報告書が今後の調査・研究に活用されれば望外の悦びである。

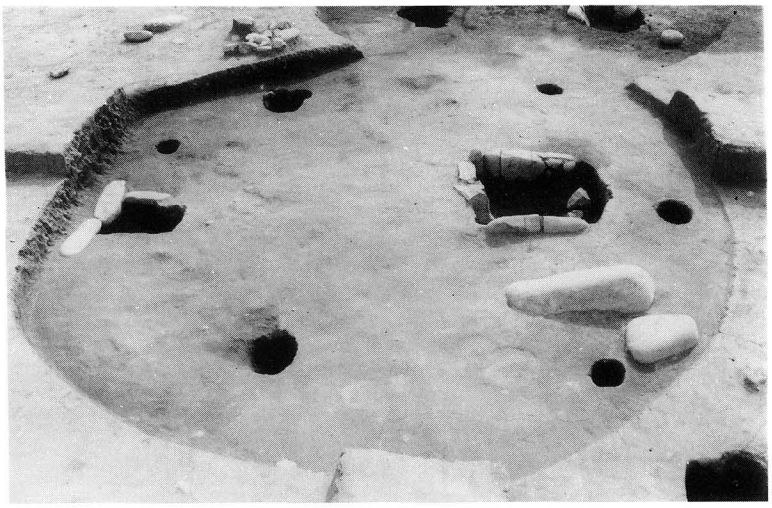
写　真　図　版

図 版 1



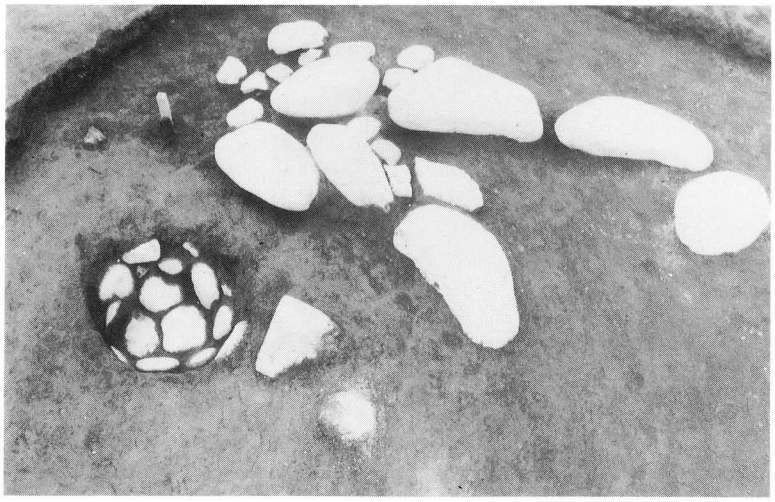
後田遺跡遠景

B区1号住居址

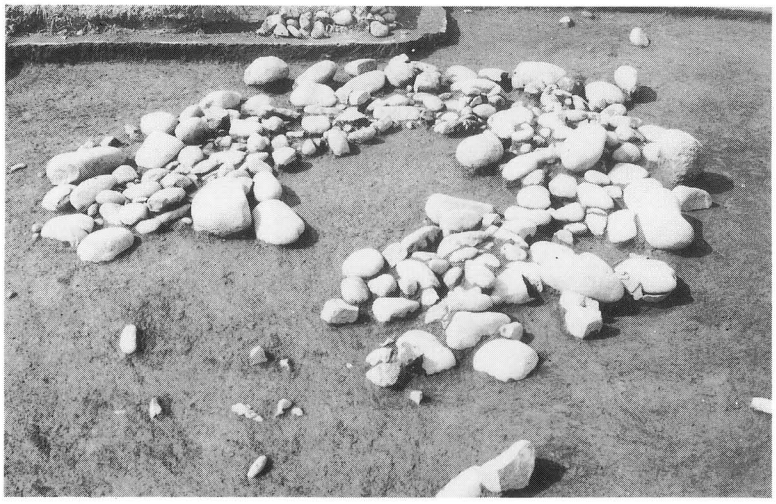


B区2号住居址

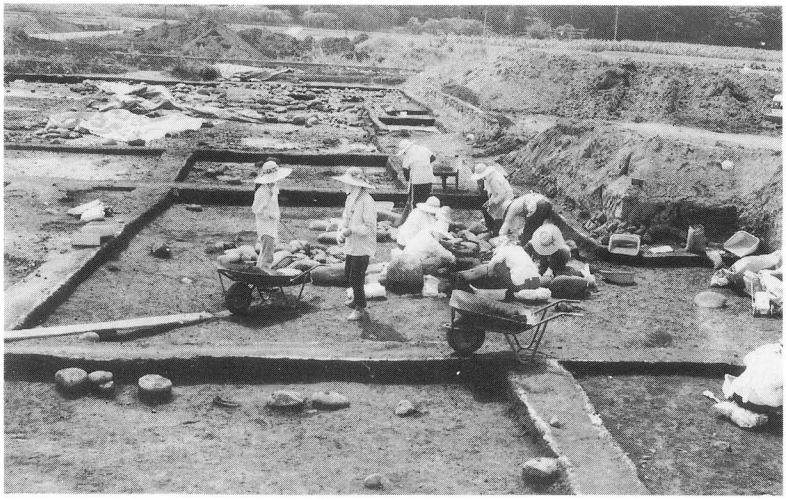
B区３号住居址



C区１号集石土坑

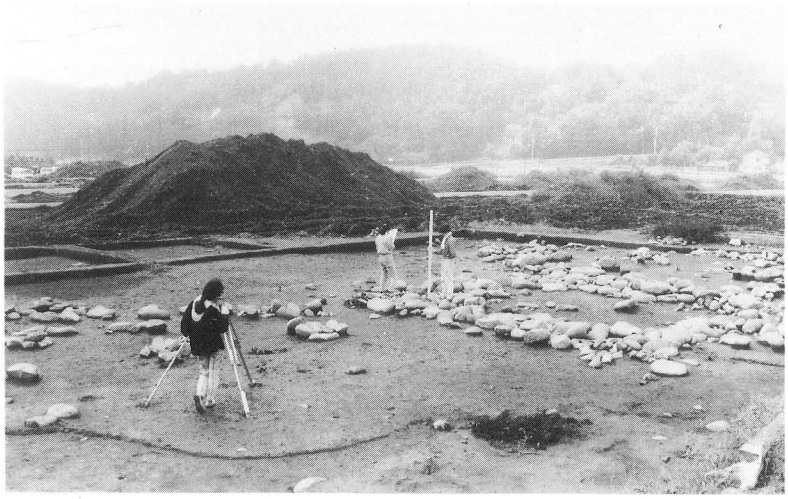


C区１号配石遺構

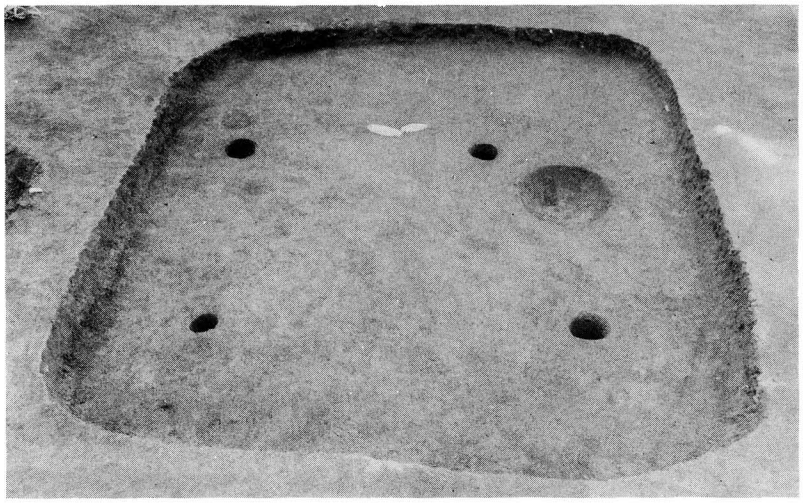


調査風景

C区２号配石遺構

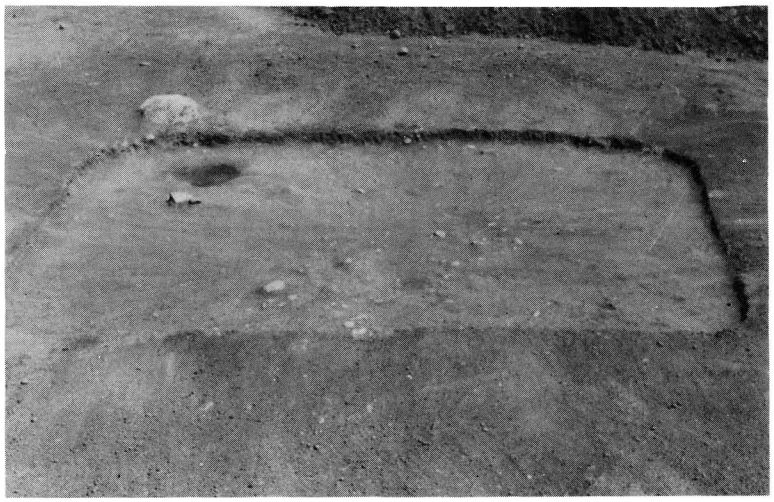


測量風景

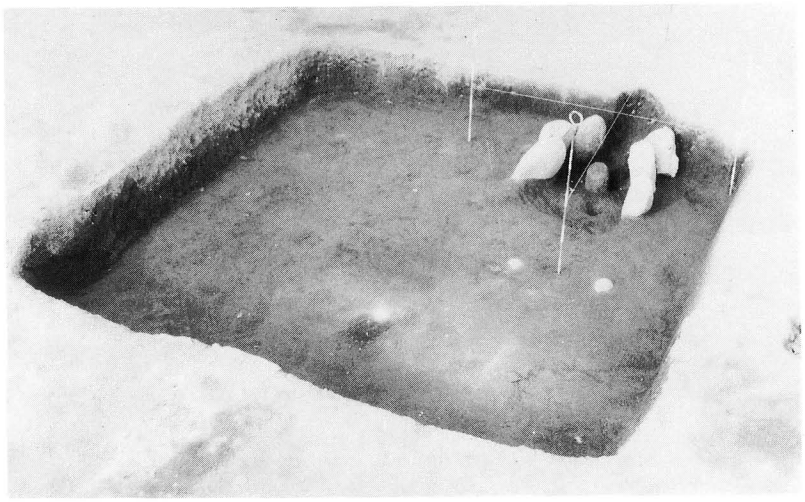


C区４号住居址

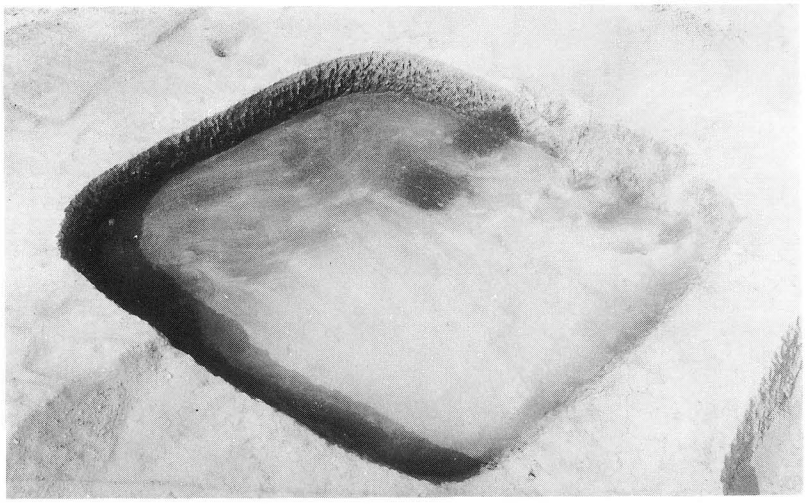
C区５号住居址



A区１号住居址

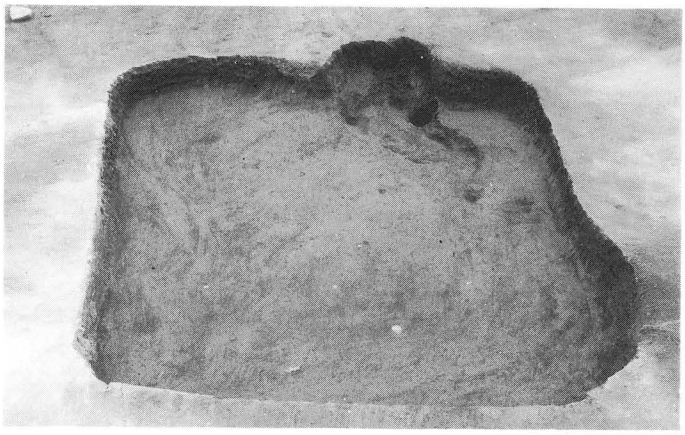


C区１号住居址



C区２号住居址

C区３号住居址



C区6号住居址

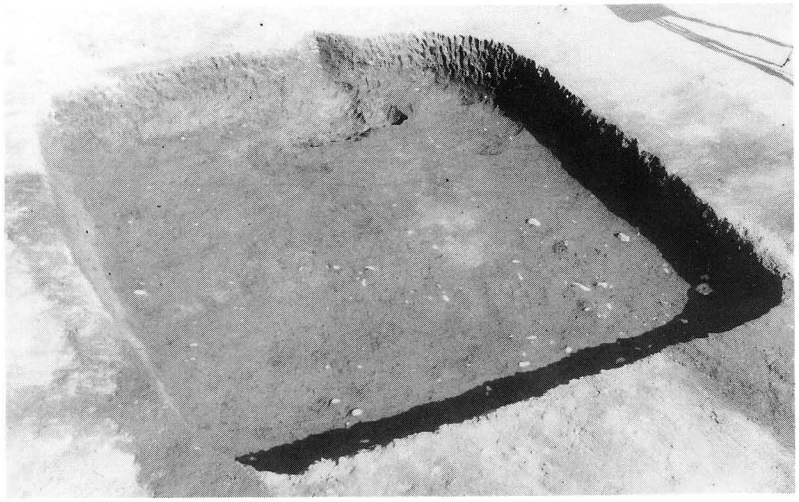
C区掘立柱建物址

C区溝・土坑群

D区１号住居址

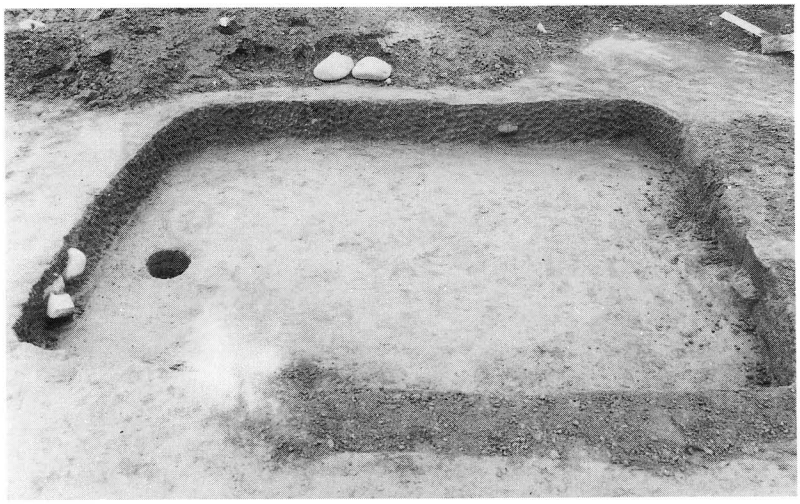
D区２号住居址

D区３号住居址

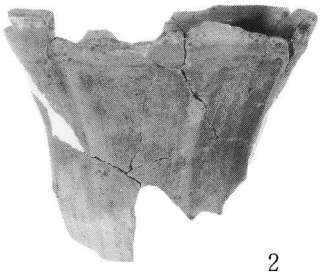


D区４号住居址

D区５号住居址



D区６号住居址

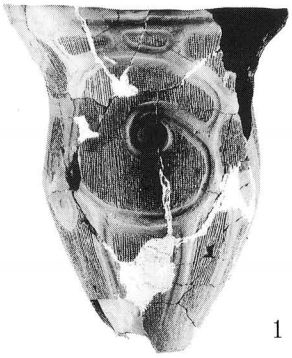


2

4

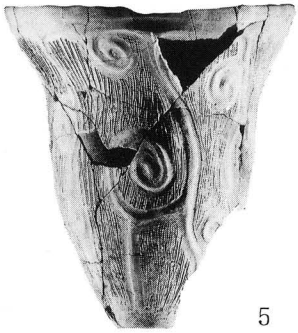
6

B区１号住居址出土遺物

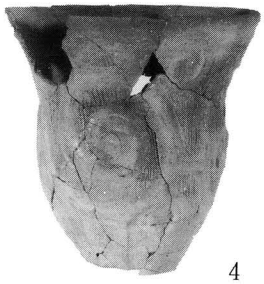


1

2

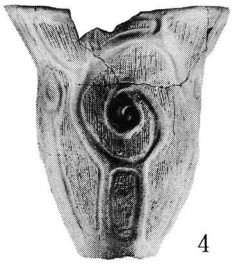


5



4

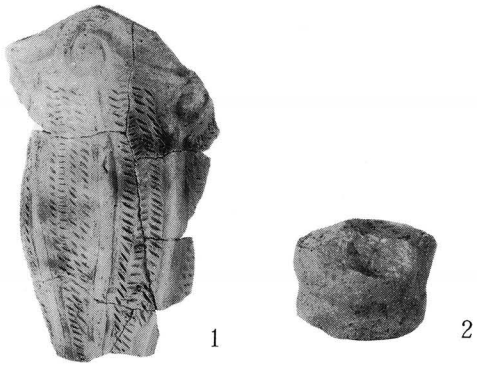
B区２号住居址出土遺物



4

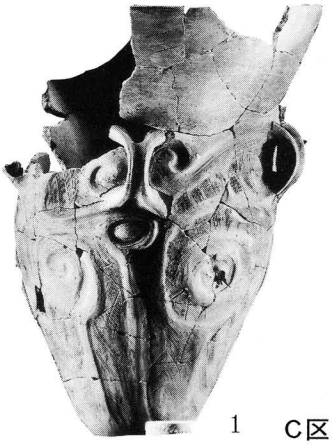
3

B区３号住居址出土遺物

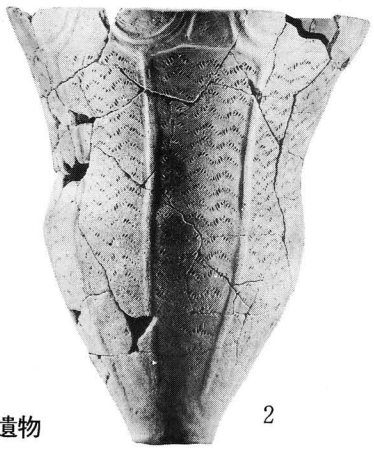


C区１号集石土坑出土遺物

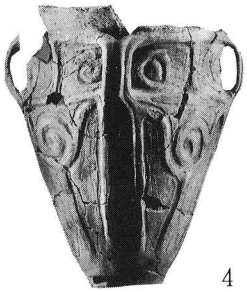
C区１号配石遺構出土遺物



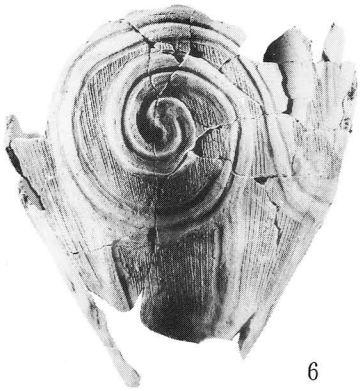
C区２号配石遺構出土遺物



3

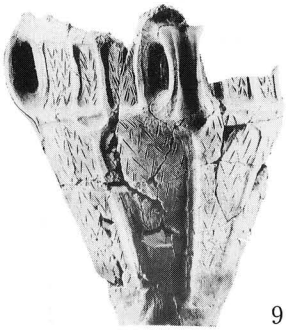

4

5

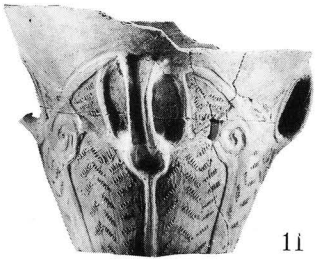

6

7

8

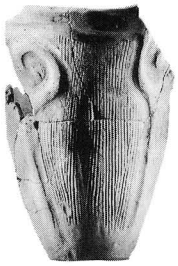

9

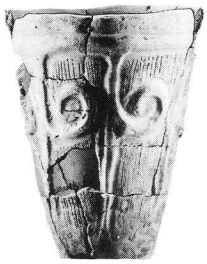
10

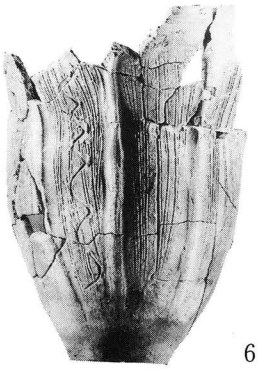

11

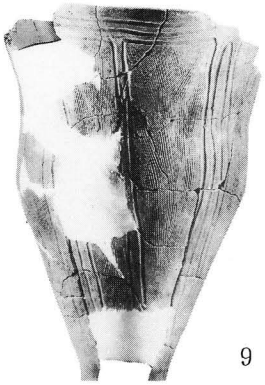
C区２号配石遺構出土遺物

1


3


4


6


9

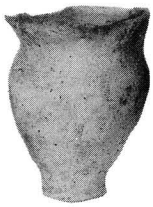
B区遺構外出土遺物

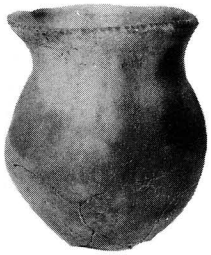
2

5

20

C区B－11グリッド出土遺物

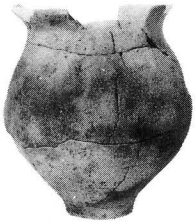

1


3

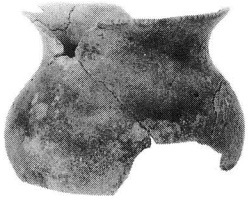
6

C区4号住居址出土遺物

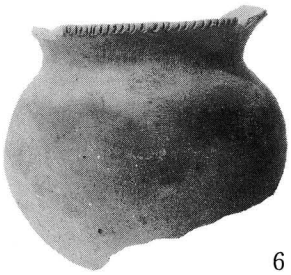
1

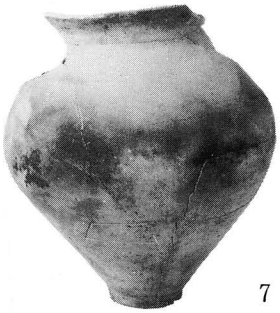

2

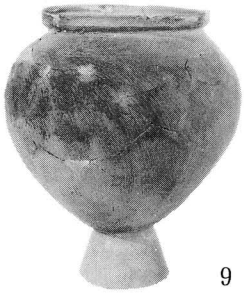
3


4

5


6

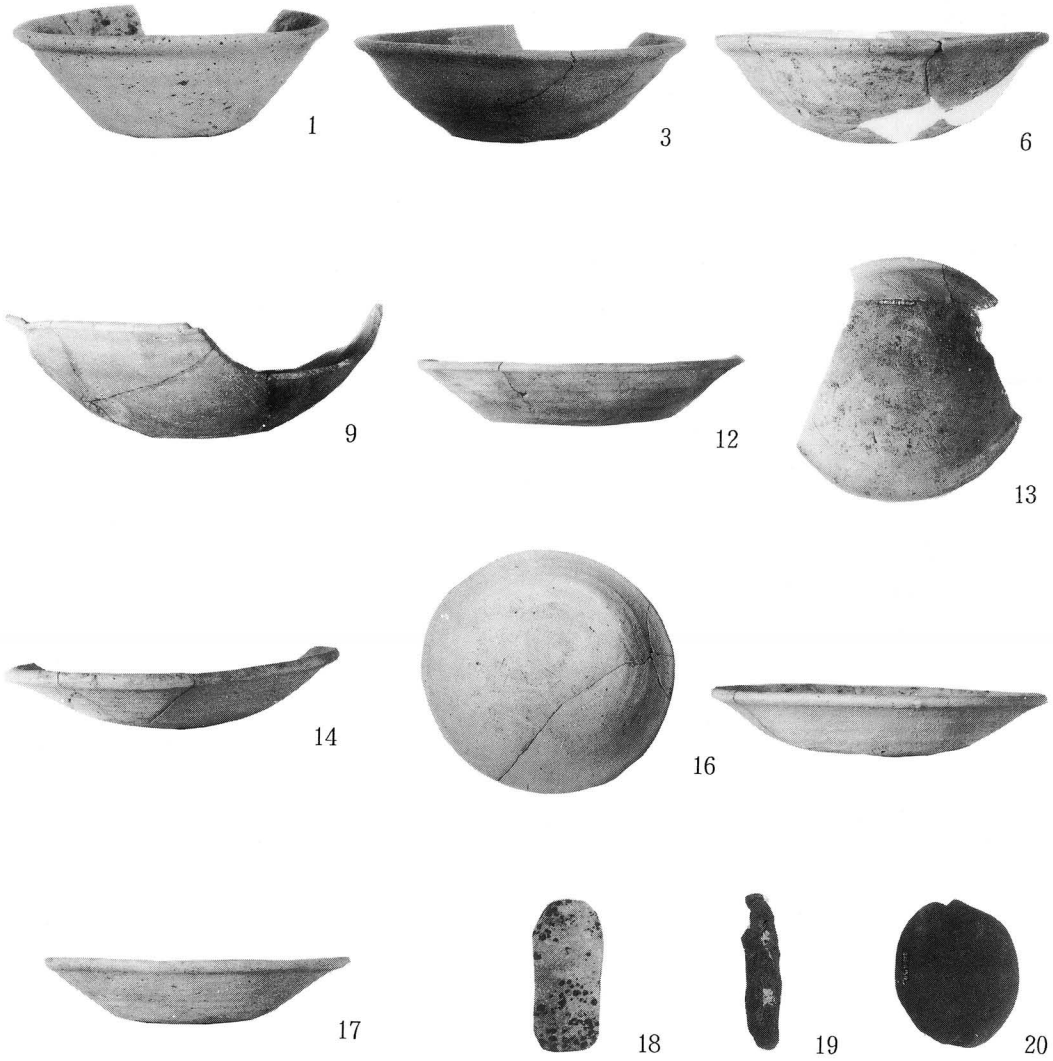

7


9

11

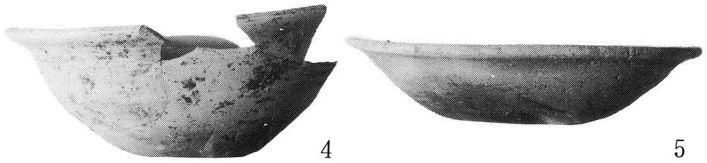
12

C区5号住居址出土遺物

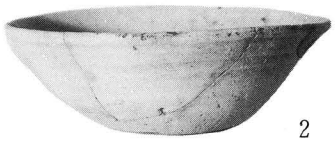


C区１号住居址出土遺物

C区２号住居址出土遺物



C区６号住居址出土遺物

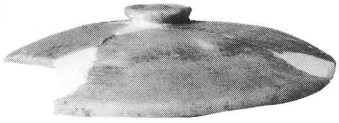

2

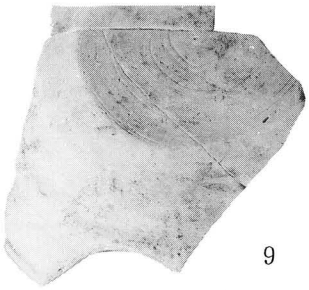
C区幻の7号住居址出土遺物

1

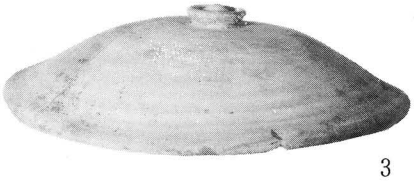
2

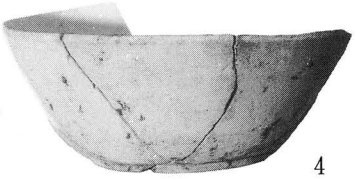
D区1号住居址出土遺物


3


9

D区2号住居址出土遺物

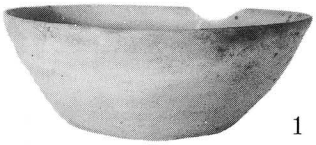

3

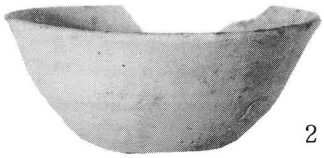

4

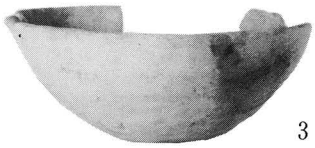
8

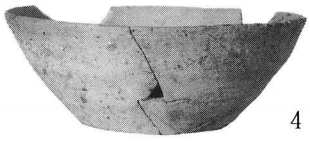
10

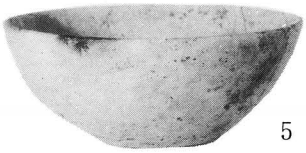
D区3号住居址出土遺物


1

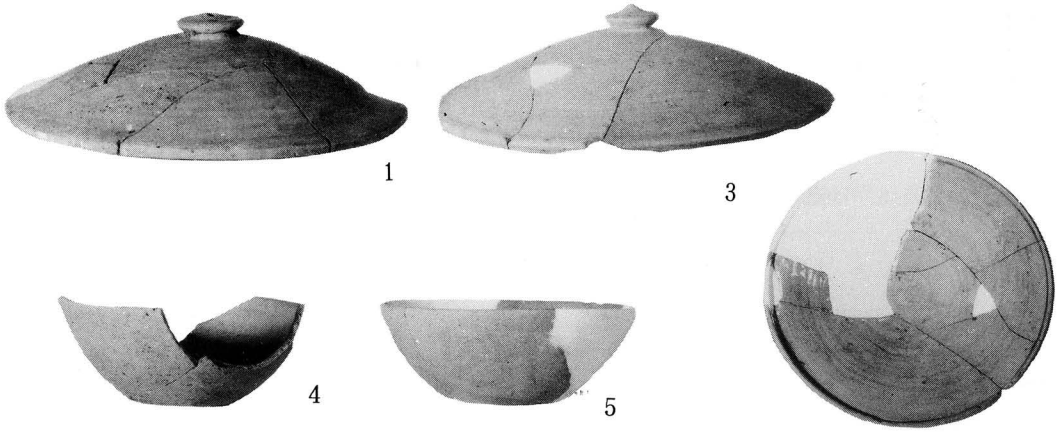

2


3

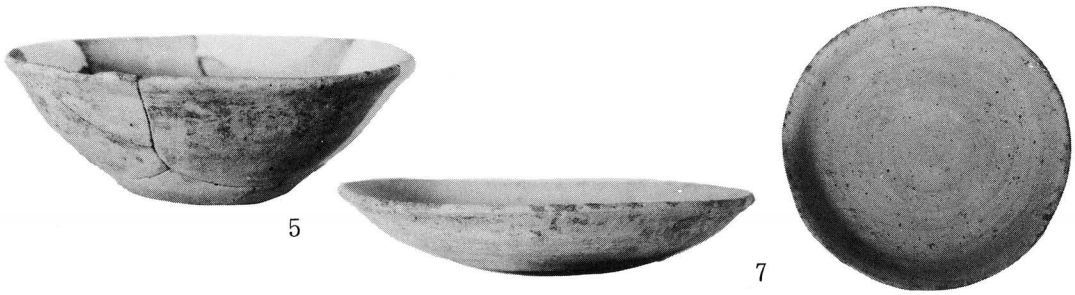

4


5

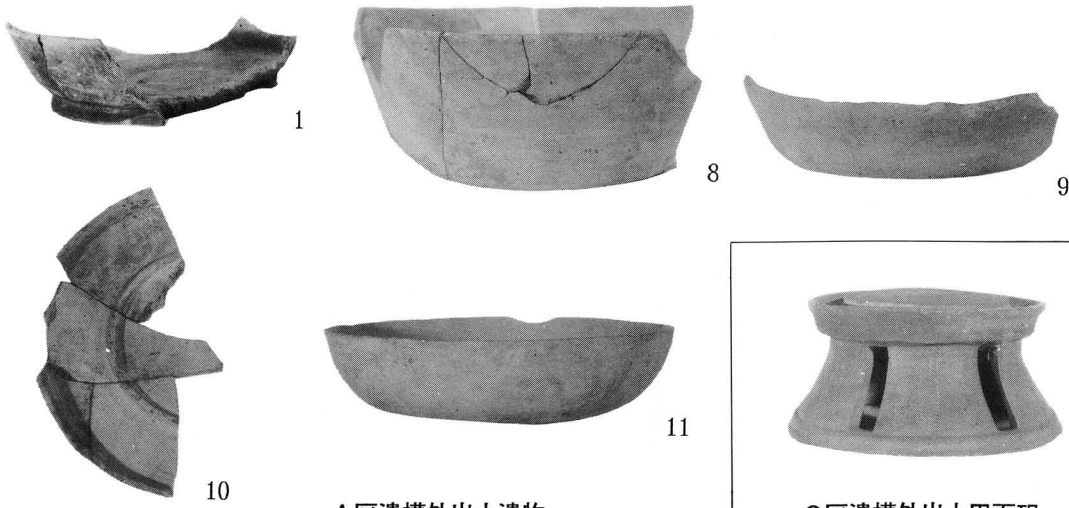
D区4号住居址出土遺物



D区5号住居址出土遺物



D区6号住居址出土遺物



A区遺構外出土遺物

C区遺構外出土円面硯

後田遺跡（うしろだいせき）

発行日　平成元年3月31日
発　行　韮崎市教育委員会
〒407 山梨県韮崎市水神一丁目3番1号
TEL 0551－22－1111㈹
印　刷　アートプリント社